新刑法刑事訴訟法附監獄法則傍訓註釋

258
707

036034－000－4

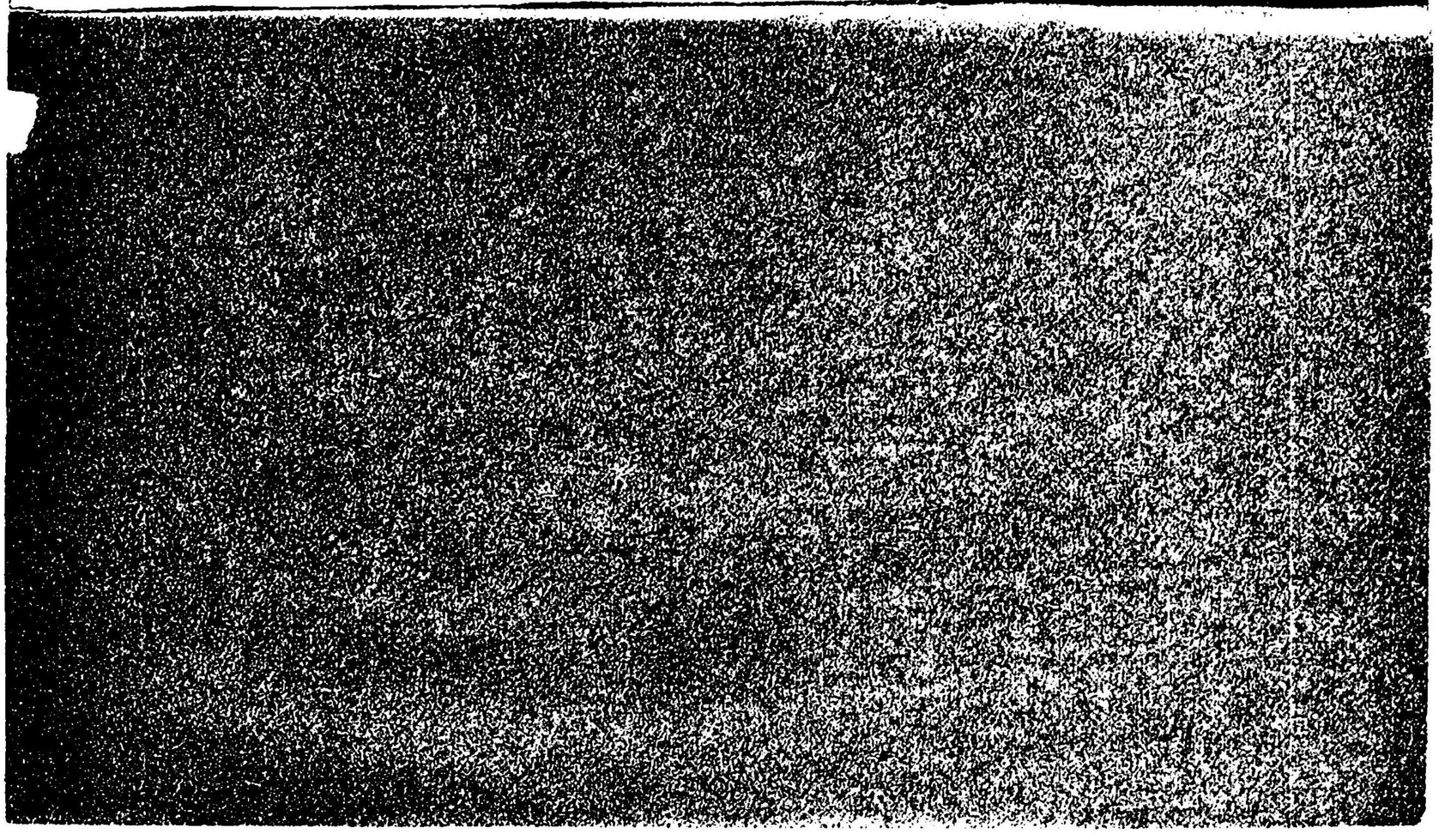
特14－174

新刑法刑事訴訟法註釈

大久保　忠智／著

M41

BBP－0662



特 14
174

刑法註釋目錄

第一編　總則

第一章　法例……一
第二章　刑……八
第三章　期間計算……一一
第四章　刑ノ執行猶豫……一一
第五章　假出獄……一二
第六章　時效……一四
第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免……一五
第八章　未遂罪……一七
第九章　併合罪……一七
第十章　累犯……二〇
第十一章　共犯……二二
第十二章　酌量減輕……二三
第十三章　加減例……二四

明治
41 9 8
[illegible]

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪……一一五
第二章　內亂ニ關スル罪……一一六
第三章　外患ニ關スル罪……一一八
第四章　國交ニ關スル罪……一二九
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪……一三〇
第六章　逃走ノ罪……一三一
第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪……一三三
第八章　騷擾ノ罪……一三三
第九章　放火及ヒ失火ノ罪……一三四
第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪……一三八
第十一章　往來ヲ妨害スル罪……一四〇
第十二章　住居ヲ侵ス罪……一四二
第十三章　秘密ヲ侵ス罪……一四三
第十四章　阿片煙ニ關スル罪……一四四
第十五章　飲料水ニ關スル罪……一四五
第十六章　通貨僞造ノ罪……一四六
第十七章　文書僞造ノ罪……一四八
第十八章　有價證券僞造ノ罪……一五一
第十九章　印章僞造ノ罪……一五二
第二十章　僞證ノ罪……一五三
第二十一章　誣告ノ罪……一五四
第二十二章　猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪……一五五
第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……一五八
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……一五九
第二十五章　瀆職ノ罪……一六〇
第二十六章　殺人ノ罪……一六一
第二十七章　傷害ノ罪……一六二
第二十八章　過失傷害ノ罪……一六三
第二十九章　墮胎ノ罪……一六四

第三十章　遺棄ノ罪……六六
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪……六六
第三十二章　脅迫ノ罪……六七
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪……六八
第三十四章　名譽ニ對スル罪……七〇
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪……七一
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪……七三
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪……七四
第三十八章　橫領ノ罪……七五
第三十九章　贓物ニ關スル罪……七六
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪……七六

刑法註釋目錄　終

刑事訴訟法註釋目錄

第一編　總則……一
第二編
第一章　裁判所ノ管轄……一八
第二章　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避……二三
第三編
第一章　捜査……二五
第一節　告訴及ヒ告發……二七
第二節　現行犯罪……二九
第二章　起訴……三三
第三章　豫審……三六
第一節　令狀……三八
第二節　密室監禁……四九
第三節　證據……五〇
第四節　被告人ノ訊問及ヒ對質……五三

第五節　檢證、捜索及ヒ物件差押……五七
第六節　證人訊問……六五
第七節　鑑定……七七
第八節　現行犯ノ豫審……七九
第九節　保釋……八五
第十節　豫審終結……八九
第四編　公判……九九
第一章　通則……九九
第二章　區裁判所公判……一一九
第三章　地方裁判所公判……一三二
第五編　上訴……一三六
第一章　通則……一三六
第二章　控訴……一三九
第三章　上告……一四八
第四章　抗告……一五八
第六編　再審……一六〇
第七編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……一六五
第八編　裁判所執行、復權及ヒ特赦……一六七
第一章　裁判執行……一六七
第二章　復權……一六九
第三章　特赦……一七二
附則

監獄則目錄
監獄則……一
施行細則
第一章　規程……九
第二章　役法及時限……一四
第三章　工錢……一六
第四章　給與……一六
第五章　衛生及死亡……一九
第六章　書信及接見……二一
第七章　差入品……二二
第八章　敎誨……二三
第九章　賞譽……二三
第十章　懲罰……二四

刑法註釋

第一編總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

（註）如何ナル人ニテモ日本帝國內ニ罪ヲ犯シタル時ハ此ノ刑法ニ服スヘキナリ

②帝國外ニ在ル帝國船舶內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二　第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三　第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四　第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

大久保忠智　註釋

五　第百五十四條、第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪

六　第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪

七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項ノ未遂罪

第百六十六條第二項ノ未遂罪

一(註)　第七十三條ヨリ第七十六條ハ皇室ニ對スル罪ナリ即チ外國ニ在リテ我皇室及皇族ニ危害或ハ外國ノ新聞雜誌ニ不敬ノ文字ヲ記載セル者又ハ冊子ヲ出版セシ者

二(註)　第七十七條ヨリ七十九條ハ內亂ニ關スル罪ニシテ我朝憲ヲ紊シ政府ニ反抗セル暴徒ニ組シタル者

三(註)　外患ニ關スル罪ニシテ我カ帝國ト外國トノ間ニ戰端ヲ開キタル場合ニ敵國ニ組シテ帝國ニ敵對シ或ハ間諜トナリ或ハ帝國ノ機密ヲ敵國ニ漏シ兵器彈藥ヲ送リタル者ハ此ノ罪ニ處セラル

四(註)　外國ニ在リテ帝國ノ貨幣、紙幣銀行券ヲ變造シタルモノ

五(註)　外國ニアリテ我天皇ノ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書及ヒ其他ノ文書ヲ僞造シカル者、及ヒ其他ノ公務ニ關スル文書圖畫ヲ僞造行使シ或ハ行使セントスルモノ

六(註)　外國ニ在リテ行使ノ目的ニテ帝國ノ有價證券ヲ僞造變造シタル者又ハ虛僞ノ書キ入ヲ爲シタルモノ

七(註)　外國ニ在リテ使用ノ目敵ヲ以テ御璽國璽御名ヲ使用シタル者或ハ公務所ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル者ニ適用セラル

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

(註)　日本帝國臣民カ外國ニ在リテ犯罪シタル時ハ左ノ罪ニ服スヘキモノトス

一　第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

(註)　帝國臣民ニシテ外國ニ在リテ放火及失火シタルノ罪

二　第百十九條ノ罪　(註)　溢水及水利ニ關スル罪

三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪

（註）他人ノ印章及ヒ文書ヲ僞造行使シタルモノ

四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

（註）行使ノ目的ニテ他人ノ印章署名ヲ不正ニ用ヘタルモノ

五　第百七十六條乃至第百八十一條、第百八十九條及ヒ第百八十四條ノ罪

（註）婦女ヲ姦婬シ或ハ之ニ因テ死傷セシメタルモノ

六　第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

（註）人ヲ殺シタル者或ハ父母ヲ殺傷セルモノ

七　第二百四條及ヒ第二百六條ノ罪

（註）人ヲ傷害シタル者或ハ之ニ因リテ死ニ致シタルモノ

八　第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

（註）外國ニ在リテ醫師、産婆、藥劑士カ婦女ノ依賴ヲ受ケテ墮胎セシメタル者

九　第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

（註）外國ニ在リテ自己カ責任アル老人、幼者、或ハ病人、及ヒ不具者ヲ遺棄シテ必要ナル保護ヲ爲サヽル者

十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

（註）無理ニ人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ監禁シタル者

十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

（註）略取及ヒ誘拐ノ罪ナリ即チ外國ニ在リテ未成年者及ヒ營利、猥褻ノ目的ニテ人ヲ略取シ或ハ外國ニ賣買シ又之ヲ藏匿シ其ノ罪ヲ幇助シタルモノ

十二　第二百三十條ノ罪

（註）事實ヲ公ニシテ人ノ名譽ヲ毀損シタル者

十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百四十條及ヒ第二百四十一條ノ罪

（註）窃盜及ヒ強盜罪ニシテ、人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜ミタル者ハ強盜罪ヲ以テ罪セラル、第二百四十二條ハ強盜、婦女ヲ強姦シタル罪ニシテ之ニ因リテ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處セラル

十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

（註）人ヲ欺キテ物品ヲ詐取シ又ハ恐喝シタルモノ

十五　第二百五十三條ノ罪

（註）横領ノ罪ニシテ他人ノ物品ヲ勝手ニ所有シタル者

十六　第二百五十六條第二項ノ罪

（註）不正物品ノ運搬、故買又ハ牙保ヲ爲シタルモノ

○帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

（註）日本以外ノ地ニ於テ我カ日本人ニ以上ノ犯罪ヲ爲シタル外國人モ又此ノ刑ニ服ス

ヘキモノトス

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

（註）外國ニ在ル帝國ノ官吏ヲ云フ

一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

（註）拘禁セル者ヲ看守若クハ他ヘ護送ノ途中彼等ヲ逃走セシメタル者

二　第百五十六條ノ罪

（註）官吏若クハ帝國政府ノ役員ニシテ行使ノ目的ニテ官文書ヲ僞造又ハ變造シタル者

三　第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

（註）濟職罪ニシテ裁判警官等カ罪人ニ陵虐若クハ暴行ヲ加ヘテ死傷セシメタル場合ニ適用セラル

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付テ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス

但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

（註）罪ニ依リテ既ニ裁判ヲ受ケタル者ニシテ更ニ同シ罪アリシ時ハ更ニ罪ヲ受クルモ場合ニヨリテ其ノ一方ノ減輕、免除ヲ受クル事アルヘシ

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其

他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章　刑

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條　主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス

モノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條　死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條　懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

第十三條　禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第十四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條　罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條　拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

第十七條　科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條　罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡スヘシ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間內罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

（註）罰金又ハ科料金ヲ申渡サレタルモ其納金期間ヲ過キテ之ヲ納ムル能ハサルトキハ監獄署ノ勞役場ニ入リテ勞金ニ代ユルモノトス

第十九條　左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一　犯罪行爲ヲ組成シタル物

二　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

（註）罪ヲ犯シタル物品ニシテ例ヘハ人ヲ害セントスル時ニ用ヘタル及物ト云フカ如キ者

第二十條　拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條　未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

（註）裁判確定セスシテ未決ニ拘留セラレタル日數ハ裁判確定ノ後チ其拘留中ノ日數モ本刑ニ加ヘラルヽ事アレハ確定後ノ本刑ヨリ拘留中ノ日數ヲ差引カルヽ事アルヘシトノ意ナリ

第三章　期間計算

第二十二條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條　受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章　刑ノ執行猶豫

第二十五條　左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間內其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

（註）執行猶豫トハ被告人ノ情狀ニ因リテ今日既ニ裁判ノ確定シテ例ヘハ三ケ年ノ禁錮ヲ受ケルモ其ノ刑ノ執行ヲ向フ一ケ年或ハ二ケ年ヲ延期スル事ヲ謂フ

一　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以內ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一　猶豫ノ期間內更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

（註）猶豫ハ則チ特典ナリ此ノ特典アルニ拘ハラス他ニ犯罪行爲アリタル時或ハ其ノ未發ノ罪ノ覺ハレタル場合ハ其特典ヲ取消サルヽト共ニ直チニ刑ニ服スル者トス

第二十七條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルヽコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章　假出獄

第二十八條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改俊ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四　假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條　拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

（註）行狀謹直ニシテ他ノ摸範トナル如キモノ

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章　時效

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條　時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間內其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條　時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間內ハ進行セス

第三十四條　時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

（註）謂ユル正當防衛ニシテ自己ノ危急ヲ防クカ爲メニ已ムヲ得サル場合例ヘハ自己ヲ

傷ケントシテ迫リ來ル對手ヲ防クカ爲メニ彼ニ傷ヲ負セタル等ノ如キ場合

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從ッテ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕ス

（註）帝國臣民トシテ一國ノ法律ヲ知ラヌト云フ事ハ出來ヌモノナレハ之ヲ援スル樣心掛クヘシ

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ニ首服シタル者亦同シ

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ハ其刑ヲ減輕ス

第八章　未遂罪

第四十三條　犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條　未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

（註）罪ヲ犯サントシテ俄ニ其非ナルヲ悟リ正シキ心ニ返リテ其ノ行爲ヲ止メタル者ハ罪ヲ減セラルヽカ或ハ全ク免サルヽ事アルヘシ

第九章　併合罪

第四十五條　確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

（註）刑法ノ各條項ニ對スル數種ノ罪ヲ犯シタルモノ

第四十六條　併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

（註）死刑ハ極刑ナレハ其刑既ニ定マリタル後ニ於テ他ノ犯罪發覺スルモ死刑以上ノ極刑ナケレバ他ノ刑ハ科セラレサルモ其ノ犯罪ニ係ル物品ハ沒收セラルヽ事アルヘシ

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條　併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

（註）數種ノ罪ヲ犯シタル中其ノ二個以上ノ刑ニ各々懲役、禁錮等アル時ハ一方ノ長キ刑ニ其ノ半數ヲ加ヘテ科セラルヽヘシ

第四十八條　罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條　併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條　併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

（註）二個ノ罪ヲ犯シ一方ハ既ニ裁判ニテ刑ノ定リタル時ハ他ノ一方ノ未タ裁判ノ定マラヌモノニ對シテ更ニ刑セラルヘシ

第五十一條　併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

キハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

（註）數種ノ犯罪アリシ時ハ其罪ヲ合セテ裁判セラルヘシ他ハ第四十七條ト同シ

第五十二條　併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

（註）二個以上ノ罪ヲ犯シアル者ニシテ大赦令ノ下リシ時其一個ノ罪ハ大赦令ヲ受クヘキモ他ノ一個ノ罪ハ之ヲ受クヘキ資格ナキ時ハ其ノ無キ方ノ罪ニ服スモノトス

第五十三條　拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

（註）各種トモ合セテ罪セラルヽ事ナリ但シ第四十六條ハ死刑ナレハ之ヲ別トス

第五十四條　一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルヽトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第五十五條　連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルヽトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章　累犯

第五十六條　懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

（註）再犯罪トハ二度目ノ罪ナリ世ニ刑罪程怠ムヘキモノハナシ何人モ注意シテ斯ル罪人トナル勿レ

第五十七條　再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條　裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルコトハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條　三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章　共犯

第六十條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

（註）正犯トハ主動者タルモノヲ云フ故ニ二人以上共同シテ其ノ犯罪ヲ實行シタルモノハ凡テ主動者タル正犯ヲ以テ罪セラル

第六十一條　人ヲ敎唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

敎唆者ヲ敎唆シ又ハ自己ノ意志及ヒ主謀ヨリ出テ他ニ犯罪ヲ敎ヘタルモノハ正犯ト見ラル而シテ其ノ敎ヘタル者ニ又敎ヘタルモノモ正犯ニ論セラル

（註）自己ハ直チニ手ヲ下サストモ他ノ人ヲ敎唆者亦同シ

第六十二條　正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ敎唆シタル者ハ從犯ニ準ス

（註）自己ハ其犯罪ニ實行セストモ其ノ實行ニ力ヲ脇セタル者又其ノ力ヲ脇セタル者ニ組シタル者ハ從犯ナリ

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條　拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ敎唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條　犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

（註）互ニ身分ノ相違セル者ト雖モ其ノ罪ヲ作成シタル身分アル者ニ加ハリタル身分ノナキ者ト雖モ共犯ナリ

第十二章　酌量減輕

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ減輕スルコトヲ得

第六十七條　法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

（註）犯罪アルモ其行爲カ公共ノ爲メトカ或ハ父母ノ爲メトカ惡意無キ行爲又ハ事情ノ特ニ察スヘキ者ハ其ノ刑ヲ輕クセラルヽ者ナリ

第十三章　加減例

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一　死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四　罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五　拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六　科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

（註）犯罪人ニシテ二個以上ノ刑名アリシ時ハ其ノ減輕セラルヘキ刑ヲ定メテ然ル後ニ減輕セラル

第七十條　懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄シ罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條　酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

（註）第六十八條ニ一個又ハ數個ノ原由アルトキノ例ヲ示シアリ相對照スヘシ

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一　再犯加重

二　法律上ノ減輕

三　併合罪ノ加重

四　酌量減輕

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第七十三條　天皇、太皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘ

ントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

（註）皇室ハ尊嚴ニシテ犯シ奉ルヘキニアラス我カ忠君愛國ノ臣民ハ元ヨリ之ヲ知ルト雖モ時ニ或ハ直訴ト稱シテ狂態ヲ演スル者アリ斯ノ如キハ深ク愼テ斯ル行爲ヲセサル樣注意スヘキナリ

第七十五條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章　內亂ニ關スル罪

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從ツテ處斷ス

一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其他單ニ暴動ヲ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

（註）多數ヲ集メテ政府ニ叛キ或ハ朝憲ヲ紊スカ如キ或ハ徒黨ヲ集メテ交通ヲ障ケ市區ヲ騷カシメタル者ハ內亂ノ罪トナス

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

（註）以上ノ用意ヲナシ或ハ事ヲ起サントシテ發覺シタルモノ

第七十九條　兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

（註）既ニ內亂ノ用意ヲ爲スモ其ノ非ヲ悟リテ自首シタル者

第三章　外患ニ關スル罪

第八十一條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條　要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、鐵車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條　敵國ノ爲メ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章　國交ニ關スル罪

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下

ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞除却又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）倒ヘハ警官カ犯人ヲ捕縛ニ向ヒタル時カ執達吏カ職權ヲ以テ執行ニ趣キタル時ニ亂暴ノ行爲ヲ以テ其ノ職務ヲ妨ケタル者

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）其ノ一例ヲ云ハンニ先ツ執達吏カ其ノ職務ノ執行ニ來リタル時其ノ面前ニ暴言或ハ惡口ヲ以テ之ヲ辱メ或ハ其役場ニ於テ亂暴シ、或ハ職權ニテ封印シタル者ヲ破リテ其ノ封印ヲ無效ナラシメタル者

第六章　逃走ノ罪

第九十七條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

（註）既ニ刑ノ定マリタル者ハ更ニ逃走ノ罪ヲ受クヘク未決ノ者ハ更ニ重キニ處セラルヘシ

第九十八條　既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若ク
ハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役
ニ處ス

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容
易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

（註）第百條ハ犯人ヲ奪フテ逃走セシメタル者第百一條ハ既ニ拘禁セラレタル者ヲ逃走
セシメンカ爲メニ逃走ニ便アル器具ヲ差入シ若クハ與ヘタル者

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルト
キハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）巡査或ハ看守ニシテ其犯人ヲ他ヘ護送スルノ途中ニ之ヲ取リ逃シタル者、又是ヲ
逃走セシメントシテ果サヽル者

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セ
シメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ
證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）犯罪ノ證憑トナルヘキヲ知リツヽ、其ノ證憑ヲ破リ或ハ火ニ投シテ無キモノトシ或
ハ僞造、變造シテ使用ヲ妨ケタル者

第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタル
トキハ之ヲ罰セス

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多數衆合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）多數ヲ集メテ其ノ暴行ヲ指圖シタル者ハ首魁ナリ、解散スヘキニ解散セスシテ徒黨ニ從テ橫行セル者ハ附和隨行ナリ

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルト雖モ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）官吏ノ命ニ從テ直チニ解散セシ時ハ其ノ目的ノ種類ニヨリ無罪トナル事アリ

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第百八條　火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、滊車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

（註）放火ハ最モ慘害ヲ極メル者ニシテ其ノ罪實ニ惡ムヘキモノナリ殊ニ人ノ住居セル家屋及ヒ交通機關ヲ害スルカ如キハ其罪極テ大ナリ

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百十二條　第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）放火ノ目的ヲ以テ事發覺シ未遂ニ終ルモ其ノ行爲既ニ放火ニアレハ罰セラルヽ者トス

第百十三條　第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除ス

（註）火ヲ放タサルモ其ノ用意ヲ爲シタルモノモ又罪セラル然レトモ其ノ情狀ニ於テ憐ムヘキ等ノ事情アル時ハ刑ヲ減セラルヽカ或ハ許サヽル事アリ

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

（註）火災ノ場合ニ消防用ノ物品ヲ隱匿破損シタル者ハ更ニ火勢ヲ助長セシムルト同シ者ナレハナリ

第百十五條　第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

（註）自己ノ所有家屋ニシテ他人ニ賃貸シアル家、若クハ保險ヲ附シアル家ニ放火シタル時ハ例ヘ自己ノ所有家屋ナリトモ他人ノ家屋ニ放火シタルト同一ナリ

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百十條ニ記載シタル物又ハ第百十一條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

（註）自己ノ家ヨリ火ヲ失シテ第百九條ナル人ノ住居セル家屋及ヒ瀛車、電車、艦船、鑛坑ヲ燒燬シタルモノ同シク人ノ住居セヌ家屋物件ヲ燒キテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者

第百十七條　火藥、瀛鑵其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百九條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

（註）以上ノ如キハ最モ危險ナルモノニシテ例ヘ過失ヨリ生スルモ失火ノ例ヲ以テセラルヘシ

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸滊ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸滊ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

（註）瓦斯、電氣等漏出ハ時ニ火災ヲ起シ或ハ人命ヲ害スル事アリテ只ニ失火罪ニ止マラサル事アリ注意スヘシ

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、滊車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十一條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

（註）水害ノ際ニ於テ其非常用ニ備ヘアル物品或ハ他ノ目的ヲ以テ其ノ水防ヲ防ケ及堤防等ヲ破損シタルモノ

第百二十二條　過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）人ノ住居、滊車、電車其他人ノ管理スル物件ヲ損害シタル場合ヲ云フ

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）堤防ハ水害ノ非常用ニ備ヘタルモノナレバ是ヲ決潰スル時ハ水害ヲ及ボスト同一ナリ又水害ノ際ニ自己ノ地ヲ利センカ爲メニ對岸ノ堤防ヲ破リ或ハ水閘ヲ破リテ慘害ヲ及ホシタル場合ニ適用ス

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條　陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ防害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從ヒテ處斷ス

（註）道路ヲ破損、又ハ塞キテ人車ノ通行ヲ妨ケ河川ヲ損シ或ハ閘止メテ船舶ノ航路ヲ害シ橋梁ヲ破損シテ通行ノ人車ヲ危カラシメ或ハ之ヲ塞キテ往來ヲ妨害スル等ノ行爲アリタルモノハ此ノ刑ニ處セラル

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ瀕車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同

（註）鐵道線路ニ木石ヲ横ヘテ瀕車、電車ノ進行ヲ害シ或ハ標識ヲ破壞シテ危害ヲ及ボシ或ハ燈臺及ヒ海上ノ浮標ヲ防ケテ艦船ノ往來ヲ危フセルモノ

第百二十六條　人ノ現在スル瀕車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者ハ死刑又無期懲役ニ處ス

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタルノ罪

（註）前述ノ行爲ニヨリテ人命ヲ害シタル者亦同シ

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ瀕車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條　第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）各前條ノ行爲ヲ目論見ツヽ未ダ實行セサルニ發覺セル者ハ未遂罪トシテ罪セラル

第百二十九條　過失ニ因リ瀕車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ瀕車、電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）其業務ニ從事スル者トハ例ヘハ船舶ナレハ其乘組船員瀕車ナラハ其ノ役員、事務員、驛夫、工夫等ノ如キモノ

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）人ノ家宅及ヒ艦船ニ侵入シテ退去ノ要求ヲ受クルモ動セサル時ハ即チ家宅侵入罪ナリ

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）神聖ニシテ犯スヘカラサルモノヲ侵ス罪

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）封印セル他人ノ信書及ヒ郵便物ノ書狀ヲ其ノ人ノ承諾ナクシテ開封シ或ハ本人ノ拒ムヲ無理ニ開披シタルモノハ右ノ罪ニ處セラル

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ祀禱ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ亦同シ

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

（註）依頼ヲ受タル人ノ秘密ヲ他ヘ漏シ其レガ爲メニ其ノ不利トナリ損害トナリ名譽ヲ損スル如キ場合ニ其ノ本人ヨリ告訴シタル時ハ以上ノ刑ニ處セラル

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十八條　稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十九條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十條　阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）阿片煙ハ人体ニ害ヲ爲ス者ナレバ是ガ輸入製造販賣及ヒ之レヲ吸入スルノ器具ヲ販賣スルヲ禁ジアル者ニシテ若シ又稅關官吏等ガ之ヲ知テ輸入或ハ器具ヲ貸與シタル者ハ以上ノ下ニ罪セラルベシ

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用井ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）如何ナル手段ニ出ルヲ問ハス人ノ飲料ニ供スル淸水ヲ汚穢シ飲ム能ハサルニ至ラシメタル者ハ本條ノ罪トナルベシ

第百四十三條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用井ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三

年以下ノ懲役ニ處ス

（註）人ノ飲料ニ用ユル水ニ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ニ適用ス、又之ニ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ至ラシメタル者ハ次條ノ刑ニ處セラル

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

（註）現今通用ノ金銀銅貨、紙幣銀行券ヲ僞造變造シタルモノニ適用ス

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

僞造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

（註）前條ハ內國ノ通貨ニ付定メタルモノ本條ハ現ニ內國ニ於テ通用スル外國ノ通貨ヲ行使ノ目的ニテ僞造變造シタル者ニ適用セラル

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）其ノ僞造變造タルヲ知リツヽ之ヲ行使スル目的ニテ他ヨリ受取リタル者ハ本條ヲ

適用セラル

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第百五十三條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

（註）其ノ犯罪ノ事情ヲ知リツヽ之ニ製造ノ原料及ヒ器械ヲ準備シ貸與又ハ賣却シタル者ハ本條ヲ適用セラル

第十七章　文書僞造ノ罪

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シ又ハ僞造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル者亦同シ

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ僞造シ又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ變造シタル者亦同シ

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖書ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書若クハ圖書ヲ作リ又ハ文書若クハ圖書ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

（註）公務員即チ官吏ナリ官吏ニシテ其自己ノ爲メ又ハ他人ノ利害ノ爲メニ使用スルノ意ヲ以テ其ノ管掌ニ係ル文書圖書ヲ僞造變造シタル時ハ前條ニ依テ罪セラル

第百五十七條　公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）貸借證書契約証證、約束手形ノ如キ他人ノ印章或ハ署名ヲ僞造變造シタル者ハ本罪ニ處セラル

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章　有價證券僞造ノ罪

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ僞造

又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚僞ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第百六十三條　僞造、變造ノ有價證券又ハ虚僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章　印章僞造ノ罪

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ僞造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

（註）御璽ハ　天皇ノ御印ナリ、

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ二月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十八條　第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）御璽、國璽、御名、官印記號其他前條ノ罪ヲ犯シテ未タ行使ニ至ラサルモ罰セラルヽ者ナリ

第二十章　僞證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

（註）一例ヲ云ヘバ被告ノ證人トシテ法廷ニ出テ被告ノ利害ノ爲メニ其事實ニ虚僞ノ陳述ヲ爲シタルモノ

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

（註）前述シタル證言ノ虚僞ナルヲ悟リテ罪ノ定マラサル前ニ事實ヲ自白シタルモノハ本條ニヨリ減輕又ハ免除ヲ受クベシ

第百七十一條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

（註）人ヲ陷シ入ルノ目的ニテ虚僞ノ申立ヲナシ以テ其人ヲ刑法ノ罪人タラシメル者ハ僞證罪ト同罪ナリ而シテ其非ヲ悟リ自白シタルモノハ第百七十四條ヲ適用セラル

第二十二章　猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

（註）猥褻トハ男女間ニ於テ人ノ見ルニ忍ビザル醜体ヲ現ハス事ニシテ本條ハ公然人ノ見ル場所ニ爲シタルヲ云フナリ

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

（註）風俗ヲ紊スノ書籍圖畫例ヘハ謂ユル枕草紙、春畫、裸体寫眞等ノ如キ者ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ニ適用セラルヽ、刑ニシテ、自ラ所有スルモ之ヲ公然陳列若クハ販賣スルノ意ナキ者ハ其罪ヲナサズ

第百七十六條　十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）以上ハ強姦罪ノ規定ナリ強姦トハ婦女ノ承諾ナキニ姦淫スルノ謂ニシテ暴行脅迫ヲ以テ姦淫シタル時ハ勿論強姦ナリ又是等ノ手段ナキモ藥物或ハ酒類ヲ用ヘテ人ヲ昏睡セシメ又ハ知覺ノ心ヲ失ハシメテ姦淫シタル者モ本人ノ承諾ナキニ爲シタル以上ハ本罪ヲ以テ論セラル

第百八十條　前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

（註）前二條ニアル強姦罪ニヨリテ人ヲ死傷セシメタル者ハ本條ニヨリテ罪セラル

第百八十二條　營利ノ目的ヲ以テ姪行ノ常習ナキ婦女ヲ勾誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條　有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

（註）其ノ姦通ヲ本夫ヨリ告訴セラレタル時ニ始テ起訴セラルヽモノニシテ此ノ場合ハ姦通セル男女共ニ其ノ刑ヲ受クルモノナリト雖モ其ノ戸籍上ニ於テ本夫トノ間ニ夫妻ノ屆出ナキ者ハ姦通トナラズ又戸籍共ニ完全ナル夫妻ノ間柄ニテモ本夫其ノ姦通ヲ許シタル者ハ又其罪ナシ

第百八十四條　配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

（註）夫アル婦ニシテ公然戸籍上離婚ノ手續ヲ爲サスシテ他ニ嫁入シタルヲ重婚トナス
此ノ場合ニハ重婚シタル女ハ勿論一方ノ男子モ本條ニ因リテ罪トナル但シ其以前ニ前
夫トノ間ニ離婚ノ手續ヲナシ戸籍ヲ離別セル時ハ差支ナシ

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條　偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

（註）金錢ヲ賭ケタル花札、カルタ等ヨリ其他凡テノ賭ケ事ヲ爲シタルモノ但シ官ノ許可ヲ得タルモノ及ヒ物品ヲ賭セスシテ娛樂ノ遊戲ヲ爲シタル者ハ罪トナラス

第百八十六條　常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條　富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條　神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條　墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條　死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條　第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條　檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
（註）家族ニ變死者等ノアリタル場合ニハ直ニ官ニ届出テ其ノ檢視ヲ受ケ其ノ許可ヲ得テ後ニ之ヲ葬ムルヲ法トス若シ此ノ手續ヲ爲サズシテ、勝手ニ葬リタル時ハ本條ヲ適

用セラル

第二十五章　瀆職ノ罪

第百九十三條　公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十五條　裁判、檢察、警察ノ職權ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百九十六條　前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サヽルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

（註）本章ハ官吏及ヒ一般ノ公務ニ從フ者ニ定メタル刑ニシテ其職務ニ對シ前條ノ行ヲアル者ハ本罪ニ復スル者トス

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

（註）自己ノ父母及ヒ父母以上ノ尊フヘキ人、配偶者ハ男子ヨリ見ル妻ノ事ヲ稱ス、凡ソ人タル者其親屬ヲ敬愛スヘキハ身ノ本分ナルニ之レニ對シ犯罪ヲ爲スアラハ則チ之ヲ他ノ普通人ニ對スルニ比較レハ罪狀最モ重キ者ナレバ以テ本條ニ罪セラルルナリ、人タル者決シテ斯ノ如キ行爲ナキ樣必ス注意スヘキナリ

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二條　人ヲ敎唆若クハ幇助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條　第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）人ヲ殺サントシテ發覺シ及ヒ自己ガ父母親族ノ尊長者ヲ殺サントシテ其ノ犯行ニ至ラス發覺シタル者ハ罰セラルルナリ

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

（註）人ヲ傷害シ其ノ傷ニ因リテ死ニ致シタル者ハ前條ノ刑ニ又自己ノ父母及妻ノ父母其他親族ノ尊長者ヲ傷ケ以テ死ニ致シタル時ハ上項ノ刑ニ處セラルヽナリ

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以上ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）傷害及ヒ殺害ノ意ナクモ過チテ人ヲ傷害シ又ハ以上ノ過チニテ人ヲ死ニ致シタル者ハ前二條ノ各刑ニ論セラル

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

（註）本條ノ一例ハ先ツ電車ノ如キ其業務上注意必要ナルニモ係ラス之ヲ怠リテ人ヲ死傷セシメタル者ノ如キヲ謂フ

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

（註）未タ夫ナキニ男ト通シタル女或ハ夫ノ不在ニ於テ他ト通シタル婦女ニシテ其ノ懷妊ヲ瞞サンガ爲メニ徃々斯ノ如キ犯罪ヲ爲ス事アリ深ク注意スヘシ

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）其一例ヲ謂ハン ニ婦女ニ通シタル男子ニシテ其ノ女子ノ懷妊セルヲ知リ他日ノ彼レ是ヲ防ガン爲メニ此ノ如キ犯罪ヲ爲ス事アリ實ニ惡ムヘキ行爲ト云フベシ本條ハ即チ是等ニ當ル

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ

處斷ス

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヾルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條　前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從ツテ處斷ス

（註）本條ハ老人小兒或ハ病者、不具者ニシテ自ラ生活スル能ハサル者ヲ遺棄セシ罪ニシテ遺棄トハ必シモ路上ニ棄タルヲノミ謂フニアラス是ヲ扶助スル義務アルモ扶助セスシテ其ノ生活ノ路ヲ失ハシメタルヲ云フ而シテ此ノ場合ニ因リ死傷ニ致シタル者ハ重キニ依テ罪セラルヘシ

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自巳又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

（註）本條ハ人ノ自由權ヲ害スル罪ナリ逮捕トハ直接ニ腕力ヲ用イテ身体ノ自由ヲ拘束スルヲ云フ監禁トハ一室又ハ一所内ヲ限リテ他ニ出ツルヲ能ハサラシムルヲ云フ、依テ此ノ罪ヲ犯シタル者又之ニ因テ死傷セシメタル者ハ前條ノ罪ニ處セラルヘシ

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ

又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ爲ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

（註）脅迫トハ人ニ危害ヲ蒙ラシムヘキコトヲ通知シ人ヲシテ心ニ安心セシメサルヲ云フ之ニ因リテ人ノ業務ヲ妨ケ自由ヲ害シタル者ハ以上ノ刑ニ處セラル

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シ若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條　第二百二十六條ノ罪、同條ノ者ヲ幇助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

（註）略取誘拐トハ或ハ暴行ヲ用ヒ或ハ僞言、僞計ヲ施シテ奪取シ又ハ誘出スルヲ云フ

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

（註）一例名譽ノ毀損ニ係ル事ヲ新聞雜誌ニ投書シ或ハ公然演說シタル等ノ如キ場合ノモノヲ云フ

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

（註）一例ヲ云ヘハ商家ノ店前ニ於テ其家ノ信用ヲ害スルノ演說シ又ハ他ノ手段ヲ以テ防害シタルガ如キ即チ營業妨害ナリ

第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

（註）竊盜トハ人ノ知ラサルニ乘シ他人ノ金錢及ヒ物品ヲ不正ニ盜ミ取ルヲ云フ

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

（註）人ノ面前ニ於テ承諾ナキニ腕力或ハ兇器ヲ以テ他人ノ金錢及ヒ物品ヲ强奪シタル者ハ强盜トシテ本條ノ罪ニ問ハル

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條　强盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條　竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ强盜ヲ以テ論ス

（註）人ヲ毆打シ或ハ藥酒ヲ用ヒテ其ノ金錢物品ヲ盜ミタル者ハ本條ニ於テ強盜罪トナル

第二百四十條　強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條　強盜婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條　自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守セタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條、第二百三十六條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條　直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十六條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

（註）一家内ノ竊盜ハ其罪ヲ問ハサルモ親族間ノ竊盜ハ其ノ家族ヨリ告訴セル後ニ於テ罪ヲ定ム

第二百四十五條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

（註）一例世ニ電氣ヲ盜用シテ用途ニ使用スル者アリ斯ノ如キハ即チ本條ニ於テ論セラル

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

（註）人ヲ欺キテ即チ無キコヲ有ルカ如クニ嘘ヲ以テ他人ノ金錢物品及ヒ證證類ヲ騙取シタル者ハ本條ヲ適用セラル

第二百四十七條　他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタル

トキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

（註）知識淺キ幼年者又ハ精神錯亂シタル人ヨリ財物及ヒ書類ヲ騙リタル者或ハ物品ヲ賣却又ハ交付スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ僞リテ交付シタル者ハ本條ヲ適用セラルヽ

第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十三條、第二百四十五條及ヒ第二百四十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章　橫領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ橫領シタル者亦同シ

（註）例ヘハ他人ノ物品ヲ預リ或ハ地所、家屋等ヲ借リ不正ヲ以テ自己ノ者トナシタル如キモノヲ謂フ

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

（註）他人ノ遺レタル物、落シタルモノ或ハ河川、又ハ海上ニ漂流セル物品ヲ拾ヒテ官ニ届出ナク其儘自己ノ所有ニ爲シタル者ハ本條ノ罪トス

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル物ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金

ニ處ス

（註）本條ハ贓物、寄藏、運搬其他前條ノ罪ヲ定メタル者ニシテ贓物トハ強盜竊盜詐欺取財其他總テ犯罪ニヨリテ得タル財物ヲ云フ

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用井ス

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

（註）例ヘハ貸借證書約束手形等ノ如キ人ノ利害關係トナルヘキ文書ヲ破リ或ハ燒キ捨タル等ノ行爲ハ本條ノ罪ヲ適用セラル

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シ又ハ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從ツテ處斷ス

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物テ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條　自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

（註）例ヘハ自己ノ物品ニシテ執達吏等ヨリ差押ヲ受ケ自己ニ於テ保管中之ヲ損壞シタルカ如キ其一例トス

第二百六十三條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

刑法註釋　終

（註）刑事訴訟法トハ刑法ヲ運用スル方法ヲ規定シタルモノニシテ刑法ト主從ノ關係アリテ相離ルヘカラサルモノナリ故ニ刑法ハイカニ善良ナレハトテ刑事訴訟法ニシテ其宜キヲ得サルトキハ或ハ罪ノ有無ヲ誤認シ或ハ未決拘留反テ刑期ヨリ長キ等ノ事ヲ生シ被告人ニ少ナカラサル損害ヲ與フル事トナルヘシ故ニ一方ニハ奸惡ヲシテ法網外ニ逸セシメス一方ニハ被告人ヲシテ冤罪ヲ負ハシメサルヲ注意スヘキ也

刑法ヲ運用スル手續ヲ分チテ（一）捜査（二）起訴（三）豫審（四）公判（五）執行ノ五段トス以下順次ニ說明スルヲ見ルヘシ

◎第一編　總則

○第一條　公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルコトヲ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

（註）公訴ノ目的ハ法文ニ示スカ如ク犯罪ヲ證明セシメ刑ヲ適用セシムルニ在リ而シテ公訴ノ實行ハ檢事ノ役目ナルモ公訴權ヲ有スルモノハ社會ナリ故ニ檢事ハ社會ノ代人トナリテ公訴ヲ實行スルニ止マル社會ハ自身ニ公訴權ヲ有スルモ之ヲ行フノ能力ナキヲ以テ凡テ檢事ニ委任シテ之ヲ行ハシメタルナリ而シテ法律ニ定メタル區別ニ從フトハ犯罪ノ輕重又ハ犯人ノ身分等ニ關スル管轄ノ區別ヲ云フモノニシテ即區裁判所事件ニ付テハ仝

檢事局檢事地方裁判所ニテハ仝檢事局檢事長並ニ檢事控訴院ニ於テハ仝檢事局檢事長並ニ檢事大審院ニ於テハ仝檢事局檢事總長並ニ檢事カ公訴ヲ行フカ如キヲ云フ

○第二條　私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

（註）犯罪ノ種類ニ由リテハ唯公益ヲ害スルノミニシテ私益ヲ害セサルモノアリ設令貨幣ヲ僞造シテ未タ成ラサル罪ノ如シ然レトモ多クノ犯罪ハ公益ヲ害スルハ勿論延テ一ケ人ノ利益ヲ害スル事アリ此場合ニハ公訴權ノ發生ト共ニ私訴權ヲモ發生セサルヘカラス而シテ其目的ハ損害ノ賠償若クハ贓物ノ返還ニ在ルナリ私訴權ハ何人ニ屬スルヤト云ハ、犯罪ノ爲メニ害セラレタル者即被害者ニ屬ス即社會カ公訴權ヲ有スルト同シク一個人ハ私訴權ヲ有スヘキナリ此損害賠償ノ訴權ハ一ニ民法ノ規定ニ從フモノトス

今ヤ公訴ト私訴ノ差異ヲ略言スヘシ

（一）公訴ノ目的ハ犯罪ノ證明刑ノ適用ニ在リ私訴ノ目的ハ損害ノ賠償ニアリ

（二）公訴權ハ社會之ヲ有シ檢事ハ社會ノ代人トナリテ之ヲ實行ス私訴權ハ犯罪ニ由テ害ヲ受ケタルモノカ之ヲ有シ且自ラ之ヲ實行スヘシ

（三）公訴ハ必ラス常ニ刑事ノ管轄裁判所ニ提起セサルヘカラス私訴ハ公訴ト共ニ刑事ノ管轄裁判所ニ提起スルヲ得レトモ又別ニ民事訴訟法ニ從ヒテ民事ノ管轄裁判所ニモ提起スル事ヲ得然レトモ實際ノ便宜ヨリ云ハ刑事ノ管轄裁判所ニ公訴ニ附帶シテ提起スルヲ簡便ナリトス

○第三條　公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得

（註）前ニモ述ヘタルカ如ク茲ニ犯罪アリタリトセン社會ハ直チニ公訴權ヲ有シ檢事之カ實行ノ任ニ當ルヘク而シテ其犯罪ニ由リテ害ヲ受ケタル即被害者カ告訴セサル間ハ檢事自由ニ公訴ヲ起スヲ得サルノ道理ナク又害ヲ受ケタル者カ一旦告訴シタルモ後ニ至リテ告訴ヲ取下ケタレハトテ公訴カ消滅スルトイフ道理ナシ是レ公訴ハ不羈特立ノモノニシテ被害者ノ告訴ノ有無又ハ拋棄スルト否トハ敢テ問フトコロニアラサル原則ヲ示シタルモノナリモシ之ニ反シ被害者ノ告訴ナキトキハ檢事ハ公訴ヲナスコヲ得ス又被害者カ一旦爲シタル告訴ヲ拋棄シタルトキハ告訴モ亦從テ消滅スルモノトスレハ社會ノ公訴權ハ薄弱ノモノト云フヘクイカデカ社會ノ安寧秩序ヲ維持スルヿヲ得ンヤ

然レトモ是ニハ法文但書ノ如ク例外ノ場合ナシトセス刑法猥褻姦淫ノ罪有夫姦ノ罪誹毀ノ罪等ノ如キハ必ラス被害者ノ告訴ヲ待テテ然ル後檢事ニ於テ公訴ヲ提起スヘク而シテ一旦公訴ノ提起アリタルモ被害者カ其公訴ヲ拋棄シタルトキハ公訴モ亦從テ消滅スルコトナルナリ其理由ハ或ハ被害者ノ暗中ノ恥辱ヲ明處ニ傳播シ却テ被害者ヲ害スルノ恐レアリ或ハ被害者ニアヲサレハ罪ノ成否ヲ知ラサルモノアレハナリ

○第四條　私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラス公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得

（註）私訴ハ前ニ述ヘタルカ如ク損害ノ償還ヲ目的トスルモノナレハ其性質ヨリイハヽ民事ノ訴ニ外ナラス故ニ一ニ民事訴訟法ニ從ウヲ當然ナリトスサレトモ其損害タル犯罪ニ原由スルカ故ニ法律ハ實際ノ便宜ヲ圖リ公訴ノ管轄裁判所ニ於テ附帶ノ請求ヲナスコヲ許シタリ其金額ノ多寡ニ拘ハラスト明言シタルハ何ソヤ抑民事ノ訴ヲナスニハ訴訟物ノ價額ニ從ウテ裁判所ノ管轄ヲ異ニスルコアリ假令區裁判所ハ百圓以下ノ訴訟ニ限ルヨ

第五　大赦
第六　時效
（註）犯罪事實一タヒ生シタルトキハ社會ニ於ケル公訴權ノ發生スルモ永久無限ニ繼續スルモノニアラス或事實ニ由リテ消滅スルコトナル其消滅ノ原因六種アリ
第一　被告人ノ死去　俚諺ニ云ク死人ニ口ナシト死者ハ自ラ辯護スルコヲ得ス故ニ或ハ冤罪ヲ負フコトナシトイフヘカラス縱令犯罪ハ十分成立シタルモ刑罰ヲ死屍ニ及ホスノ必要ナシ刑罰ハ社會ノ安寧ヲ保護スルノ必要ヨリ來リタルモノナレハ被告人一旦死亡シタルトキハ刑罰ヲ課スルノ必要モ茲ニ消滅シタルモノナレハナリ
第二　告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄　第三條但書ノ場合ニシテ被害者カ一旦其告訴ヲ拋棄シタルトキハ官ヨリ強テ之ニ干渉シテ其事ヲ糾スヘキニアラス却テ被害者ヲ害スルコトナリテ已マムノミ
第三　確定判決　適法ノ裁判所カ言渡シタル判決カ確定シタルトモハ其判決ハ絶對的ニ眞正ナリト推定セラレ同一ノ事件ヲ再ヒ審理スルコヲ許サス判決ハ裁判官ノ言渡スモノニシテ裁判官ハ神明ニアラス故ニ其言殆ンタル事モ誤謬ナシトハ保證スヘカラスサレハ一トテ其判決ノ確定シタルニ係ラズ同一ノ事件ヲ審理スルヲ許サハ訴訟終結ノ期ナクシテ人ニ疑惑ノ念ヲ生シ安堵ノ思ヒヲナスコトナカルヘク却テ社會ノ安寧ヲ害スルコトナルヘシ故ニ一タヒ公訴アリテ判決ヲ下シ其判決確定シタルトキハ玆ニ公訴ハ消滅セシムルコトナスナリ學者之ヲ一事不再理又ハ既判力トモ稱ス
第四　犯罪ノ後頒布シタル法律ニ由リ其刑ノ廢止　犯罪ノ時ニハ刑アルヲ以テ公訴權モ發生シタリシモ其後ノ法律カ其刑ヲ廢止シタルトキハ社會ハ其所爲ヲ犯罪トセス即之ニ刑罰ヲ課スルノ必要ナク社會ノ安寧ヲ害スルニ足ラサルモノト認メタルニ外ナラス故ニ公訴權モ之ト同時ニ消滅スヘキヤ當然ナリ
第五　大赦　大赦トハ一國主權ノ實行ニ由リ或種類ノ犯罪ニ對シテ其公訴及執行ノ權ヲ拋棄スルヲ云フ大赦ハ恰カモ罪ヲ消滅セシムルト同一ノ効力ヲ有シ學者或ハ之ヲ忘罪ト稱ス
特赦ハ天皇行政ノ大權ヲ以テ有罪ノ確定裁判ヲ受ケタルモノニ對シ刑罰執行ヲ免除スルモノナルカ故ニ公訴ニハ何ノ關係ヲモ生セス蓋シ特赦アリタルト否トヲ問ハス公訴ハ確定裁判アリタルニ由リ已ニ消滅スレハナリ
第六　時効　時効ハ第八條ニ其說明ヲ闕ク
以上六種ノ原因其中一ヲ生シタルトキハ檢事ハ免許ノ言渡ヲ請求スヘク判事ハ職權ヲ以テモ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキナリ其無罪ノ言渡ヲナスヲ許サヽルハ此言渡ハ被告人ノ所爲ガ果シテ有罪ナルヤ否ヤ即本案ヲ審問スルニ及ハスシテ唯此本案外ノ原因カ發生アリタルニ由リ被告人ハ其審問ヨリ脫離スルヲ以テナリ

第七條　私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一　抛棄又ハ和解
第二　確定判決
第三　時效

（註）本條ハ私訴消滅ノ原由ヲ定メタルモノニシテ之ヲ公訴消滅ノ原由ニ此スルニ前條第一第四第五ハ私訴ニツキテハ消滅ノ原由タラス蓋私訴ハ財産上ノ請求ナルカ故ニ被告人死去シタルトキハ其財産相續人ニ對シテ請求スルヿヲ得ヘク第四第五ハ以テ被害者ノ損害ヲ償フノ効力ナキヲ以テナリ

私訴ノ權ヲ有スルモノハ被害者ナルカ故ニ被害者ハ自由ニ之ニ抛業シテ消滅セシムルヿヲ得ヘク又被告人ト和解シタルトキハ已ニ損害ヲ賠償セシムルヿヲ得唯多少ノ讓合ヲナスノミ故ニ私訴ノ權モ亦消滅セラルヘカラス之ニ反メ檢事ハ一旦起シタル公訴ヲ抛業シ又ハ和解ヲナスヿヲ得ス何ントナレハ檢事ハ公訴權ヲ有セス社會ノ代人トナリテ之ヲ實行スルモノナレハ抛業又ハ和解ハ代理人ノ權限外ナレハナリ然ラハ公訴權ヲ有スル社會之ハ抛業スルヿアルカト云ハヽ前條第四第五第六號ハ他ノ一方ヨリ觀察スレハ公訴ノ抛棄ニ外ナラサルナリ

第二第三號ハ前條ヲ參照スヘシ是刑事民事共通ノモノナリ

○第八　條公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リ成就ス

第一　違警罪ハ六月

第二　輕罪ハ三年
第三　重罪ハ十年

（註）公訴ノ時効ヲ以テ公訴ヲ消滅セシムルハ證憑ノ湮滅ト社會ノ遺忘トニ基ツク蓋シ時日ノ經過ハ物ヲ湮滅セシメ又ハ物ヲ遺忘セシムル効力アルモノナレハ若干時間公訴ヲ起サヽルトキハ犯罪ノ證憑湮滅シテ罪ノ有無ヲ誤認スルノ虞アリ且公衆之ヲ遺忘スルヲ以テ刑罰ヲ科スルノ必要ヲ失フ「必要ナケレハ訴權ナシ」ノ原則ニ由リテ公訴ヲ消滅セシムルニ在リサレトモ社會カ無罪事件ヲ忘却スルハ幾何時間ノ經過ヲ要スルヤト云ハヽ立法者適宜ノ規定ニ由ラサルヲ得ス而シテ犯罪ノ忘却ハ犯罪事件ノ重大ナルト些少ナルトニ由リテ其遲速ノ差異ヲ生スルハ別ニ恠ムニ足ラス故ニ重罪輕罪違警罪ニ從フテ各一定ノ期間ヲ區別シタル所以ナリ

○第九條　私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時效ト其期間ヲ同クス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時效ノ例ニ從フ

（註）公訴時効ハ公訴ヲ消滅セシメ私訴時効ハ私訴ヲ消滅セシムルハ已ニ見タルトコロナリサレトモ其期間ハ兩者仝一ナリトス即私訴ノ時効モ前條ノ規定ヲ適用スヘキモノトセリ蓋シ時効ノ根基タル犯罪證憑ノ湮滅ハ公訴私訴ヲ問ハス仝一ナルノ理由ニ基ツクナリ被害者無能力ナルトキ……ノ語ハ突兀タルカ如シト雖民法證據篇百廿五條以下ヲ參照

セハ其必要ナルヲ知ルヘシ蓋シ民法ニテハ無能力者ハ時効停止ノ利益ヲ得ルヿアリト雖
（無能力者ハ自ラ權利ヲ行使スルヿ能ハサルヲ以テ特別ノ保護ヲ與ヘタルナリ）然レトモ
合ニハ其期間ノ進行ヲ停止スルヿナシ犯罪證憑ノ湮滅ハ被害者ノ無能力者タルト否トヲ
問ハサルヲ以テナリ
又ハ公訴ニ附帶セス云々ハ第四條註釋參觀スヘシ
然レトモ已ニ公訴ニ付刑ノ言渡アリタルトキハ證憑湮滅ノ慮ナキヲ以テ無能力者ハ時効
停止ノ利益ヲ受クル等凡テ本則ニ復シ民法ノ規定ヲ適用スルモ差支ナキヿトナル民法時
効篇ヲ參照スヘシ

○第十條　公訴、私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨ
リ起算ス

（註）公訴私訴ノ時効ハ何レヲ起算點トスヘキヤト云ハヽ犯罪ノ日ヨリ始ムヘキハ勿論ノ
事ナリ繼續犯トハ直ニ所爲ヲ結了セスシテ尚多少ノ時間其所爲ノ繼續スルモノヲ云フ例
之監禁罪ノ如シ此等ノ罪ハ其最終ノ日ヨリ起算スヘキモノトス繼續犯ニツキテハ刑法第
百五十一條第二百二十九條等ヲ參照スヘシ

○第十一條　時効ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發
覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ
時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ
起算ス

（註）前條ニ從ヒテ犯罪ノ日ヨリ時効ノ期間ヲ起算スルモ時効期間過ク
中社會カ犯罪ヲ遺忘セサル事實アリタルトキハ期間ノ經過ノミヲ以テ其罪ヲ免スルノ理ナ
ナシ而シテ社會カ犯罪ヲ遺忘セサル事實ハ確乎タルカヲ具フルモノクラサルヘカラス其
事實トハ何ソヤ起訴豫審公判ノ手續アリタルヿ是ナリ而シテ檢事カ爲ス搜査處分ノ如キ
ハ此至大ノ効力ヲ失フニ足ラス告訴告發ノ如キモ亦然リ搜査起訴豫審公判ノ何物タルヲ
ハ該當ノ處ニ至リテ說明スヘク唯此ニテハ折角今迄經過シタル期間ハ此等事柄ノ爲メニ
破滅セラレテ痕跡ヲ留メサル姿トナルナリ第二項ハ別ニ說明ヲ俟タスシテ明ラカナルヘ
シ
時効ノ中斷ハ犯罪事件全體ニ効力ヲ及ボスカ故ニ茲ニ成犯罪ニ正犯從犯數人アリテ其一
人ニ對シ起訴豫審公判ノ手續アリタルトキハ其發覺セサル他ノ者ト雖時効中斷ノ本利益
ヲ受クルモノトス
期間停止トハ今迄經過シタル期間アルトキハ其効力ヲ貯存シ以後其殘期ヲ以テ進行シ前
後加算スルモノナレトモ中斷トハ今迄經過シタル期間ハ全ク其効力ヲ喪失シ以後更ニ全
期間ヲ以テ進行スルヲ云フ

○第十二條　起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經
過ヲ中斷スル効ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限

ニ在ラス

（註）起訴豫審又ハ公判ノ手續ニ與フルニ時効中斷ノ効力ヲ以テスルハ其手續ノ法律上有効ナルトキニ限ル檢事カ重罪事件ニツキ豫審ヲ求メスシテ直ニ公判ニ付シタルカ如キ又ハ公判々事ハ裁判構成法ニ背キテ裁判ヲナシタルカ如キハ其手續ハ無効ニシテ隨テ時効ヲ中斷スルノ効力ヲ付與スルニ足ラス蓋訴訟手續ヲ行フテ其規定ニ從ハス是レ犯罪事件ヲ等閑ニ附シ犯罪事件ヲ遺忘スルト同一ナルヲ以テナリ裁判所ノ管轄違ナルニ由リテ其手續ノ無効ニ屬スルハ例外トシテ其効力ヲ與フルヿトセリ裁判所ノ管轄如何ハ該當ノ所ニ於テ說明スヘシ

○第十三條　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要スルコトヲ得被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過ノ實申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマヲ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

（註）凡テ己レノ所爲ヲ以テ他ニ損害ヲ加ヘタルトキハ必ラス賠償ノ責ニ任ス是レ民法ノ原則ニシテ本條ハ被告人ガ反訴ヲ其裁判所ニ提起スルヿヲ得ル場合ヲ示シタルモノニシテ其何人ニ對シテ起スヿヲ得ルヤ曰ク告訴人告發人民事原告人是ナリ

第一被告人無罪又ハ免訴言渡ヲ受ケタルトキ　被告人カ未決拘留保釋沒收等ノ損害ヲ受ケタル場合ニハ此等ノ人ニ向ツテ賠償ヲ請求スルヿヲ得但其訴訟ノ原由カ此等ノ人ニ出テタルヲ要ス故ニ其訴訟ノ原由他ニ出テタルトキ假令世上ノ風評等ニ由リ檢事ノ搜査起訴アリタルトキハ假令民事原告人カ其公訴ニ附帶シテ私訴シタレハトテ其責ナキナリ

第二　被告人有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキ　此等ノ人カ過實ノ申立ヲナシ爲メニ損害ヲ受ケタルヲ要ス假令過實ノ申立ヲ爲シタレハトテ別ニ損害ヲ與ヘサレハ其責ナシ

此等ノ人カ其責ニ任スルニハ惡意モシクハ重過失アルヲ要ス惡意アルトキハ刑法誣告ノ罪ニ問ハルヘキハ本條ノ云ハントスル所ハ唯被告人カ損害賠償ノ反訴ヲナス場合ニ在リ重過失ハ唯民事上ノ責ヲ生スルノミ

第四項ハ通常民事ノ訴ヘハ訴訟物ノ價額ニ由リ裁判所管轄ヲ異ニスル等民事訴訟法ニ從ヒ甚タ煩雜ナレ𪜈此反訴ハ何時ニテモ被告人カ繫屬スル刑事裁判所ニ訴ヲ起スヿヲ許シ以テ簡便ノ方法ヲ與ヘタリ故ニ此方法ヲ取ラス獨立シテ民事裁判所ニ請求スルヲ得ルハ勿論亦本案ノ判決既ニアリタルトキハ必ラス特立シテ別ニ民事裁判所ニ請求セサルヲ得サルコトヽナルヘシ

第三項ハ別ニ說明ヲ待タスシテ明カナリ民事原告人ハ私訴ノ判決ニツキ別ニ上訴スルヿヲ得ルカ故ニ第三項ニ於テ規定スルノ要アレトモ告訴告發人ニハ此ノ問題ヲ生スルヿナ

ジ

○第十四條　被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡査、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メラレタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

（註）本條ハ損害ヲ與ヘタル人カ官吏ナリシ場合ニ於テ要償ノ訴ヲ起スコヲ得ルト否トヲ示ス

判事檢事裁判所書記執達吏司法警察官又ハ巡査憲兵卒カ職權上行ヒタル場合ニハ被告人縱令無罪ノ言渡ヲ受ケタルキト雖賠償ノ責ニ任セス況ンヤ免訴有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキヲヤ蓋シ此等ノ人ヲシテ通常人ト同シク賠償ノ責ニ任セシムルトキハ盡ク疑懼ノ念ヲ生シテ其職務上ノ所爲ヲ斷行スルコト能ハサラシメ社會ノ安寧ヲ保持スルニ必要アル處分ヲナスコト能ハサラシムルヲ以テナリ然レトモ被告人ニ損害ヲ加フルノ故意ニ出テ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタルトキハ其責ニ任セシムヘキヤ當然ナリ（刑法二七八條二八三條二八六條二八七條等參照）

○第十五條　此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラス但時效ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

（註）期間計算方法ハ刑事訴訟法中必要ノ規定ナリトス

（一）期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルトキ（六九條等）等其起算點ハ即時ナリ故ニ其時ヨリ幾時間ナルヲ定ムルコトナル

（二）期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルトキ（二百五十二條等）法律ハ煩雜ヲ避ケンカ爲メ初日ハ算入セスシテ次日ヨリ始マル假令本日ヨリ三日間トイフトキハ今夜零時ヨリ進行スルモノトモ

期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルト時ヲ以テスルトヲ問ハス最終ノ日休暇ニ當ルトキハ之ヲ算入セス其間期間停止シ其次日ニマテ殘除ヲ及ホスコトナルナリサレトモ時效ニハ停止ナク進行シテ已マサルヘシ其理由ハ時效ニ證憑ノ湮滅ト犯罪遺忘ニ基ツクカ故ニ期間ノ停止ヲ設クルコトナカルヘシ。第二項ハ別ニ說明ヲ要セサルヘシ

○第十六條　此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サルモノト雖モ三里以上ナルトキ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

（註）法律上ノ期間假令本日ヨリ五日間トイフハ裁判所所在地內ノ者ニ對シテ爲スフル期間ニシテ遠隔ノ地ニ在ルモノヲモ同一ノ期間ニ服從（フクシウ）セシムルハ苛酷（カコク）ナルカ故ニ本條ヲ以テ猶豫（ユウヨ）ヲ與ヘ海路陸路各々八里ヲ以テ一日程トシ八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フ故ニ法律上ノ期間五日ナルモ八里外ニシテ端數三里未滿ノ者ハ一日ノ猶豫ヲ得ルカ故ニ實際六日ノ期

間トナルナリ此三里以上ハ路程八里以上ニシテ其端數三里以上ナルトキハ尚ホ一日ノ猶豫ヲ得ルトイフニ在ルナリ

○第十七條　此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

（註）訴訟ヲ爲スニ付キ云々訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フトキハ時効ノ如キ又ハ控訴期間上告期間故障期間ヲ云フ其期間ヲ無爲ニ經過シタルトキハ其故意ト解怠トニ出ツルヲ問ハス最早訴訟ヲ爲スコヲ得サルモノナリ是レ法律ノ嚴正ヲ保ツニ必要ナリトス是ヲ期間ノ効力トイフ所謂特別ノ場合トハ第百七十三條第二百七條第二百二十四條等ヲ云フ

○第十八條　訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

○第十九條　書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

（註）民事訴訟法送達ノ章ヲ參照スヘシ今茲ニ説明セス

○第二十條　官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルヿ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカル可シ

官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ官吏、公吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ

（註）署名トハ書類ヲ作リタルモノカ自己ノ氏名ヲ書スルヲ云ヒ捺印ハ其正確ヲ證スルカ爲メ自己ノ印章ヲ押捺スルヲ云フ契印ハ書類二葉以上ニ渉ルトキ各葉ニ跨カリテ割印ヲ押捺シ以テ紙數ノ增減變換ヲ防クヲ云フ

○第二十一條　官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ外欄ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更增減ノ效ナカル可シ

（註）書類ノ原本トハ裁判言渡書ニ付テ云ハヽ裁判官ノ自ラ執筆シテ作リタルモノ正本ハ書記カ原本ヲ謄寫シ執行ノ効力ヲ與フルモノ謄本ハ更ニ正本ヲ謄寫シタルモノニテ證據ノ用ニ供スルモノナリ

改竄ハ最初ノ文字ヲ變更改作スルヲ云フ

○第二十二條　此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アリトス

○第二十三條　此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

○第二十四條　此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ規定ニ從フ

◎第二編　裁判所

○第一章　裁判所ノ管轄

（註）裁判所ノ管轄（クワンカツ）如何ハ最モ緊要ノ事ニシテ管轄違ノ裁判所カ言渡シタル裁判ニハ判決ノ効力ヲ與ヘス即裁判ナキト同一トナルカ故ニ之カ規定ハ細密ニ講究（コウキウ）セサルヘカラスサテ其管轄ニハ二樣アリ曰ク犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄曰ク土地ノ區劃（クワクダ）ニ關スル裁判所ノ管轄是ナリ以下逐次ニ說明スヘシ

○第二十五條　犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

（註）犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ニ規定シタリ今本條ニツキ要ナル部分ヲ擧ケンニ

區裁判所カ刑事ニ於テ管轄權ヲ有スル犯罪ノ種類ハ（一）違警罪（二）本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該（アタ）ル輕罪（三）刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ揭ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルヲ要セスト認メタル地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタル物

地方裁判所カ刑事ニ於テ有スル裁判權ハ區裁判所ノ權限併ヒニ大審院ノ特別權限ニ屬セサルモノ

其他詳密ノ事ハ同法ニ就テ之ヲ見ルヘシ

カク嚴密ニ管轄ヲ區別シタルモ數罪俱發ノ場合ニハ此レカ例外タリトス第二項ハ之ヲ規定シタリ假令二月以上ノ禁錮ニ該ル犯罪（地方裁判所ノ管轄）ト本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加スル二月以下ノ禁錮ニ該ル犯罪（區裁判所ノ管轄）ヲ犯シタル被告人ニ對シ同時ニ此二ケノ犯罪ニツキ訴（ベンギ）アリタルトキハ地方裁判所ハ乙罪ヲモ管轄シ同時ニ審理（シンリ）スヘキモノトス是レ實際ノ便宜（ケンギ）ニ出テタルモノニシテ「大ハ小ヲ容ル、」トノ原則ニ據リ上級裁判所ニ當然審理ノ權限（ケングン）ヲ與フルナリ附帶犯ノトキニモ此規定ヲ適用スヘキヿアリ以下該當ノ處ニテ附帶犯ノ何者タルヤヲ說明セム

○第二十六條　同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

（註）本條以下ハ土地ノ區劃ニ關スル裁判所ノ管轄ヲ規定スサテ一ノ犯罪アリテ其犯罪ノ種類即違警罪若シクハ重罪タルヲ知リ區裁判所若クハ地方裁判所ニ屬スルヲ知ルモ是レニテハ尙未タ十分ナラス區裁判所地方裁判所ハ全國ヲ通シテ其數許多ナルカ故ニ何レノ地ノ區裁判所若シクハ地方裁判所カ該犯罪ヲ管轄スヘキヤヲ知ラサルヘカラス本條ハ之ニ答ヘテ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ區裁判所若クハ地方裁判所カ之ヲ管轄ストイヘリ即該裁判所ニ於テ豫審又ハ公判ヲ行フヿヲ得他ノ裁判所ハ之ヲ行フノ權ナキモノトス

○第二十七條　數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

（註）一ノ犯罪アリテ被告人カ犯罪地ニ住居セサルトキハ前條ニ由リテモ二箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトナル況ンヤ犯罪ノ地カ數ケノ裁判所管轄地ニ跨カルカ如キ（兇徒嘯聚罪等）ヿナシトセス此等トキニハ二个以上ノ裁判所中最初ニ豫審又ハ公判ニ着手シタル者ヲ管轄裁判所ト定ムルヿトセリ是レ事理ノ當然ナルモノトイフヘシ

○第二十八條　從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄トス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

（註）犯罪ニ正犯從犯數名以上ニ至ルモ其事件ハ元來一个ナレハ一裁判所ニ於テ併セテ之ヲ管轄スル而シテ從犯ハ必ラズ正犯ヲ管轄スル裁判所ニ從ヲ是主ハ從ヲ制スルノ原則ナリ故正犯所在地ノ裁判所カ最初豫審又ハ公判ニ着手シタルトキ縱令從犯ノ所在地ニ非サルモ之ヲ併セテ管轄スルモノトス○第二項ハ別ニ說明セスシテ明カナリ

裁判所構成法云々ハ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノヲ云フ此其犯ハ皇族ニ非ス從犯ニ非サルトキト雖モ大審院ノ管轄トス是レ皇族ノ身分ヲ尊崇（ソンシウ）スルニ由ル

○第二十九條　外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ內地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

闕席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

（註）外國ニ在テ犯シタル罪ハ誥ノ本邦ノ法律ニ依テ處斷スヘキモノニアラス此區別ハ刑法草案第四條以下ニ規定シアリ就テ見ルヘシ

○第三十條　海航內ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○第三十一條　管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ識判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

○第三十二條　管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得

○第三十三條　管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付管轄權ヲ有スル裁判所其ノ趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

○第三十四條　犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ

對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○第三十五條　公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ直接ニ之ヲ爲ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定スヘシ

○第三十六條　被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ摸樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○第三十七條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

○第三十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日內ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ

◎第三十九條　前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

○第二章　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

○第四十條　判事ハ左ノ場合ニ於ケル法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ

第一　判事被害者ナルトキ

第二　判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三　判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四　判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

（註）本條ハ判事若クハ書記（四五）ヲ除斥スヘキ場合ヲ示ス夫レ裁判ハ公平無私ナルヲ要スルハ言ヲ竢モナシ然ルニ本條四ケノ場合ニハ其職務ヲ行フノ人ノ公明正大ヲ支障スル情狀（ジヤウ）アルヲ以テ法律カ當然之ヲ除斥シテ其職務ヲ行フヲ得サラシム卽裁判官一時ノ無能力トイフモ可ナルヘシ假令判事カ其情狀ニ束縛セラレス公明ノ裁判ヲ下スヲ得ルモ世人ノ嫌疑（ケンギ）ヲ受クルヲナシトセス是裁判ノ威嚴（イゲン）ヲ保ツニ必要ナル規定トイフヘシ○第一云々　別ニ說明ヲ待タス○第二云々　之ヲ詳說スレハ（一）判事カ被告又ハ被害者ト親屬ナルトキ（二）判事カ此等ノ者ノ婦ト親屬ナルトキ而シテ判事ノ婦カ此二ケノ場合ニ該當スルトキモ亦然リ　○第三云々裁判ハ證人鑑定人ノ陳述ニ由リテ心證ヲ取リタル上ニ

テ言渡スヘキモノナレハ此場合ニハ自ラ裁判スルコトナリテ其不可ナルハ辯ヲ俟タス「又ハ」以下云々ハ第二號ニ入ルヘキモノナリ法律上ノ代理人ハ無能力ヲ保護スル責任アルモノナレハ勢ヒ情實ニ引カサレテ公明正大ノ裁判ヲ下スコト能ハサルヘキナリ○第四云々　同一ノ事件ニ就テハ仝一ノ判事再ヒ之ヲ審理スルヲ得ス故ニ豫審ノ決定ニ干與シタル判事ハ公判ニ與カルヲ得ス又第一審ノ裁判ニ不服ヲ申立控訴ヲ起シタル場合ニ前審ニ干カリタル判事カ其控訴裁判所ニ轉任シタルモ其判事ハ此第二審ニハ干カルコトヲ得サラシム

此四ケノ場合ニハ法律上當然判事ハ職務ヲ行フノ能力ヲ失ス

○第四十一條　判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽ場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ　檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

○第四十二條　忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條ノ規定ニ從フ

（註）忌避トハ檢事其他ノ訴訟關係人ヨリ判事ヲシテ職務ヲ行フノ能力ヲ失ス

求スルヲ云フ故ニ（一）前條除斥ノ場合ハ勿論（二）偏頗ナル裁判ヲナスコトヲ疑フニ足ルヘキ場合ヲモ包含ス此第二ハ其場合甚タ汎シ故ニ學者（一）ノ場合ニ於テ忌避スルヲ法律上ノ忌避トイヒ（二）ヲ事實上ノ忌避ト稱セリ其區別ハ（一）ニハ果シテ偏頗ノ裁判ヲナスノ嫌疑アルコヲ疏明セスシテ其忌避有効ナルモ（二）ニハ必ラス之ヲ疏明セサルヘカラス

○第四十三條　忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辯論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續スヘシ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

（註）公判ト豫審トニ此區別アルハ豫審ノ處分（豫審判事ノ處分ニシテ辯論ヲ開クモノニアラス）ハ證憑蒐集ノ爲メ迅速ヲ要スルヲ以テナリ

○第四十四條　判事自ラ第四十條ニ定メタル原由アルコトヲ認メ又ハ回避スヘキモノト思料シタルトキハ忌避申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ

其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判ス可シ

○第四十五條　本章ノ規程ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判所ハ書記所屬裁判所之ヲ爲ス可シ

（註）回避トハ檢事其他訴訟關係人ノ請求（忌避）ヲ待タスシテ判事カ自カラ職務ヨリ除斥ラレタシト申立ツルヲ云フ其場合ハ法律上除斥ノ場合ハ勿論回避スヘキモ申立ツルコヲ得ヘキナリ忌避ノ申請ヲ裁判スル裁判所等ハ民事訴訟法第三十四條以下ヲ見ルヘシ

◎第二編　犯罪ノ搜査、起訴及ヒ豫審

○第一章　搜査

搜査トハ犯罪ノ證憑及ヒ犯人ヲ搜索シ公訴ノ提起實行ノ材料トスルヲ目的トスルモノニテ司法警察官ノ職權ニ屬ス故ニ豫審ト混同スヘカラス豫審トハ檢事カ起訴シタル被告事

件ノ證憑ヲ蒐集シ公判ニ付スルニ足ルヤ否ヤヲ決定スルヲ目的トシ豫審判事ノ職權ニ屬ス

○第四十六條　檢事ハ後ニ記載シタル告訴、告發、現行犯其他ノ原因ニ由リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證憑及ヒ犯人ヲ搜査ス可シ

○第四十七條　警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄地內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府知事ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏、公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査ス可シ

第一　警視警部長、警部、警部補

第二　憲兵將校、下士

第三　島司

第四　郡長

第五　林務官

第六　市町村長

○第四十八條　海船內ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シ

（註）檢事カ獨立シテ犯罪搜査（サウサ）ノ權ヲ有スルハ其職務上當然ナルモ警視總監（ケイシサウカン）及ヒ地方長官ト雖其各管轄地內ニ限リ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルノ權限ヲ與ヘタリ蓋全國若クハ一地方ノ安寧秩序ニ關スル犯罪アルニ方リテハ行政官タル此等ノ人ニモ此權限ヲ與フルハ已ムヲ得サルモノトイフヘシ而シテ東京府知事ハ司法警察官タルヿナシ是レ東京ハ他ノ地方ニ異リ行政事務ト警察事務トヲ全ク分離シ知事ハ單ニ行政事務ヲ執リ警察ノ事務ハ警視總監之ヲ執ルカ故ナリ

第二項ハ檢事ヲ補佐シテ犯罪ヲ搜査スヘク檢事ノ如ク獨立シテ事ヲ行フヿヲ得サルナリ

○第一節　告訴及ヒ告發

○第四十九條　何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ卽決ヲ爲ス塲合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

（註）（一）告訴ヲ爲スヲ得サル者　犯罪ニ因リテ損害ヲ受ケタルモノナレハ男女內外國人ヲ問ハス相當官吏ニ申告スルヲ得但其人ノ自由ニシテ爲サヽルモ何等ノ責ナシ（二）告訴ヲ受タル者　犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事若クハ司法警察官ニシテ豫審判事ハ之ヲ受クルヿヲ得ス何トナレハ告訴告發アリタルニ由リ搜査處分ヲナスヘキモノハ檢事又ハ司法警察官ニ限レハナリ

○第五十條　告訴人ハ成ル可ク其證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立ツル可シ

○第五十一條　告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作リ告訴人ニ之ヲ聞カセ其ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

（註）署名捺印シタル書面ヲ要スルハ若告訴人ニシテ惡意又ハ重過失ニ由リテ告訴ヲ爲シタルトキハ被告人ニ對シ損害賠償ノ責ヲ負フノ事實ヲ申告シタルヤヲ明カニスルニ在リ第二項ハ告訴人カ急迫ノ場合ニテ書面ヲ作ルノ暇ナク又ハ告訴人文字ヲ知ラサルモノナルトキノ救濟方法ヲ規定スルモノニシテ一ノ變則トイフヘシ

○第五十二條　官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證憑及ヒ事實參考ト爲ス可キ事物ヲ添フ可シ

（註）官吏公吏ハ一定ノ場合ニテハ職務上告發スヘキコトアルヲ示シタルナリ告發トハ被害者ニ非ル人カ相當ノ官吏ニ犯罪ヲ申告スルヲイフ而シテ其職務ヲ行フニ因リノ語ニ注意スヘキナリ例之會計檢査院ノ官吏カ途上ニ殺傷アルコトヲ認知シタルトキハ本條外ナルヤハ本條ノ正面ニ申レリト雖土木官吏カ計算ヲ以テ之ヲ告發スルハ次條常人ノ資格ヲ以テスヘキナリ故ニ其職務ヲ行フニ際シトノモノトス之ヲ告發スルハ次條常人ノ資格ヲ以テスヘキナリ故ニ其職務ヲ行フニ際シト同一視スヘカラス此場合ノ告發ハ前條ニ比スレハ嚴格ニシテ（一）必ラス其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ申告スヘク司法警察官ニ申告スヘカラス（二）告發ハ必ラス書面ヲ要シ口頭供述ヲ以テスルコトヲ得ス（三）證憑又ハ事實參考トナルヘキ物ヲ添ヘテ告發スヘク申立ソルノミニテ十分ナラス（四）迅速ニ告發手續ヲ行フコトヲ要ス（五）前條告訴ヲ爲スト否トハ被害者ノ自由ナレトモ本條ノ官公吏ハ必ス告發セサルヘカラス

○第五十三條　何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

（註）常人告發ノ事ヲ規定ス第四十九條告訴ノ規定ト差異ナシ唯告發ハ告發人所在地ノ相當官吏ニモ申告スルヲ許シタリ本條所在地ハ告發人ノ所在地ノミナラス被告所在地ヲモ併セ稱スルモノト考フ

●第五十四條　告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其効アリトス

○第五十五條　告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアルヘシ

○第二節　現行犯罪

（註）現行犯罪ハ犯罪ヲ認知（四六）スルノ最確カナル原由ニシテ搜査處分モ亦非現行犯

（告訴先發ニ由ルモノ其他世上ノ風聞新聞ノ報道等）ニ比シテ最迅速ナルヲ要ス然ラサレハ證憑湮滅シテ公訴ヲ實行スノ權ヲ失スルニ至ルサレトモ現行犯罪現行犯ノ區別ハ刑法上ニ關係ナキニアラス次下逐次ニ講究スル所ヲ見テ知ルヘシ

○第五十六條　現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現行犯ニ準スル罪ヲ謂フ

○第五十七條　重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ準ス

第一　犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルヽトキ

第二　兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體、被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スル可キトキ

第三　家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

（註）現行犯罪トハ汎ク（甲）眞現行犯（乙）準現行トヲ總稱ス（甲）ハ第五十六條（乙）ハ第五十七條ニ分揭セリ今眞現行犯ヨリ說明センニ

（甲）眞現行犯　現ニ行フ際ニ發覺シタル罪ノ現行犯タルヤ勿論ナリサレトモカク狹益ニ釋解スルトキハ實際ニ害アルヲ以テ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル犯罪ヲモ眞現行犯トセリ即罪ト爲ルヘキ所爲ヲ止メタル際又ハ之ヲ止メタルヨリ些少ノ時間ヲ經過スルモ其罪跡現在シテ犯狀ヲ認ムルニ容易ナル時間ヲ云フ假之人ヲ殺シ終リテ已ニ逃逸スルモ尙ホ被害者其地ニ在リテ被害ノ現場判然タルガ如キモ眞現行犯トス

（乙）準現行犯　現行犯ニ限ル而シテ唯重罪輕罪ニ限ル違警罪ニハ眞現行犯アルモ準現行犯ナシ此區別ノ實用ハ刑法二百六十一條以下ニ就テ見ルヘシ

第一云々　（一）逃走者アルヿ（二）一人又ハ數人カ其跡ヲ追フヿ（三）追フ者カ犯人ナリト呼フヿ夫惡事ヲ爲サヽル正當ノ人ナルトキハ逃走スルノ要ナシ故ニ此一條件ニテ犯罪者ナリト稱疑フヘキモ或ハ火急ノ用事ニテ疾走スルヤモ知レス然ルニ第二條件アルトキハ愈疑フヘキナリ然レトモ第三條件アリテ愈々犯人ニ相違ナカルヘシト推測スルヲ得ヘク亦之ヲ辨解セスシテ逃走スルカ如キハ現行犯處分ヲ許シ令狀ナクトモ之ヲ逮捕スルヲ許サヽルヘカラス

第二云々　第一號ニ照ラシテ之ヲ知ルヘシ

第三云々　（一）家宅内ノ犯罪ナルヿ（二）官吏ニ檢證處分又ハ犯人ト思料スヘキモノ（三）逮捕處分ノ請求アリタル事（四）請求者カ其家ノ戸主ナルヿノ三條件ヲ要ス

○第五十八條　司法警察官及ヒ巡査、憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名、住所

分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

(註)通例非現行犯ノ場合ニハ何レノ官吏ト雖モ令狀ナクシテ被告人ヲ逮捕スルヿヲ得サレトモ現行犯ノ場合ニ限リ急速ノ處分ヲ要シ且罪證湮滅ノ恐レアルヲ以テ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕スルヲ許シタリ而シテ法律ハ(一)重罪及禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ト(二)罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪及ヒ違警罪トニ從ヒ區別シタリ(二)ノ場合ハ之ヲ逮捕スルヲ許サス唯告發ノ手續ヲ爲スヿヲ許スノミ最モ或ル場合ニハ被告人ヲ引致スルヿヲ許セリ○巡査憲兵卒ハ司法警察官ニアラス所謂公力士ニシテ司法警察官ノ指揮ニ從フテ捜査處分ノ補助ヲナスノミ混同スヘカラス

○第五十九條　巡査、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

(註)　本條第一項ハ巡査憲兵卒ガ逮捕シタルトキノ處分ヲ規定ス司法警察官カ被告人ヲ逮捕シタルトキニモ第二項ヲ適用スヘキハ當然ナリ

第六十條　何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

○第六十一條　前條ノ場合ニ於テ違告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名、職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡査憲兵卒ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡査憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ被告人又ハ巡査憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

(註)　現行犯ノ場合ニハ非常ノ特別處分ヲ許セリ常人ト雖モ尙其犯人ヲ逮捕スルヿヲ許セリ但其人ノ自由ニシテ義務ニ非ス前二條ノ場合ニテハ職務上必ラス逮捕セサルヘカラスト雖常人ニハ此義務ヲ負ハシムル道理ナシ故ニ逮捕セスシテ單ニ告發告訴ヲナスヲ得ヘク亦兩者共爲サヽルモ勝手ナリ但重罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ非サレハ逮捕スルヲ得サルハ前數條ノ規定ト同一ナリ

第六十一條ハ或ハ被告人カ反訴ヲ起ス場合ニ方リ逮捕シタル人ノ責任ヲ確(タシ)カメンカ爲メニ此規定ヲ設ケタルナリ或ハ惡意若クハ重過失ニテ純白無罪ノ人ヲ逮捕シタルヿアルヘシ故ニ其ノ住所氏名職業等告訴又ハ告發ノ手續等必要ナル處分ヲ規定ス

○第二章　起訴

(註)　起訴ハ檢事ノ爲スヘキ職務ニシテ公訴ノ原告人タル資格(シカク)ヲ以テ其管轄裁判所ニ被告事件ノ審理判決(シンリハンケツ)アランヿヲ請求スルヲ云フ

○第六十二條　地方裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ

第二　輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ

訴ヲ爲ス可シ

第三　裁判所構成法第十六條第二號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スヘシ

（註）前條ニテ搜査處分ノ何者タルヲ示シタリサテ搜査處分了リタル時ハ直チニ起訴ノ手續ヲ爲スモノトス而シテ犯罪ノ重罪輕罪違警罪トニ從テ其手續ヲ異ニセリ而シテ本條ハ地方裁判所檢事ニ就テ規定ス

第一云々重罪事件ハ其刑罰事体容易ナラサルヲ以テ必ラス一ト先ツ豫審（ヨシン）ヲ經サルヘカラス豫審ハ豫審判事ノ職權ニ屬シ重罪ニシテ豫審ヲ確シ直チニ公判ニ付シ判決アリタルトキハ其判決ハ違法ニシテ無効トナルヘシ

第二云々　此輕罪ハ次號ニ所謂輕罪以外ノモノヲ云フ豫審ヲ求メ又ハ求メスシテ直チニ其裁判所ニ訴ヲ起スノ二種アリ但輕重難易ノ區別ニ由ル

第三云々　此等ノ輕罪又ハ違警罪事件ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルカ故ニ地方裁判所檢事カ之ヲ區裁判所ニ送致スヘキハ勿論ナリ蓋嚴格（ゲンカク）ニ論スルトキハ此場合ハ起訴ノ手續ニアラス告發ノ手續トイフヘキ也此重罪輕罪輕罪違警罪ニツキテハ第二十五條註釋裁判所犯罪ノ種類ニ關スル管轄ヲ參照セハ詳ニ說明ヲ要セスシテ分明ナラン

○第六十三條　區裁判所檢事犯罪ノ搜査ヲ終リタル上裁判所構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事ト思料シタルトキハ區裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

（註）本條ハ區裁判所檢事カ起訴ノ手續ヲ規定ス裁判所構成法第十六條第一號ハ違警罪ニシテ全第二號ハ五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ罰ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪ナル區裁判所事件ニハ豫審ヲ用フルヲ要セス又輕罪ト雖此等ノモノハ事件簡易ナルヲ以テ亦豫審ヲ行フヲ要セス地方裁判所ニ屬スル輕罪ト雖必ラス豫審ヲ經ルニアラス況ンヤ區裁判所ニ屬スル輕罪ニ豫審ナキハ怪ムニ足ラサルナリ

○第六十四條　檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサル者ト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

○第六十五條　前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

○第六十六條　檢事豫審ヲ求ムルトキハ證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人及ヒ證人ト爲ル可キ者指示ス可ス

（註）檢事ハ地方裁判所區裁判所トヲ問ハス犯罪ノ搜査終リタルトキハ必（カナラ）ス起訴セヨト（刑法其他ス之ヲ罰スヘキ正條ナク又刑法ニ所謂不論罪ニシテ判決ニテ無罪ノ言渡アルヘキモノヲ云フ）又ヘ公訴受理スヘカラサル者（第六條イフニアラス被告事件罪ト爲ラス

公訴消滅ノ原由アルトキヲ云フ判決ニテハ免訴ノ言渡アルヘキエノヲ云フ）此無罪ト免訴ノ區別ハ前ニ詳說シタルアレハ參照スヘキナリ（第二項）第一項ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキノ處置ヲ規定ス此管轄ノ語ハ犯罪ノ種類ニ關スル管轄ト土地ノ區劃ニ關スル管轄トヲ總稱ス裁判ニハ管轄ヲ正スフノ嚴格ナルハ以下ノ條々ニ就テ之ヲ發見スヘキナリ管轄違ノ裁判所カ下セル判決ハ無效トナルヘク亦檢事カ管轄違ノ裁判所ニ起訴スルモ其裁判所ハ職權ヲ以テ却下スヘキナリ

○第三章　豫審

（註）豫審ハ起訴ノ後公判ノ前ニ爲ス起訴手續ニシテ其目的トスル所ハ犯罪ノ證憑ヲ蒐集シ其事件ノ公判ニ付スヘキ否ヤヲ決定スルモノトス

豫審判事ノ職權ニ屬ス

豫審ハ總テ秘密ニシテ迅速敏捷ノ處分ヲ要ス故ニ豫審判事一人ノ權內ニヨリテ他ノ掣肘ヲ受クルフナシ又豫審スヘキ事件ハ重罪又ハ頗雜ナル輕罪ニ限リ平易ナル輕罪及違警罪ニハ之ヲ要セス

蓋シ豫審制度ヲ設クル所以ハ錯雜煩難ノ事件ハ公判前十分其事實ヲ朋瞭ニシニ罪ノ輕重ヲ明カニシ然ル後公判ニ附スヘク若シ如何ナル事件ト雖直チニ公判ニ付スヘキモノトスレハ或ハ事實ノ點不明瞭ニシテ罪ノ有無ヲ誤認シ刑ノ權衡ヲ失スルフアルヘケレハナリ

○第六十七條　現行ノ重罪ト輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取調ヘコトヲ得ス此規定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ效ナカル可シ

（註）凡テ告ケサレハ理セスハ訴訟ノ原則ナリ故ニ豫審判事ハ檢事カ公訴ヲ起シ豫審ヲ請求スルニ非レハ豫審ニ取掛ルフヲ得ス蓋シ豫審ハ起訴後ノ手續ニシテ之ヲ請求スルト否トハ檢事ノ職權內ニ在リ檢事ノ請求ナクシテ豫審判事自ラ起チテ其處分ヲナスハ越權ナリ越權ノ所爲ハ法律上無效ニシテ其所爲ナキモノト看做ス但シ後日檢事ヨリ請求アリタルトキハ請求以後ノ處分ハ有效タルフ勿論ニシテ請求前ノ處分迄有效トナルニハアラス但現行犯ノ重罪輕罪ニハ特別ノ處分ヲ許シ檢事ノ請求ヲ待タスシテ豫審判事直チニ豫審ヲ着手スルヲ得ヘシ以下該當ノ處ニ至リテ說明スルフアルヘシ

豫審判事ノ豫審處分ニ着手スルニツキ檢事ノ請求ヲ要スルノミナラス豫審終結ノ時ニモ必ラス檢事ノ意見ヲ求メサルヘカラス而シテ此二ケノ場合ヲ除キ豫審中ハ豫審判事一已ノ技倆ヲ揮ヒ決シテ他人ニ束縛セラルヽコトナシ是レ豫審ハ迅速敏捷ヲ要スルカ故ナリ

○第六十八條　檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟記錄ヲ檢閱スルコトヲ得但二十四時內ニ之ヲ還付ス可シ

又必用アリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

（註）檢事ハ公訴ヲ實行スルノ任アルカ故ニ豫審中何時ニテモ訴訟記錄ヲ檢閱スルノ權アリ但シ一應豫審判事ニ請求セサルヘカラス豫審判事此請求ヲ受ケタルトキハ必ラス檢事ハ檢閱ノ上意見アルトキハ意

見書ヲ添附スルコヲ得ヘク但二十四時間内ニ還付(カン)スヘク然ラサレハ豫審處分ヲ延滯(エンタイ)スル
ノ害ヲ生スレハナリ又必用ナル處分ハ之ヲ請求スルコヲ得ヘクサレト豫審判事之ヲ必要(ケン)
ト思惟セサルトキハ其請求ニ應セサルコヲ得ヘク此等處分ヲ爲スト否トハ豫審判事ノ權
内(ナイ)ニ在ルヲ以テナリ

○第一節　狀令

(註)　令狀ハ被告人(時アリテハ證人鑑定人又ハ通事)ヲ召喚シ或ハ拘引シ或ハ拘留スルカ
爲メニ相當ノ職權アル司法官ノ發スル命令書ニシテ通常豫審判事ノ發スルモノタリ
又場合ニ由リ裁判所ヨリ發スルコアリ又現行犯ノ場合ニハ檢事之ヲ發スルコヲ得ヘシ而
シテ令狀ヲ分チテ三種トス曰召喚狀(セウカン)曰拘引狀(コウイン)曰拘留狀(カウリウ)是ナリ

令狀ハ凡テ重罪若クハ煩雜(ハンザツ)ナル輕罪ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ノ場合ニアラサレハ之ヲ發スル
コヲ得ス平易ナル輕罪若クハ違警罪ニ付テハ檢事ハ豫審ヲ求ムルコナクシテ直チニ起訴
シ裁判所ヨリ呼出狀ヲ發シ令狀ハ之ヲ用フルコナシ故ニ豫審處分ヲ行フヘキ犯罪ニ非レ
ハ令狀ヲ發スルコナシ

○第六十九條　豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ
先ツ召喚狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可
シ
召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遲クトモ出頭ノ日ヲ過クルコト

ヲ得ス

(註)　豫審ハ證憑ノ蒐集事實ノ發見ヲ目的トスルカ故ニ第一ニ被告人ノ訊問ヲナスヘク是
ガ爲メニ召喚狀(セウカン)ヲ發スヘキナリ召喚狀ハ被告人ニ對シ某年月日ニ出頭スヘキコヲ命令ス
ルニ過キスシテ他ノ令狀ノ如ク强制(ケウセイ)シテ執行スルノ効力ナシ是レ被告人ノ自由ヲ重ンシ
敢テ之ヲ罪人視(ザイニンシ)セサルノ主義(シュギ)ニ出ツルモノトス且召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間ニ必ラ
ス二十四時間ノ猶豫ヲ與フルニ在リ而シテ召喚狀ノ効力ハ出頭ノ日一日ニ限ル卽午前零時ヨリ午後十二時マデヲ云フ

○第七十條　豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件
ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所ノ管轄地内ニ住スルト住セサルトヲ問ハス之ヲ
(註)　召喚狀ヲ受クヘキ被告人カ其裁判所ノ管轄地内ニ住スルト住セサルトヲ問ハス之ヲ
管轄スヘキ豫審判事カ之ヲ召喚シテ訊問スルハ當然ナレトモ斯クノ如クスレハ或ハ被◉
人ノ便利(ベンリ)ヲ害(ガイ)スルノ恐(オソ)レアルヲ以テ被告所在ノ地ハ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分
ヲ依頼スルコヲ許シタリ但訊問スヘキ條件卽箇條ヲ明カニ示シテ依頼セサルヘカラス然
ラサレハ囑託ヲ受ケタル判事ハ如何ナル事件ニ就キ尋問スヘキヤヲ知ルヲ得サルヘシ被
告人其管轄地内ニ住セサル時トアレハ其裁判所ハ正當ノ土地管轄ヲ有スルコヲ忘ルヘカ
ラス假令犯罪ノ地ノ裁判所(正當管轄)ノ豫審判事カ被告人ニ對シテ召喚狀ヲ發シタルト
◉被告人他裁判所ノ管轄地内ニ住居セル場合ノ如シ

○第七十一條　豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

（註）令狀ノ第二種タル拘引狀ヲ規定ス拘引狀ハ後ニ示スカ如ク强制ノ効力ヲ有スルヲ以テ猥リニ之ヲ發スルヲ許サス先ツ召喚狀ヲ發シタルニ被告人其出頭スヘキ日時ニ出頭セサルトキニ於テ已ムヲ得ス拘引狀ヲ發シテ引致スルコトナルナリ是ヲ拘引狀ヲ發スル塲合ノ正則トス

○第七十二條　豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ塲合ニ於テ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第一　被告人定リタル人住所アラサルトキ

第二　被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ

第三　被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケンスル恐アルトキ

（註）被告人ニ對シテハ一應召喚狀ヲ發スレハ拘引狀ヲ發スル塲合ヲ生セサルヘキモ本條ハ之カ例外ヲ設ケタリ例外ハ制限解釋法ヲ用フルカ故ニ此三个ノ塲合ヲ除キテ如何ナルトキト雖前條正則ニ從ハサルヘカラス

被告人ハ罪人トイフヘカラス故ニ召喚狀ヲ發スレハ直チニ柔順出頭スヘキモノト推定スルヲ以テ前條ノ規定ヲ設ケタルモ之ニ反スルトキハ此推定モ破ルヘク從テ直チニ拘引狀ヲ發セサルカラス

第一云々　此場合ニハ召喚狀ヲ發スルニ由ナシ且必ラス正則ニ從ハサルヘカラストスルトキハ反テ時機ヲ失シ被告人ヲシテ逃亡セシムルノ恐レアルヘシ

第二云々　讀ンテ明文ノ如シ

第三云々　未遂罪トハ未タ目的ヲ遂クルニ至ラサル總テノ犯罪ヲ稱ス脅迫罪ハ刑法第三百二十六條以下ニ就キテ見ルヘシ此等ノ塲合ニハ社會ノ安寧又ハ被害者ノ財產生命等ヲ保護スルカ爲メニハ直チニ之ヲ拘引スルヲ許サヽルヘカラス

○第七十三條　拘引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

（註）本條ハ拘引狀ノ効力ヲ規定ス拘引狀執行ノ命ヲ豫審判事ヨリ受ケタルモノ（巡査憲兵卒ヲ云フ七六第三項）ハ豫審判事ノ前ニ其被告人ヲ引致スヘシ拘引狀ノ効力ハ四十八時間ノミ効力ヲ有スルモノナリ故ニ其時間經過ノ後ハ必ラス之ヲ釋放セサルヘカラス但シ四十八時間內ニ拘留狀ヲ發シタルトキハ勿論別ナリ本條ハ第六十九條二項ト對照シテ召喚狀ト拘留狀ノ差異ヲ知ルヘシ

○第七十四條　豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ拘引狀ヲ受タル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコヲ疏明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコヲ得

（註）前數條ハ召喚狀ヲ受ケタルト拘引狀ヲ受ケタルトヲ問ハス裁判所內ニ於テ尋問ヲ

受クヘキヲ本則トス本條ハ之カ例外トシテ被告人疾病其他正當ノ事由例外父母ノ病症危篤ニシテ看護ノ任ヲ盡サヽルヲ得サル場合ニハ被告人所在ニ就テ豫審判事之ヲ尋問スルヲ許シタリ本條唯之ヲ尋問スルヲ得トイフヲ以テ或ハ被告人疾病ノ全癒ヲ待テ裁判所內ニ於テ尋問スルコトヲ得ルハ當然ナリ必ラスシモ被告人ノ所在ニ就キ尋問スヘシト命令スルニ非ス

○第七十五條　拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料スルニ非レハ之ヲ發スルヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルヲ得

（註）本條ハ令狀ノ第三種タル拘留狀ヲ規定ス召喚狀拘引狀ハ其何タルヲ問ハス唯裁判所內ニ於テ被告人ヲ尋問スルノ方法ニ過キサレトモ拘留狀ハ被告人ノ身體ヲ縛束シ之ヲ未決監ニ投スルモノナレハ事体太タ重ク從テ容易ニ之ヲ發スルヲ得ス左ノ二條件ヲ要ス

第一訊問ヲ受ケタル被告人ナルヲ要ス　召喚狀ニ由リテ訊問ヲ受ケタルト拘引狀ニ由テ尋問ヲ受ケタルトヲ問ハス必ラス一應尋問ヲ受ケタル被告人ナルヲ要ス故ニ換言スレハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ發シタル上ニ非スンハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ストイフモ不可ナカルヘシ最モ其被告人逃亡シタル場合ニハ訊問ヲ要セス直ニ拘留狀ヲ發スコトヲ許シタリ之ヲ第一條件ノ例外トス

第二禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ被告人タルヲ要ス　重罪ノ刑ニ該ルヘキ被告人ハ勿論輕罪ニハ禁錮以上ノ刑ニ該ル者ニ限ルモシ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪若クハ違警罪ノ被告人ニ對シテモ拘留狀ヲ發スルヿトセンカ未決拘留却テ本刑ヨリ重キ不都合ヲ生シ被告人ニ害ヲ與フルヿ夥シク又公平ノ道ニアラザルヲ以テナリ此條件ニハ決シテ例外アルヿナキト知ルヘシ

然ラハ未決拘留ハ何ノ必要アリヤ曰ク事實ノ發見ヲ容易ニシ證憑ノ湮滅ヲ防キ刑ヲ執行スルヲ得ル等ノ便益アリ然レトモ一方ヨリ之ヲ云ハヽ被告人ハ元來罪人ニアラズ故ニ親切ニ取扱ハサルヘカラス殊ニ豫審判事ハ取調ヲ迅速ニシ其事件ヲ落着スルニ注意スルヿヲ要ス然ラスンハ被告人ヲ拘束ノ痛苦ヲ與フルヿ甚シキ恐レアリ又未決拘留ヲ受ケタルモノトカ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受クルヿ其例ニ乏シカラサルヲ以テモ拘留狀ハ必要已ムヲ得サルニ非レハ發スルヲ得サラシムヘキモノトス故ニ前述二條件具備シタレハトテ必ラス拘留狀ヲ發スヘシトイフニ非ス被告人ノ地位名望行狀等ヲ査定シタル後之ヲ發スルヤ否ヤハ判事ノ權內ニアルヘク寧ロ之ヲ發セサルコソ事理ノ當然トイフヘキモ不可ナカルヘシ

○第七十六條　總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ

又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及裁判所書記署名捺印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ拘引狀、拘留狀、査巡、憲兵等ヲシテ之ヲ施行セ

シム

（註）前數條ハ拘引狀召喚狀拘留狀ニツキ特別ノ規定ヲ設ケタルカ本條以下ハ此三種ノ令狀ニ共通ノ規定ヲ取リ間々特別ノモノヲ揭ケタリ

令狀ハ官吏ノ作ルヘキ書類ノ一ナルヲ以テ第二十條書類調製ノ規定ニ從フヘキハ勿論尙ホ本條ノ條件ヲ具備スルヲ要ス其被告事件ヲ豫シメ明示スルハ被告人ニ辯護ノ方法ヲ與ヘ且ツ拘引狀召喚若クハ拘留ノ理由ヲ知ラシムルカ爲メナリ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載スヘキハ言ヲ俟タス但召喚狀以下云々ハ氏名分明ナラサル被告人ニ對シテハ召喚狀ヲ發スルヿ能ハサルヘク故ニ但書以下ハ召喚狀ヲ發スルノ場合ニハ適用スルヿナシ

第二項ハ讀ンテ明文ノ如シ第三項召喚狀ハ必ラス執達吏之ヲ送達スヘキモノトス第十九條ニ從ヘハ書類ノ送達ニツキ特別ノ規定ナキトキハ民事訴訟法ニ從ヒ郵便ニ由ル送達ヲ爲スヿヲ許サス蓋シ送達ノ確實ナルヲ要スルヲ以テナリ拘引狀拘留狀ノ執行ハ公力士即憲兵卒巡查ノ職務ニ委スルハ被告人ノ身体ヲ拘束スルノ必要アルヲ以テナリ故ニ送達トイハスシテ執行即強制執行ノ意ヲ包含セシムル所以ナリ

○第七十七條　拘引狀、拘留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作リ巡查、憲兵卒數人ニ分付スルコトアル可シ

前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付ス可シ此場合ニ於テハ其正本ニ謄本ニ執行ノ場所日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

（註）本條ハ拘引狀拘留狀ノ執行ニ關スル特別ノ規定ナリ豫審判事ノ作ルヘキ令狀ハ通例一通タルニ止マルト雖被告人逃亡潛伏（タウボウセンプク）ノ場合ニハ巡查憲兵卒二人以上ヲ要スルヿアルヘク從テ各人ニ正本一通宛ヲ分付セサルヘカラス（令狀ノ正本ヲ所持セサル憲兵卒巡查ハ執行スルヿヲ得ス是レ正本數通ヲ作ル場合ヲ生スル所以ナリ令狀ノ正本ハ被告人ニ下付スヘキモノニ非ス巡查憲兵卒ノ此處分ハ豫審判事ノ命令ニ出テタル即適法ノモノタル證據ニシテ執行ヲ爲ス巡查憲兵卒ノ爲メニスルモノナリ故ニ其適法ノ證據ヲ被告人ニ示セハ即十分ナリトス但謄本ハ被告人ニ下付スルヿトセリ其正本謄本ニ執行ノ日時場所ヲ記載スルノ理由ハ日時ハ時効中斷ノ原理トナルヘク場所ハ執行ヲ爲スヘキ正當ノ管轄タルヲ（第七九參照）ヲ明カニセンカ爲メナリ

○第七十八條　令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查、憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其他ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルニ否トニ拘ハラス搜查調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜查ハ日出前日沒後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店、割烹店、其他夜間ト雖モ衆人ノ出入ス

ル場所ニ付テハ其公間内ニ限リ何時ニテモ捜索ヲ爲スコトヲ得

（註）本條ニハ唯令狀トアレトモ召喚狀ハ之ヲ包含セス即拘引拘留狀執行ノ爲メ被告人捜索ヲナストキノ手續ヲ示ス家宅捜索ハ人ノ家宅權ヲ侵害スルモノナレハ必要ノ場合ニ非スンハ之ヲ行フコヲ許サス且丁寧ナル手續ヲ要スルヤ言ヲ俟タス故ニ今一々其條件ヲ示サムトス

第一　令狀ヲ携帶スヘキコト　家宅捜索ハ令狀ノ執行ニ基ツクカ故ニ此條件ヲ要スルハ言ヲ俟タス假令家宅捜索ヲ爲スニ至ラサルトキト雖モ必ラス令狀ヲ携帶セサルヘカラス

第二被告人家宅内ニ潜匿シタリト思料スルコト　家宅捜索ハ證據物件ヲ發見スル爲メニ非ス被告人ニ對スル令狀執行ノ爲メナルヲ以テナリ此條件ノ家宅捜索ニ必要ナルヤ言ヲ俟タス而シテ家宅ハ被告ノ家宅ナルト他人ノ家宅ナルトヲ問ハサルナリ

第三其他ノ市町村長其他ノ吏員此等ノ者差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會アルコト　此等ノ立會ヲ求ムルハ令狀執行ヲ爲ス憲兵卒巡査ノ處分ノ正當ナルコヲ確保セシメンカ爲メニシテ一方ヨリイハヽ憲兵卒等ヲシテ不法ノ處置ヲ爲サヽシメムトノ意ニ在ルナリ

第四日出後日沒前ナルコト　夜間ハ吾人ノ靜息スヘキ時ナレハ家宅ニ侵入スルハ之ヲ許サス爲レモ家宅主人ノ甘諾ヲ得レハ其手續無効タラス承諾ハ明示ヲ要セス默示ニテ足レリトス且此條件ハ族店寓店等（其他云々ハ寄席貸坐敷等ヲ云フ）ニハ適用セス但此等ノ場合ト雖モ公開時間後ハ家宅捜索ヲ行フヲ許サス公開時間後トハ寄席ニ就キテ云ハヽハヤ日リ後ノ如キヲ云フ

第五捜索調書ヲ作ルコト　但被告人ヲ發見スルト否トニ關セス立會人ト共ニ署名捺印シ家宅捜索ノ始末書ヲ調製シ第八十三條ニ從ヒ檢事ニ差出スヘキモノトス

○第七十九條　豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知リ又ハ潜匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ巡査、憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡査、憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事、檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ムルコトヲ得

（註）本條ハ令狀ノ帶行ニ係ル規定ナルカ被告事件重大ニシテ急速ヲ要スル場合ニ限リ本條ヲ適用スルコヲ得然ラサル場合ニハ相互ノ管轄ニ從ヒ之ヲ重ンスヘク猥リニ他ノ管轄ニ侵入スルヲ得ヘカラスマタ令狀ヲ帶行スル憲兵卒巡査ハ直チニ執行處分ヲ行フコヲ得ス必ラス其被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察署ニ令狀ヲ示シ執行ヲ求ムヘシ而シテ請求ヲ受ケタル官吏ハ其令狀ノ裡面ニ執行ノ請求ヲ受ケタル旨ヲ記載シ署名捺印スヘキナリ是レ管轄ヲ正ス所以ナリ

○第八十條　豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ名檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送達シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場

合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ効ヲ有ス

（註）被告人所在ノ地ヲ覺知スル能ハサル場合ニハ各檢事長（各控訴院ニ一人ノ檢事長ヲ置ク）ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ以テ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ請求スルヿヲ得ヘシ而シテ此場合ニハ豫審判事ハ令狀ヲ發スル能ハサルヲ以テ被告人ヲ發覺シタル地ノ檢事ニ於テ逮捕狀ヲ發スルモノトス此逮捕狀ノ性質ハ拘留狀ト同一ノ効力ヲ有シ被告人ヲ拘束スルヲ得以テ豫審判事ニ送致スヘキモノトス抑逮捕狀ハ被告人刑ノ言渡アリテ裁判執行ノ爲メ檢事ノ發スル行政處分ナルヲ正則トシ本條ノ如キハ其例外タリ故ニ本條ヲ適用スル場合ハ被告事件ノ重大ナル場合ニ限リ之ヲ行フヘク些少ノ犯罪ニ迄及ホスヘキニアラズ

○第八十一條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

（註）「司法權ハ軍門ニ及ハス」ノ格言ニ基ツク豫備後備ノ軍ニ在ラサルハ現役ノ事ナリ而シテ本條ハ全ク無用ノ條文トス何トナレハ軍人ノ犯罪ハ特別裁判所即軍法會議ニ於テ裁判スルヲ以テ本法ヲ適用スヘキ場合ナシ

○第八十二條　拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得

何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取リ其證書ヲ渡ス可シ

（註）拘引狀ハ豫審判事ノ前ニ引致（七三）スルニ止マルモ拘留狀ハ監獄署ニ引致スルノ力アリ即人ヲ拘束スルヲ許シタルニ由ル

○第八十三條　令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査、憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト又執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ

巡査、憲兵卒ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

○第八十四條　拘留狀ヲ受クヘキ被告人既ニ監獄署ニ在ルトキハ執達吏ヲシテ之ヲ本人ニ送達セシムヘシ

○第八十五條　密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬、故舊又ハ辯護士ニ接見スルコトヲ得

書翰、書籍其他ノ書類ハ豫審判事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人トノ之ヲ授受スルコトヲ許サス但豫審判事又ハ檢事ハ其書類ヲ留置クコトヲ得

○第八十六條　豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノニ非スト思料シタルトキハ豫審中何時ニテモ拘留狀ヲ取消スヘシ

○第二節　密室監禁

（註）密室監禁ハ事實ノ發見ヲ容易ニシ證憑ノ湮滅ヲ防クカ爲メ被告人ヲ別室ニ拘束監置スルヲ云フ故ニ通常ノ未決拘留狀ニ比スレハ被告人ヲ束縛スルヿ過酷ナルヲモ其局ニ

當ルモノ殊ニ懲重ヲ加ヘサルヘカラス

○第八十七條　豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スル言渡ヲ爲スコトヲ得

（註）密室監禁ハ左ノ條件ヲ具備スルトキ之ヲ言渡スコトヲ得但言渡スト否トハ豫審判事ノ職權内ニ在リ命令法ニアラス

第一豫審中ナルコト　豫審終結ヲ告ケタルトキ最早密室監禁ヲ言渡スヘカラス已ニ事實發見ト證憑蒐集ノ處分已ニ熟シタルヲ以テ之ヲ言渡スノ必要ヲ見ス

第二事實發見ノ爲メ必要ナリト思料スルトキ　別ニ說明セス

第三拘留狀ヲ受ケタル被告人ナルコト　密室監禁ハ未決拘留ノ一種ナリ故ニ此條件ノ必要ナル言ヲ俟タスシテ明カナリ

○第八十八條　密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ヘ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サス

○第八十九條　密室監禁ハ十日ヲ超過スヘカラス但十日毎ニ其言渡ヲ更改スルコトヲ得言渡ノ更改スルトキハ其事由ヲ裁判所長ニ報告スヘシ

豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問スヘシ

第三節　證據

（註）本節ノ所謂證據ナルモノハ重ニ證據調ニ關スル規定ヲ揭ケタル者ニシテ豫審ニ限ラス公判ニモ準用スルヲ得ルナリ而シテ豫審ニ於テ證憑ヲ取調フルハ只其事件ト其人ニツキ公判ニ付スヘキモノナルヤ否ヤヲ決定スルニ過キス且又其言渡タルヤ豫審判事一已ノ命令ニシテ口頭辯論ヲ開キテ言渡スモノニ非ス即其言渡ヲ判決ト云ハスシテ決定ト謂フ所以ナリ公判ハ被告人犯罪ノ有無ヲ判決スルモノナルヲ以テ事件大ニ重シ故ニ豫審ニ於テハ其終結後ト雖新證憑アルニ於テハ更ニ起訴スルヲ得ルコトナシタリ

○第九十條　被告人ノ自白官吏ノ檢證調書、證據物件、證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判事ノ判定ニ任ス

（註）治罪法第百四十六條ニ曰ク

法律ニ於テハ被告事件ノ摸樣ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルコトナシ

被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ス

本條ニハ第一項ヲ刪除シタルトモ反對ノ意味アルニ非ス蓋シ昔時ニハ口供結案法ナルモノアリ口供結案法トハ明カニ白狀ヲ以テ唯一ノ證據ト定メタトヒ他ノ證據十分完備セルモ被告人ノ白狀ナキ時ハ之ヲ有罪視スルコトヲ許サス而シテ被告人ノ白狀一タヒアリタルヤ他ノ證據ヲ取調フルニ及ハス本案ハ終結ヲ告クルコトナル蓋此方法ヲ非常ニ重キヲ白狀ニ措キタルカ故ニ被告人ノ白狀ヲ得ンカ爲メニ殘酷ナル拷問ヲ行ヒ其結果タル被告人ハ其苦痛ニ耐ヘスシテ冤罪ニ服スルヲ免カレス且白狀トヲ決シテ信ヲ置クヘキニアラス被告人罪ノ輕キモノハミヲ白狀シテ他ノ重キ犯罪ヲ隱蔽スルノ手段トナスコトモア

ルヘシ故ニ此口供結案法ハ弊害百出スルヲモテ之ヲ廢シ心證結案法トナリタリ

心證トハ即判事カ虚心平氣眞實ヲ確認スルノ謂ニシテ被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件等ハ畢竟其材料タルニ過キス故ニ判事カ心證ヲ形ツクルニハ此等ノ材料ニ束縛セラルヽヿナク判事ノ良知良能ヲ以テ自由ニ判斷スルヿヲ得然ラサレハ從反テ主ヲ制スルノ不法ヲ免カレサルヲ以テナリ民事ニ於テハ或證據ハ判事ヲ束縛シ判事ハ必ラス其證據力ニ服從スヘクモシ反對ノ場合ニハ上告ノ原由トナルヿアリ然ルニ刑事ニハ此等ノ事ナシ一ニ判事ノ判斷如何ニ在ルノミ

○第九十一條　豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徵憑ヲ集取ス可シ

（註）豫審判事ハ職權ヲ以テ證據徵憑ヲ集取スルヿヲ得檢事請求アルニ非スンハ豫審處分ニ着手スルコトヲ得サレト已ニ公訴ヲ受理シ豫審處分ニ着手シタル以上ハ證憑蒐集ハ判事ニ職權ヲ以テ自由ニ之ヲ行フヿヲ得ルナリ民事ニデハ判事ハ證憑蒐集ノ權ナク唯當事者ノ提出シタル者ニツキテノミ判斷ヲ與フルニ過キス是レ民刑ノ差異ナリ被告人檢事ハ利害關係人ナルヲ以テ證據蒐集ヲ請求スルヿヲ得ヘキハ勿論サレト判事ハ其請求ニ應スル義務アリト誤想スヘカラス且證據蒐集ハ事實發見ノ爲メ必要ナル處分ニ止マルハ喋々ヲ要セサルヘシ

○第九十二條　豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人、證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判所外ニ於テ急遽ノ險書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印スヘシ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效ナカルヘシ

（註）此等證憑ヲ集取スル處分ニツキ必ラス裁判所書記或ル場合ニハ立會人ノ立會ヲ必要トス然ラサレハ其處分ハ效力ヲ失スルヿトナリ（例之時效中斷ノ效力ナキカ如シ）本條ハ一見明白詳說ノ勞ヲ取ラサルヘシ

本節ハ次節ト相對峙スルノ觀アリト雖以下第四節乃至第八節ノ通則トモ云フヘキヲ以テ敢テ節名ニ拘泥シテ誤解セサルヿヲ要ス

○第一節　被告人ノ訊問及ヒ對質

○第九十三條　豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問スヘシ但檢證ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

（註）本條以下ハ證憑蒐集ニ於ケル方法ヲ規定スルモノトス豫審判事カ公訴ヲ受理シタルトキ事實發見ノ爲メ第一ニ着手スヘキハ被告人ノ訊問トス被告人訊問ヲ猶豫スルトキハ被告人ヲシテ虚構揑造以テ法網ヲ脱スルノ恐アリ且被告人ヲ訊問スルトキハ事件ノ大体ヲ知了スルヿヲ得ルヲ以テ其他ノ檢證處分證人訊問ヲ爲スニ當リテモ大ニ便宜ナルヘシ

是ヲ以テカクノ如ク規定シタル所以ナリ但證人尋問カ急速ヲ要スル場合ノ如キハ必ラス之ヲ先ニセサルヘカラス假令證人ノ氣息將ニ絶ヘントスルトキノ如シ而シテ被告人ヲ訊問スルハ勾引狀又ハ召喚狀ヲ發シ或ハ被告人疾病其他正當ノ事由アルトキハ被告所在ノ地ニテ訊問スルヿモアルヘシ

○第九十四條　豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユヘカラス

（註）前ニモ述ヘタルカ如ク昔時口供結案法ヲ用ヒタリシトキハ唯被告人ノ自白ヲ得ンカ爲メニハ拷問ナルモノヲ設ケ被告人ノ身體ニ苦痛ヲ與ヘ以テ自白セシメンヿヲ謀リ恬トシテ其殘酷ナルヲ怪マサリキ思ウニ斯ノ如キハ縱令其自白アリト雖自白ハ被告人ノ任意ニ出テタルモノニ非レハ信ヲ措クニ足ラス否却テ苦痛ニ堪ヘスシテ認服シタルナラント推定スルコソ當然ナルヘケレ故ニ拷問制度ハ取ルニ足ラサルハ勿論却テ判事ニ於テ刑法ノ制裁ヲ受クルコトヽ成ルヘシ而シテ本條ノ言ハントスルハ此レニ在ラスシテ被告人ノ精神ニ脅迫ヲ與フルモノ即恐嚇又ハ詐言ハ當局者之ヲ爲スコトヲ許サス故ニ其自白ヲ得タルモ其自白ハ無効ノモノトナリテ已マンノミサレトモ眞實ノ事ヲ告ケ訓誨スルハ決シテ咎ムヘキニアラス是レ被告人ノ爲メニ利益トナルモ不利益トナルヿナケレハナリ

○第九十五條　裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人ニ之ヲ讀聞カスヘシ

豫審判事ハ被告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシムヘシ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

○第九十六條　被告人其供述ニ付ノ變更增減スヘキコトヲ申立タルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印スヘシ

○第九十七條　被告人ハ供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

（註）被告人訊問ニハ必ラス書記ノ立會ヲ要スルヿハ已ニ述ヘタル所ナリ書記ハ訊問（判事ノ）ト供述（被告人ノ）ヲ聞取リテ之ヲ錄取シタル後必ラス被告人ニ讀聞カセ其記錄ノ眞實ナルヿヲ確保セシムル其錄取シタルモノハ訊問調書ニシテ證據トナリ公判ノトキニモ其効力ヲ存スルカ故ニ愼重ヲ加ヘサルヘカラス（第二項略）

被告人其供述ニクキ之ヲ變換又ハ增減スルトキハ之ヲ許スヿヲ得ルカ曰ク之ヲ許サヽルヘカラス要スルニ事實ノ眞正ヲ得ンカ爲メナルヲ以テナリ此時ニハ更ニ訊問ヲ爲シテ前條ノ規定ニ從フヘク而シテ前調書ニ比シテ變換增減アルモ其證據ハ一ニ判事ノ判斷ニ任スルヲ以テ取捨撰擇ハ自由ナルヘク從テ變換增減ヲ許スハ利アリテ更ニ害ナカルヘシ

被告人ハ供述書ノ謄本下付ヲ申立ツルトキハ必ラス之ヲ與ヘサルヘカラス被告人ハ公判ノトキ辯護ノ方法ヲ案スルカ爲ノニハ其供述書ノ必要ナルハ辯ヲ俟タス（豫審ニハ辯護人ヲ付シ口頭辨論ヲナスヿナシ是レ豫審處分ハ公判ヽ下調ヘニ止マルヲ以テナリ）且又豫審中ト雖モ第一訊問調書ハ被告人ノ利益ヲ圖ラシムルコソ當然ナルヘケレ

○第九十八條　豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコトハ人違ナキコト其他事實ヲ發見スヘキ一切ノ

摸樣ヲ證スル爲ノ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人、證人又ハ其他ノ者ト對質セシムルコトヲ得

○第九十九條　書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第九十五條第九十六條ノ規定ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

（註）本條ハ對質ノ事ヲ規定ス對質ハ訊問ノ變則ニシテ本條明示ノ場合ニ方リテ之ヲ爲スヿヲ得ルモノニシテ其場合ハ制限ノモノニアラサルナリ

對質トハ被告人ト他ノ被告人證人等トヲ一場ニ列席（レツセキ）セシメテ双方供述ノ異同ヲ辯明對正セシムルモノニテ證據募集上マタ必要ノモノトス卽双方ノ容貌辭氣等ニ依リテ共犯人タルヿ或ハ人違ニ非ル事其他ノ事實ヲ眞正ヲ發見スルヲ得ヘキナリ被告人訊問ハ常ニ密行シテ他人ニ知ラシメンサルモノナルニ必要ノ場合ニハ之ヲ例外トシテ對質ヲ許スヿヲ得事實發見證憑集ノ主義ヨリ觀レハ相モドルトコロナキナリ

故ニ書記ノ作ルヘキ調書モ通常訊問調書ニ比スルニ少差ヲ生スヘシ假令對質ノ場合ニハ對質人ノ供述ノミナラス其者ノ辭氣（ジギモヤ）摸樣動作（ドウサ）等卽對質ニ由リテ生スル一切ノ事件ヲ錄取スルモ通常訊問調書ハ唯其供述ヲ錄取スルノミ最モ對質人ニ讀聞カスヘキモノハ單ニ其件ノ供述部分ニ止マルモノトス其他ノ部分ヲ讀聞カスヘキニ非ル事ハ喋々ヲ要セスシテカクナルヘシ

○第百條　被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ

被告人又ハ對質人國語ニ通セサルトキ亦同シ

（註）被告人等聾者啞者ニシテ文字ヲ知ルモノナラハ聾者ニハ書面ヲ以テ訊問シ口頭ニテ供述セシメ啞者ニハ口頭モテ訊問シ（啞者ハ多ク聾者ナルヘク從テ書面訊問ヲ多シトス）書面モテ供述セシム　此等ノ者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ用ヒ意思ヲ發表セシムルノ外ナシ通事ハ眞實ニ通譯スヘキ旨ヲ宣誓（センセイ）スヘキハ言ヲ俟タス

被告人等外國人ニシテ日本語ヲ解セサルトキハ勢通事ヲ用ヒサルヘカラスコレハ裁判所構成法ニ於テ「裁判所ニ於テハ日本語ヲ用フ」トノ原則ヲ明揭シタルヲ以テ

然リト雖其被告人若クハ對質人カ皆外國人ニシテ日本語ヲ解セス而シテ豫審判事裁判所書記等皆其國語ニ通スルトキハ別ニ通事ヲ用フルノ必要ナキヲ以テ例外トシテ其外國語ヲ以テ訊問及ヒ對質ヲナスヿヲ得ヘシ

○第百一條　通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ

書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第百三十六條第百三十七條第百四十一ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

（註）本條ハ別ニ註釋ヲ要セスシテ明了ナルヘシ

○第五節　撿証搜索及ヒ物件差押

（註）前節ノ規定ニ從ヒ被告人ヲ訊問シテ十分証憑蒐集ノ方法ヲ盡シタルトキハ敢テ本節ヲ要セサルヘキモ犯罪ノ種類ニ由リテハ尚十分ナラサル事多キニ居ル是ヲ以テ法律ハ捜證捜索及ヒ物件差押ノ方法ヲ與ヘタリ此等ノ者ノ性質ハ各條ニ於テ說明スヘシ

○第百二條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

（註）檢證（ケンシャウ）トハ豫審判事（現行犯ノトキニハ檢事其他司法警察官モ之ヲ行フヿヲ得）ハ犯罪ノ場所其他事實發見（ハッケン）ノ爲メ必要ナル場所ニ臨檢（リンケン）シ諸種犯罪ノ情況（ジャウキャウ）ヲ視察スルヲイフ蓋シ犯罪ノ種類ニ由テハ勢其犯罪場所等ニ臨ミテ檢査スルノ必要ナキニアラス此ノ如クスレハ被告人証人ノ陳述ノ及ハサルトコロヲ知悉シ或ハ被告人證人陳述（キョジュツ）ノ虚僞ナリシヿヲモ發見スルヲ得ヘク判事ノ心證ヲ形ツクルニ至大ノ勢力ヲ有スルモノナリ

○第百三條　豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ摸樣ニ付キ調書ヲ作ルヘシ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ摸樣ヲモ記載スヘシ

（註）被告人ノ供述ニ於テモ調書ヲ要スルト同シク檢證ニモ必ラス其書面ヲ作テサルヘカラス其調書ハ官吏ノ調製スヘキ書類ナルヲモテ總則一般ノ方式ニ從フハ勿論主トシテ本條ノ規定ニ從フヿヲ要ス

犯罪ノ性質　殺人ニツキテハ謀故殺過失殺若クハ毆打致死ナルヤ其殺人所爲ノ性質ヲ明

記ス

犯罪ノ方法　竊盜ニ就テ云ハヽ持兇器（ヂキョウキ）ナルカ門戸（モンコ）牆壁（シャウヘキ）ヲ踰越（ユエツ）シタルカ等ヲ明カニスルヲ要ス

犯罪ノ日時　被告人ノ年齡ハ不論罪又ハ宥恕減輕（ユウジョゲンケイ）ノ原因トナルヘクマタ公訴時効ニモ大關係アリ其必要ナルハ言ヲ俟タス

犯罪ノ場所　裁判所ノ管轄ニ影響ヲ及ホシ或ハ場所ノ公然ト否トヲ以テ犯罪構成ト否トニ關スルモノアリ

其他被告人ノ人違ナキヿヲ証明スヘキ摸樣ヲモ記載シ又被告人ノ利益トナルヘキ摸樣ヲ記載セサルヘカラス是レ豫審處分中ハ被告人辯護權ヲ行フヿ能ハサルヲ以テ判事ニ於テモ其利益トナル情況ヲモ記載スルハマタ必要ナルヘシ

○第百四條　豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ捜索ヲ爲スコトヲ得被告人又ハ物件ヲ藏匿（ザウトク）スル者其住居ニ在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルヲ要ス第七十八條第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

（註）本條ハ住居捜索ノ事ヲ規定ス住居捜索トハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑ノ住居ニ臨檢シ此等ノ物件ヲ差押フルヿヲ目的トス故ニ檢證ハ犯罪ノ場所其他事實發見ノ爲メ必要ナル場所ニ臨檢スルヲ以テ其場所甚タ汎ク（啻ニ住居ニ止マラス）且其目的タル物件差押ニ在ラスシテ犯罪事件ノ摸樣ヲ檢査スルニ在リ故ニ之ヲ混同

スヘカラス物件ヲ藏匿云々ハ刑法ニ所謂證憑ヲ煙滅センカ爲メニ故意ヲモテ犯罪ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スルニ限ラス物件ヲ占有スルノ意ト解釋スヘキヲ以テ適當トス辭ニ由テ意ヲ害スルコトナカレ第二第三項ハ元來住居捜索タルヤ住居不可侵ノ本則ニ例外ヲ設クルモノナルヲ以テ愼重ノ手續ヲ要スル旨ヲ規定ス然レトモ第七十八條ハ被告人ヲ拘引拘留スルカ爲メニ家宅捜索ヲ爲スニ在リテ本條證據物件差押トハ差異アルコヲ注目スヘキナリ而シテ日出前日沒後ハ住居捜索スルハ許サヽルハ彼此仝一ナリ

○第百五條　豫審判事ハ被告人又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ捜索ヲ爲スコトヲ得

（註）捜索ハ此等ノ人ノ住居ノミニ非ス此等ノ者ノ身體又ハ此等ノ人ノ占有ニ係ル物件ニモ證據物件ヲ藏匿スル場合ニハ其身體物件ニモ及フモノトス身體ニ就キ捜索スルコトハ身體檢查ト混仝スヘカラス身體檢查ハ假令創傷ノ輕重摸樣等ヲ檢查スルノ云ヒナレトモ身體捜索ハ唯身體部分ノ中ニ物件ヲ隱匿スルヤ否ヤヲ捜索スルヲ云フ

○第百六條　豫審判事ハ臨檢、捜索ニ因リ發見シタル物件其事實ヲ證明スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ裁判所書記之ヲ擔任ス可シ

（註）本條ハ物件差押ノコヲ規定ス卽前數條ニ說明セル檢證又ハ捜索ニ由リ得タル證據物件ノ散逸ヲ防カサルヘカラス其物件タル詳細ニ觀察スレハ夫刑法ニ於テ沒收スヘキ物件モ此中ニ包含スヘシ卽犯罪ニ由テ得タル物件犯罪ノ用ニ供シタル物件應禁物其他豫審ノ動產物ヲ稱ス而シテ之ヲ差押フルニ認印ヲ爲シ目錄ヲ用フルハ其增減變換ヲ防キ正確ヲ保スルヲ以テナリ

○第百七條　豫審判事ハ臨檢、捜索、物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終ラサルトキハ夜分ト雖モ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

○第百八條　被告人ハ臨檢、捜索、物件差押ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審判事本人ノ立會ヲ必要トスルトキハ此限ニ在ラス

（註）前數條ニ說明セル臨檢、捜索、物件差押ニ付其日ニ處分ヲ終ラサルトキハ夜分ト雖モ繼行スルヲ得ス必ラス之ヲ中止スルヲ要ス蓋シ處分ニ遺失脫漏等ノ虞ナキニアラス且人ノ安寧ヲ破ルヘケレハナリ然レトモ此處分ヲ中止スルトキハ亦閉鎖シ又ハ看守者ヲ置キ以テ其場所ノ周圍ヲ閉鎖シ物件ノ散逸ヲ防クヲ得セシムルナリ

被告人モ亦此等ノ處分ニ立會ハシムルヲ許スハ一面ニ於テハ事實發見ノ便益ヲ圖リ一面ハ被告人ノ利益ヲ保護スルノ計ニ出テタルモノナリ已ニ檢證ノ場合ニ於テ被告人ノ利益ヲル模樣ヲモ調書ニ錄取スヘキモノトセリ亦物件差押ニモ被告人ノ利益トナルヘキ物件ヲモ差押フヘキハ言ヲ俟タス要ハ事實（被告人ノ利不利ヲ問ハス）ノ發見ヲ圖ルノミ且夜

告人ヲシテ此處分ニ立會ハシムレハ處分ノ公平ナルヲ信セシムルニ足ルヘキナリ然レトモ此處分ニ立會ハシムルハ豫審判事ノ意見ニ一任シ命令法ヲ用ヒサルハ犯罪ノ種類ニ由リテハ却テ處分ノ遷延遲滯ヲ來スヿアランヲ恐ルヽカ故ナリ然レトモ當局者ハ成ルヘク被告人若クハ代人ヲシテ立會ハシメンヿヲ努ムヘキナリ

○第百九條　豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ

其訊問及ヒ供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

○第百十條　豫審判事ハ臨檢、搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聽クコトヲ必要ナリトスルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ

（註）已ニ物件差押ノ處分了リタルトキハ豫審判事ハ必ラス其物件ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ爲サシムヘキナリ此ノ如クスレハ被告人不實ノ事ヲ虛構スルモノハ言語容貌ノ間ニ之ヲ看破スルヿヲ得ヘク假令被告人ノ携帶品ニシテ犯所ニ違留シタル物ノ如キ之ヲ示シテ訊問スルトキハ大ニ事實ヲ發見スルヿヲ得ヘシ又被告人純粹無罪ノ者ナラハ辨解モ明瞭迅速ナルヘク判事ハ之ヲ察シテ其無罪ヲ認知スルヲ得ヘシ前條ノ立會ハ物件存在ノ現場ニ就テ言フモノニシテ本條ノ辨解ハ訟廷內ニ行フヲ原則トス然レトモ其現場ニ於テ訊問辨解ヲナスハ大ニ其事實ヲ得ルニ便宜ナルヘシ亦此辨解訊問ハ前條ノ立會アリタルト否トヲ問フノ必要ナシ

本條ハ判事ニ向ツテハ命令法ナルモ被告人ニ向フテハ然ラス故ニ判事ハ必ラス物件ヲ示シ訊問セサルヘカラスト雖其辨解ヲ爲スト否トハ被告人ノ自白ニ在リ若シ明白ノ辨解ヲナサヽルトキハ自己ノ不利益トナル結果ヲ生スルヿトナルノミ

第百十條ハ讀ンテ明文ノ如シ別ニ說明ヲ付セス

○第百十一條　豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得

（註）豫審判事カ前述ノ處分中何人ト雖判事ノ允許ヲ得サルトキハ其場所ヨリ出テ又ハ入ルヿヲ禁スルヲ許セリ是レ被告人若クハ證人其他何人ニ限ラス自由ニ出入スルヿヲ得ルトキハ證據ヲ湮滅破壞シ臨檢其他ノ處分ヲシテ徒勞ニ屬スルヿナシトセス是豫審處分ノ結果トシテ此權力ヲモ豫審判事ニ與フル所以ナリ若シ其禁ヲ犯スモノ卽判事ノ允許ナキニ其場所ニ入ルモノハ之ヲ逐斥シ出テントスルモノハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルヿヲ得ルモノトセリ此逐斥ニ遇ヒテ猶抗拒スルトキハ官吏ニ對シテ抗拒スル罪ヲ構成スルヲ得ヘシサレト留置セラレタルモノカ脫走シタルトキハ之ニ擬スルニ囚徒逃走罪ヲ以テスヘカラサルハ勿論タリ何ントナレハ此留置ハ唯一个ノ取締處分ニシテ刑罰ニアラス然レトモ暴行脅迫ヲ以テ此留置處分ニ抗拒スルトキハ官吏抗拒ノ犯罪ヲ構成スルヲ得ヘキナリ（刑法第百卅九條以下參照）

○第百十二條　豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢、捜索、物件差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

○第百十三條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審事件ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報又ハ物件ヲ受取開披スルコトヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

○第百十四條　證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其默祕ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非ザレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得ス

（註）信書ノ祕密ハ憲法ニ於テ特筆大書シ以テ保護スルトコロノモノナリ故ニ一个ノ人ノ私益ヲ保護スルカ爲メニハ信書ノ祕密ヲ侵スヘカラスト雖公益上之カ例外ヲ設クルハ亦至當ノ事ナリトス而シテ被告人又ハ豫審事件ニ關係アルモノ假令證人鑑定人等ノ者カ發シ又之ニ對シテ發シタル總テノ信書ヲ受取リ之ハ開披スルコヲ得物件（信書ニ非サル其他ノ）モ之ニ準ス此事ノ爲メニハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ヘ前以テ通知シ置カサルヘカラス又此等ノ者ヨリ受取リタルトキハ受取證書ヲ交付スヘク以テ其信書物件所在ノ正確ヲ證スルカ爲メナリモシ其物件ニシテ沒收スヘキハ沒收スヘク差出人又ハ受取人ニ還付スヘキモノハ之ヲ還付シ後之ヲ諸官署會社ニ通知シ若クハ諸官署會社ニ交付ス可キナリ此等ノ處分タル異常例外ニ屬スルヲ以テ重大頻雜ノ事件ニ於テ適用スヘク假令ハ國事犯罪ノ如キ是ナリ

第百十四條ハ證人訊問ノ規定中該當ノ處ニ其說明ヲ讓ル

○第六節　證人訊問

（註）證人ニ廣義ノモノト狹義ノモノトアリ廣義ノ證人ハ純粹ノ證人ト事實參考人トヲ併稱シ狹義ノ證人ハ純粹ノ證人ノミヲ云フ故ニ本節ニ證人ノ文字アルトキハ其果シテ廣義ナルヤ否ヤハ場合ニ由リテ之ヲ知ラサルヘカラス而シテ純粹ノ證人ト事實參考人トノ差違ヲ擧ケンニ證人ハ宣誓ヲ要スルモ事實參考人ニハ之ヲ要セス從テ甲カ不實ノ虚構ヲ申立ツルトキハ刑法僞證罪ニ問ハルヘキモ乙ニハ此犯罪ヲ搆成スルコトナシ又事實參考人ハ其人ノ身分能力ニ由リテ證人タルノ資格ヲ有セス是レ一ノ變則トモ云フヘキナリ而シテ證人ノ陳述ト事實參考人ノ陳述ニ於ケル證據力ニモ重輕ノ別アルカ如シト雖凡テ諸般ノ證憑ハ判事ノ判斷ニ一任スルヲ以テ事實參考人ノ重ノ力ヲ有スルコトアルヘク一概ニ論スヘカラス而シテ證人ハ判事ノ耳目ノ及ハサルトコロ身補フモノニシテ其供述ノ果シテ信ヲ措クニ足ルヤ否ヤハ他ノ證據物件ニ比シテ不確ノ感ナキヲ得ス彼民事ニテハ或證據ニハ裁判官ヲ拘束スルノ効力ヲ與ヘタルモ證言ハ一ニ判事ノ採否ニ任カスト明定シタル所以ナリ刑事ニ至リテハ判事ヲ拘束スヘキ證據ナキヲ以テ特ニ證人ニ就テ之ヲ言フノ必要ナキナリ

○第百十五條　證人ノ呼出狀ニハ其氏名、住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ又出頭ノ日時場所及ヒ呼

由ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且拘引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ
呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ
(註) 證人ノ呼出狀ニ記載スヘキ事項ハ其氏名、住所及ヒ職業ヲ記載ス是人違ナカラシメン爲メナリ次ニハ出頭ノ日時場所是モ亦必要ノ事項ナリ
呼出ニ應セサルトキハ云々此規定ハ被告人ノ召喚狀ニモ記載スヘキカ如シト雖特ニ證人訊問ニ限ルハイカナル理由ニヤ（最被告人ニ對スル召喚狀ニハ罰金ヲ言渡ス云々ヲ記載スヘキニ非ルハ言ヲ俟タス）又二十四時間ノ猶豫ヲ與フルハ實事整頓ノ準備時間ヲ與フルモノトス
此他被告事件ノ何タルヤモ記載スヘキハ言ヲ頓クス然ラサレハ證人ヲシテ既往ノ事實ヲ追憶スルノ便ヲ失ハシムルヲ以テナリ本條ノ證人ハ事實參考人ヲモ包含ス所謂廣義ノ證人タリ

○第百十六條　證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ
(註) 凡テ訊問ハ訟庭ニ於テ行フヲ本則トス本條ハ之カ例外タリ第七十四條ヲ參考スヘシ
其他皇族ヲ證人トシテ訊問スルトキハ必ラス其所在ニ就キテセサルヘカラス是其身分ヲ重ンスルガ爲メナリ

○第百十七條　證人ト爲ル可キ者豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ卽時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ
(註) 呼出狀ハ凡テ本人ニ向ヒ直接ニ送達スルヲ本則トスルモ此等ノ人ニ向フテハ必ラス其所屬ノ長官若クハ隊長ヲ經由シテ送達スヘキナリ是レ此等ノ人ハ其身分軍律ニ拘束セラレ其擧動一ニ其長官又ハ隊長ノ指揮ニ服從スルノ義務アルヲ以テカク規定シタルナリ
サレド軍人軍屬ト雖現役ニ從事シタルモノニ限ルヘキハ勿論豫備後備ノ軍籍ニ在ルモノハ自由ニ出頭スルヲ得ヘケレハ本條ヲ適用セス而シテ長官又ハ隊長ニ一ノ義務ヲ負擔セシムヘキ旨ヲ卽時ニ認可スヘク（本條卽時ニノ文字ヲ以テ出頭ノ語ニ連續セシムヘカラス呼出狀ノ出頭時日ハ必ラスシモ卽時ニアラス唯認可ヲ直チニス可キヲ云フ）又ハ(2)職務上差支アル時ハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ請求セサルヘカラス若シ其軍人軍屬カ疾病ニテ出頭スル能ハサルトキハ職務上ノ差支ニアラサルヲ以テ長官又ハ隊長ハ(1)ノ處置ヲ取ルヘキモノト思考ス本條證人モ廣義タリ

○第百十八條　豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又勾引狀ヲ發スルコトヲ得

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ其勾引狀ニ付テモ亦同シ

(註) 證人ハ呼出ニ應シテ出頭スヘキ公義務アリモシ役人カ私益ヲ先ニシテ公義務ヲ後ニスハトキハ制裁ヲ加ヘサルヘカラス然ラスンハ證人トシテ出頭スルモノ一人トシテ出頭スルモナカルヘク何ヲ以テ司法權ヲ大ニシ事實ノ發見ヲ求ムルヲ得ンヤ然レトモ證人ニシテ(一)疾病其他正當之事由(通常人ト現役軍人軍屬トヲ問ハス)(二)現役ノ軍人軍屬カ職務上差支アルトキニハ縱令出頭セサリシトテ此制裁ヲ受クルコトナシ

其制裁トハ何ソ曰ク(甲)其不參ニ由リテ生シタル費用(民事ノ損害賠償)及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金(刑事)ヲ言渡スヘシ

此言渡ハ判決ヲ以テセス決定ヲ以テス判決ハ公判ニ事ガ口頭辯論ヲ爲サシメタル後言渡スヘキモノ(以下公判ノ處ニ至リテ明カナリ)ナルモ決定ハ口頭辯論ヲ爲サス直ニ豫審判事一己ノ意見ヲ以テ言渡スモノニシテ一ノ變例タリ且檢事ノ公訴提起ヲ俟タス唯豫審判事ガ檢事ノ意見ヲ求ムルニ止マル而シテ判決ニ對シテハ控訴上告ヲ以テ不服ヲ申立ツルモ決定ニテハ抗告ヲ許スノミ(此等不服申立ノ方法ハ後條ニ由リテ分明ナルヘシ)殊ニ次條決定取消ノ如キハ非常ノ例外トス蓋シ豫審處分中ニ生シタル犯罰ニシテ事件甚タ簡易(カンイ)明瞭且ツ愼重ノ手續ヲ要スルトキハ豫審處分ヲ延滯セシムルノ處アレハナリ

再度ノ呼出ニ應セサルトキノ制裁ハ費用賠償ノ外四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ言渡シ勾引狀ヲ發スヘシ第二項第四項ハ讀テ明文ノ如シ

○第百十九條 豫審判事ハ證人罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日內ニ其出頭セサリシコトヲ正當ノ理由ヲ以テ辯解シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聞キ其罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

(註) 罰金言渡ノ決定ニ對シテハ抗告スルヲ許シタルニ拘ハラス尙ホ決定取消ノ方法ヲ與ヘタリ(一)正當ノ事由アリテ出頭スルヿ能ハサリシヿヲ有效ニ辯解スルヿ(二)右辯解ハ罰金言渡送達ノ日ヨリ三日內ニ申立ツルヿ此二條件ヲ有スル時ハ該決定ヲ取消スヿヲ得但判事ハ一應檢事ノ意見ヲ聞クヿヲ要ス罰金言渡ニ於テ已ニ檢事ノ意見ヲ聞キタル上ハ其取消モ同シク意見ヲ聞クヲ要スルヿトス至當ナリトス

○第百二十條 證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其人違ナキコトヲ疎明ス可シ

○第百二十一條 豫審判事ハ證人トノ呼出シタル者ニ對シ其氏名、年齡、職業、住所及ヒ第百二十三條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フヘシ

(註) 第百廿條ハ別ニ說明ヲ要セスシテ明了タリ

第百廿一條氏名、年齡、職業、住所ヲ訊問スルハ言ヲ俟タス第百廿二條ニ該當スル身分ノモノナリヤ否ヤヲ問フハ仝條ニ於テ解釋スヘキカ如ク證人タルコヲ得ルヤ否ヤヲ定メ宣誓ヲ爲サシムヘキヤ否ヲ定ムルニ在リ然ルニ第百廿四條ニ記載スル者ナリヤ否ヤハ之ヲ訊問スルニ及ハサルハ如何曰ク仝條第一號ハ年齡ヲ訊問スルヲ以テ知ラルヘク第二第三第四第五第六ハ之ヲ訊問スルヲ要セスシテ知ルヲ得ヘク且其人ヲシテ面目ヲ失ハシムルヲ以テ別ニ訊問スルコヲ要セサルナリ

○第百二十二條　豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓セシムヘシ

裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

（註）本條ノ所謂證人ハ狹義ニシテ純粹ノ證人ノミヲ稱ス抑宣誓ナルモノタル毆州諸國ニ於テ行ハルヽモノニシテ彼國ニテハ之ヲ神明ニ誓フモ本條ノ謂所宣誓ナルモノハ宗教上ノ觀念（クワンネン）ヨリ出テタルニ非スシテ一ニ之ヲ自己ノ良心（レウシン）ニ誓フモノナリ從テ彼國ニテハ種々宗教上ノ儀式（ギシキ）ヲ設クルモ我國ニテハ唯宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシムルノミ

○第百二十三條　左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其述ヲ聽クコトヲ得

第一　民事原告人

第二　民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三　民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四　民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

（註）證人トナルノ能力ハ正則ニシテ此能力ナキモノハ變則トス本條及ヒ次條ハ其變則ヲ示シタルモノナリ故ニ制限的（セイゲンテキ）ニ解釋（カイシャク）シ法律ノ明示セル場合ノ外ハ何人ト雖證人タル能力者ト斷言シテ差支ナシ其無能力タル理由ハ各號下ニ於テ述フヘシ

第一云々　犯罪ニ由テ損害ヲ受ケタルモノカ私訴ヲ提起シタル者ヲイフ而シテ其要償ノ訴ハ刑事裁判所ニ附帶シタルト特立民事ノ訴トヲ區別スルコトナシ民事原告人ハ訴訟ノ原告タルヲ以テ原告人ヲシテ證人タルヲ許サハ被告人モ自ラ證人タルコヲ許スノ違法ヲ來スヘキナリ故ニ之ヲ無能力者トセリ

第二云々　此親屬トハ刑法第百十四條及其次條ニ列記スル者ヲ云フ被告人又ハ民事原告人ノ親屬ハ勢ヒ情實（ゼウジツ）ニ制セラレ正當ノ供述ヲ爲ス能サル可ヲ以テナリ親屬トハ血統（ケツトウ）カ連續スルモノヲ云ヒ姻族トハ婚姻ニ由リテ夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ノ親屬ニ於ケル關係ヲ云ヒ且協議離婚又ハ婚姻無効ノ判決等ニ由リテ解除シタルトキモ無能力者トセリ

第三云々　後見人ト被後見人（未成年者等）ハ其關係親子ノ如キ私情アルニ由ル

第四　此等ノ人ノ雇人又ハ同居人故ニ雇主ハ證人タルヲ得ヘク又用支ハ如何ニ親密ナルモ證人タルノ能力ヲ有スヘキナリ

○第百二十四條　左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一　十六歳未滿ノ幼者

第二　知覺精神ノ不十分ナル者

第三　瘖啞者

第四　公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

第五　重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證據十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

第六　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證據十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

（註）本條モ亦前條ト同シク證人トナルヿヲ得ス而シテ前條ト異ナルハ前條ハ記載ノ人或ル特定事件ニ於テノミ無能力者タリト雖本條記載ノ人ハ如何ナル事件ト雖無能力者タリト絶對的ノ差異アリ

第一號乃至第三號ハ說明ヲ要セス第四號ニ就テ一言センニ人ハ必ラス證言スヘキノ義務アリト雖他ノ一方ヨリ見レハ又一ノ權利タリ故ニ重罪刑ニ處セラレタルモノ（終身公權剝奪）輕罪ノ刑ニ處セラレ刑期間公權ヲ停止セラレタルモノニハ此權利ヲ行フヿ許サス第六云々　免訴ノ言渡ハ豫審ニ於テ之ヲ受クルヿアリ又公判ニ於テ之ヲ受クルヿアリ玆ニ所謂免訴ハ豫審ニテ受ケタルモノヲ云ヒ公判ニ於ケル免訴ノ言渡ハ其理由ノ如何ヲ問ハス證人タルノ能力ヲ失フヿナシサテ豫審ニ於ケル免訴ノ言渡ハ其場合種々アルモ唯證憑不十分ノトキニ限リ證人タル能力ヲ失フヿトセリ其他時效確定判決大赦等ニ由ル免訴ハ此限ニ在ラス蓋シ豫審ニ於テ證憑不十分ノトキ免訴ヲ言渡スモ後日新證憑アルトキハ檢事ハ尙全一事件ニツキ起訴スルヲ得ヘク從テ其免訴ヲ受ケタルモノカ其全一事件ニツキ證言セシムルモ或ハ新證憑ノ發見ニ由リ再ヒ起訴セラレンヿヲ恐レ虛僞ノ陳述ヲナスヘキヲ以テカクハ證人タラシムルヿヲ得ストスル所以ナリ公判ノトキニハ證憑不十分ノ場合ニハ無罪ヲ言渡スヘク從テ本條ノ正面ニ中ラサルナリ

○第百二十五條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一　官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ

第二　醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ

（註）本條ハ證言ヲ拒ミ得ヘキ場合ヲ規定ス本條ヲ以テ誇人トナル無能力ト濕同スヘカラス夫レ言ヲ拒ミ得ヘキモノハ證人トナル能力ナキモノニアラス故ニ若シ之ヲ拒マサリシトキ其陳述虛僞ナルトキハ僞證ノ犯罪ヲ構成スヘクマタ宣誓スヘキハ勿論タリマタ事實參考人トシテ其供述ヲ聽クヘキニアラス蓋シ本條ノ理由ハ第一號第二號列記ノ人ハ職務上默秘スヘキ特別ノ義務ヲ負フモノナリ故ニ其義務ニ對シテ證言ヲナスヘキ普通國民

ノ義務ニ從ハシムヘカラスヘ

第一官吏公吏ハ現任ト罷職トヲ問ハス職務上默秘スヘキ義務アル場合

第三醫師藥商穩婆　此等ノ者ヲシテ其職業上ノ秘密ヲ漏泄セシムルトキハ人々之ヲ畏レテ眞實ヲ告知セス從テ一般ニ人ノ生命身体ヲ害スルニ至ルヘシ故ニ證言ヲ拒マシムルニハ却テ社會ノ安寧ヲ得ルモノナリ

辯護士辯護人公證人神職僧侶ノ如キモ亦證言ヲ拒マシムヘキナリ然レトモ證言ヲ拒ミ得ヘキ事件ハ此等ノ人ハ(一)其身分若クハ職業ニ由リ他人ヨリ委託ヲ受ケタルニ由リ知リタル事實(二)默秘スヘキ事實ノ條件ヲ要ス

若シ此等ノ人自カラ進ンデ其秘密ヲ漏告シタルトキハ反テ刑法上ノ制裁ヲ受クルモノナリ然ルニ一方ニ於テハ其秘密ヲ證言セシムルヿヲ命スルハ矛盾齟齬ノ誹ヲ免カレサルヘク却テ社會ノ安寧ヲ害スルヿ證言ヲ拒ムヿヨリモ大ナルヘキナリ是レ本條ヲ以テ拒絕ノ權能ヲ付與シタル所以ナリ而シテ此等ノ人カ其權能ヲ行使スルト否トハ其自由ニ在リ

○第百二十六條　證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡スヘシ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑托シテ之ヲ爲スヘシ

(註)　本條ノ證人ハ事實參考人ヲ包含セス所謂狹義ノモノタリ夫レ證言ヲ爲ス義務アルモノカ宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シタルモ供述ヲ肯セサルトキハ是公義務ニ背キタルモノナリ其制裁ハ刑法第百八十條ニ在リ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聞キ決定ヲ以テ罰金ヲ言渡スヘシ別ニ公判手續ヲ用ヰス凡テ簡易ノ方法ヲ取リタリ其理由ハ第百十八條證人出頭ノ公義務ヲ拒ムノ制裁ノ處參照スヘシ

證人ガ被告人ヲ陷害シ若クハ曲庇スル目的ヲ以テ不實ノ事ヲ供述シタルトキハ刑法僞證罪ヲ構成スヘシ此場合ニハ豫審判事ハ其事實ヲ檢事ニ告發シ檢事ハ公訴ヲ提起スル等凡テ普通ノ手續ニ由ルヘク法律ノ明文ナキ以上ハ本條ヲ援引シテ變則ヲ適用スヘキニアラサルナリ

○第百二十七條　證人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問スヘシ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

(註)　本條以下ノ證人ハ凡テ廣義ノモノタリ而シテ其訊問ハ一證人毎ニ各別ニ訊問スルハ豫審密行ノ主旨ニ基ツキ且證人ヲシテ愛憎疑懼等ノ念慮ヲ去リ直白ニ見聞ノ事實ヲ吐露セシメンカ爲メナリ然レトモ對質ノ必要アルトキハ此限リニ在ラズ(第九十八條參照)

○第百二十八條　豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

若シ證人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第百十八條ノ規定ニ從フ

（註）證人ノ供述ヲ明確ナラシメンニハ假令ハ實地ノ摸様ニツキ供述セサルトキハ明確ヲ欠クノ失アル場合ニハ犯所其他ノ場所假令被告人潜伏ノ場所藏物ヲ藏匿シタル場所等ニ同行セシムルコヲ得ベシ若シ之ヲ肯ンセサルトキハ證人出頭ノ公務ヲ拒ムノ制裁ヲ適用スヘシ

○第百二十九條　第百條第百一條ノ規定ハ證人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

○第百三十條　皇族證人ナルトキハ豫審判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲スヘシ各大臣ニ付テハ其官廳及所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滯在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滯在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

（註）皇族ハ身分ノ至高ナルヲ以テ必ラス其所在地ニ就キテ訊問（ジンモン）シ奉ラサルヘカラス故ニ第百十八條ノ場合ヲ生セス然レトモ第百二十六條ノ制裁ヲ受クルナシトセス國務大臣ハ至重ノ職務ヲ執ル人ナルヲ以テ其官廳所在地ノ裁判所ニ於テ訊問セサルヘカラス（所在ニ非ス）然ラサレハ樞要（スウヨウ）ノ職務ヲ妨クルノ憂アルヲ以テナリ若シ以下云々ハ別ニ說明ヲ要セス帝國議會ノ議員即貴族院衆議院ノ議員ハ立法ノ大權ニ參與スル大權ヲ有スルカ故ニ亦國務大臣ト同シク議會所在地ノ裁判所ニ於テ訊問スヘシ但（一）開會期間（二）議會ノ所在地ニ滯在スルノ二條件ヲ要ス此一ヲ欠クトキハ普通證人ノ例ニ從フ

○第百三十一條　豫審判事ハ證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ訊問ノ調書ヲ讀聞カセシムヘシ

證人ハ其供述ヲ變更增減センコトヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリタルコト及ヒ變更增減ノ條件ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ豫審判事、書記及ヒ證人共ニ署名捺印スヘシ若シ證人署名捺印スル事能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

○第百三十二條　豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

○第百三十三條　第百十八條第百十九條及ヒ第百二十六條ニ關ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

○第百三十四條　證人ハ出頭ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得

○第七節　鑑定

（註）鑑定トハ被告事件ヲ精窮（セイキウ）スルニ方リ特別ノ學識技術ニ由リテ其犯罪ノ性質方法及結果ヲ分明ナラシムルヲ云フ而シテ證人トノ差異ヲ擧ゲンニ證人ニ於テハ證人トナルモノ實驗スル被告事件ニツキ親シク見聞シタル要スルモ鑑定人ハ之ヲ要セス只其過去ノ事

實ニ由リ其形跡外見ノ結果ニ由リ之ヲ採究スル
有ノ儘ヲ陳述スルニ止マレトモ鑑定人ハ自己ノ意見ヲ陳述スヘキモノトス故ニ証人出頭
セサルトキハ勾引狀ヲ發スヘキモ鑑定人ニハ之
有スルモノハ其人ニ止マラサルヲ以テ他人ニ命スルヿヲ得ルモ証人ハ其事件ニツキ親
ク見聞シタルモノナルヲ以テ之ヲ他ニ求ムルヲ得サルヘケキハナリ

○第百三十五條　豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリ
トスルトキハ學術職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム
ヘシ

鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死骸ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死骸ヲ解剖シ若ハ
檢視スル爲メ墳墓ノ發堀ヲ命スルコトヲ得

(註)犯罪ノ性質トハ同一ノ殺人犯ナルモ謀殺故殺毒殺毆打殺ナルヤヲ區別シ犯罪ノ方法ト
ハ殺人ノ手段ノ刀劍棍棒(コンボウ)又ハ毒藥ナルヿヲ云ヒ犯罪ノ結果トハ刑罰ノ重輕ニ干系ヲ及ホ
スヲ以テ(未遂既遂又ハ毆打創傷ハ其結果ニ由テ刑ヲ異ニス)是亦分明ナラシムル可ナリ此
場合ニハ死体(假ニ埋葬シタルト否トヲ問ハス)又ハ檢視ノ爲メ墳墓ヲ發堀スルノ權ヲ與
ヘタリ蓋シ此等ノ所爲ハ常人ニ在テハ刑法ノ罰スル處(刑二六四以下)ニ係ルカ故ニ特ニ
之ヲ明言シタル所以ナリ

○第百三十六條　鑑定ニ付テハ第百十五條第百十八條乃至第百二十一條第百二十三條乃至第百二
十五條及ヒ第百二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス
ニ從フ

○第百三十七條　鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定スヘキ宣誓ヲ爲スヘシ其宣誓ハ第百二十二條ノ式
ヲ聽キ刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡スヘシ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

○第百三十八條　豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權(ショッケン)ヲ以テ鑑定人ヲ增加シ又ハ別人ヲ
ヲ鑑定セシムルコトヲ得

○第百四十條　鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記スヘシ
若シ結果ヲ得ザルトキハ其推測スル所ヲ記載スヘシ

鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作リ又ハ各自ノ意見ノ一個ノ鑑定書ニ記載スヘ
シ

○第百四十一條　鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要スルヿヲ得

(註)　各條ニツキ註釋ヲ施サスシテ分明ナリ唯一言スヘキハ鑑定人ノ作リタル書類ハ其證
據力判事ヲ勾束スヘカラサルヿヲ是レナリ鑑定人ハ判事耳目ノ及ハサルトコロヲ補フニ過
キス故ニ判事ハ之ヲ採否(サイヒ)スルノ全權(センケン)ヲ有スルトイハサルヲ得サルナリ

第八節　現行犯ノ豫審

現行犯ノ何者タルヲ及ヒ其捜査ニ關スル特別處分ハ已ニ之ヲ說述シタリ今ヤ其豫審ニ關スル特別處分ヲ論セントス

○第百四十二條　豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

（註）豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非ルヨリハ豫審處分ニ着手スルヲ得ス之ヲ不告不理ノ原則トス此事ハ已ニ第六十七條ニ於テ見タル所ナリ然ルニ現行犯罪ノ𠮟ニハ其處分ハ殊ニ急速ヲ要スルヲ以テ此原則ニ例外ヲ設ケサルヲ得ス而ノ此特別處分ヲ行フヲ得ルニハ先ツ豫審判事ガ檢事ノ起訴ナキ以前ニ現行犯アルコトヲ知リタルヲ要ス而シテ其犯罪ハ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル者ト區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪（輕罪ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナルモノニ限リテ豫審處分ヲナスヲ忘ルヘキコアラス（現行犯非現行犯ヲ問ハス）次ニハ其事件急速ナルヲ要ス此等條件ヲ備フレハ豫審判事ハ檢事ノ請求ヲ俟タス一面ニハ豫審處分ニ着手スルヲ得ヘキモノトス而シテ茲ニ一言スヘキハ現行犯ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナレハ盡ク豫審處分ヲ爲スヘキモノト誤想スヘカラス重罪ハ必ラス豫審ヲ經由セサルヘカラスト雖輕罪ハ其頗ル

○第百四十三條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載ス可シ

豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キモノニ非サル意見アリト雖モ通常ノ規定ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ

（註）豫審判事ハ檢事ノ起訴ナリト雖檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス檢證ノ何者ナルヤハ第百二條以下ニ就テ見ルヘシ故ニ此原則ノ結果トシテ豫審判事カ現行犯罪ノ豫審處分ヲ行フニハ必ラス犯罪ノ場所其他事實發見ニ必要ナル場所ニ臨檢シ以テ檢證調書ヲ作ラサルヘカラス（非現行犯ノ場合ニハ檢證處分ヲ爲スト否トハ判事一己ノ自由ニ在ルモノナリ）其調書ニハ重罪又ハ輕罪ノ現行タルコヲ記載スヘキモノトス

豫審判事カ右調書ヲ作リタル𠮟ハ速ニ檢事ニ送致セサルヘカラス何ントナレハ此等ノ處分タル非常ノ例外タルカ故ニ速ニ其本則ニ復サシメンカ爲メナリ然レトモ檢事ノ起訴アリタルトキハ此書類送致ノ義務ナシ盖シ此書類ヲ送致スルハ唯檢事ヲシテ公訴ヲ實行スルノ便ヲ與フルモノナレハナリ而シテ檢事カ豫審ヲ判事ヨリ右調書ヲ受取リタル𠮟ハ其公訴ノ實行ニツキ意見ヲ述ヘサルヘカラス若シ檢事判事事件輕易ニシテ豫審ヲ要セストシ又ハ被告事件罪トナラサル等ノ意見アリタルモ豫審判事ハ之ニ勾束セラレス通常ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ終結スルモノトス何トナレハ公訴ハ已ニ提起セラレタルヲ以テナリ

○第百四十四條　地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

證人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

（註）地方裁判所檢事（區裁判所檢事ニ同シ）尤豫審判事ニ先タテ前條同一ノ場合ニ遭遇スルトキハ豫審判事ニ屬スル處分ヲナスコヲ許シタリ而シテ其特別處分ヲナシタリトテ公訴ハ已ニ提起シタルモノト速了スヘカラス正格ニ論スレハ搜査處分ノ一種ニシテ唯其異ル所ハ檢證搜索物件差押等公力ヲ用ヰル處分ヲ爲スヲ得故ニ證人等出頭セサル時證人ニハ鑑定人ノ宣誓ヲ爲サシメサルヲ以テ百二十六條百卅八條ノ罰金ヲ言渡ス場合ナリ罰金及賠償ノ言渡ハ檢事之ヲ爲スコヲ得ス是レヲ以テ見ルモ眞ノ豫審處分ニ非ルヲ知ルニ足ル殊ニ此特別處分ヲナシタレハトテ被告事件罪トナラス公訴受理スヘカラサルモノト思料スルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラス（第百四十九條）トイフヲ以テモ此處分ハ起訴前ノ搜查處分ノ一種ナルヿ愈分明ナルヘシ

○第百四十五條　前條ノ場合ニ於テ地方裁判所檢事ハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

（註）地方裁判所檢事（又ハ區裁判所檢事）ハ尚ホ引續キ取調ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ豫審判事（又ハ地方裁判所檢事）ニ送致シ本則ニ復セシム此トキニ於テ始メテ起訴アリタルモノトス故ニ被告事件罪トナラサルカ又ハ公訴受理スヘカラスト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ行フヘカラス從テ本條ヲ適用スヘキニアラス

○第百四十六條　區裁判所檢事其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ第百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得若シ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發シタルトキハ三日內ニ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

（註）本條ニ由テモ此特別處分ハ起訴前搜查處分ノ一種タルヲ知ルヘシ區裁判所事件ニハ豫審處分ナルモノナシ然ルニ其現行犯ノ場合ニハ通常ノ搜查處分ニ例外ヲ設ケタルナリ而シテ本條ハ區裁判所檢事カ區裁判所事件ノ現行犯罪ヲ覺知シタルトキハ此變則ヲ適用スヘカラス常方裁判所檢事カ區裁判所事件ノ現行犯罪ヲ覺知シタルトキハ此變則ヲ適用スヘカラス常人ノ資格ヲ以テ被告人ヲ逮捕シ告發ヲナスヘキナリ

區裁判所檢事カ勾留狀ヲ發シタルトキ（通例ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルトキニ發ス但被告逃亡ノ恐アルトキハ被告人ヲ訊問スルヲ要セス）ハ三日以內ニ起訴スヘク（被告事件罪トナラス又公訴受理スヘカラスト思料スルトキ此限ニ在ラス）三日以上ヲ過クルトキハ未決勾留長キニ過キ反テ本刑（區裁判所事件ハ本刑モ輕シ）ヨリ重キヿアランヲ恐ル、故ナリ

○第百四十七條　第百四十四條第百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ

ヲ得ス

司法警察官ハ証憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且被告人ヲ逮捕シタルトキハ共ニ之ヲ送致ス可シ

（註）法律ハ司法警察官ニモ現行犯罪ノ場合ニハ前述ノ權限ヲ與ヘタリ思フニ實際現行犯アルトキ事ヲ執ルモノハ檢事ニ在ラスシテ司法警察官多キニ居ルヘク故ニ本條ハ前數條ニ比シテ其適用多キコト知ルヘシ蓋シ司法警察官カ現行犯罪ヲ發知シタルトキハ此等ノ權限ヲ與ヘスンハ空シク檢事ヲ待タサルヘカラス證憑消滅ノ恐アルヲ如何セン故ニ假リニ之ヲ與フルコトス但勾留狀ハ其効力重大ナルヲ以テ之ヲ發スルコトヲ許サス直チニ被告人ヲ管轄裁判所檢事（被告事件ニ由リテ區裁判所檢事）ニ送致シ且證憑書類ニモ意見書ヲ添ヘテ送致スヘキコトセリ且此豫審處分ニ假リノ効力ニ止マルヲ以テ豫審判事ガ後日之ヲ改正スルヲ妨ゲズ

○第百四十八條　地方裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時內ニ之ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲナス可シ

（註）地方裁判所檢事ハ第百四十四條ニ從テ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ被告事件ノ送致ヲ受取リタルトキハ地方裁判所檢事カ自ラ豫審處分ヲ行ヒ又ハ區裁判所檢事ニ送致スヘキヲ命スルノ權アリ此場合ニハ區裁判所檢事ハ其命ニ從ヒ被告人ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ但被告人ヲ受取リタル時ヨリ二十四時內ニ之ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲナス可シ

○第百四十九條　地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコトヲ得

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

（註）重罪ハ必ラス豫審ヲ經ルヲ以テ之ヲ論スルヲ要セス輕罪ノ現行犯ハ豫審ヲ請求スルト否トハ一ニ檢事ノ意見ニ任スマタ拘留狀ヲ發シタルト否トヲ問ハサルナリ蓋本條第一項第二項ハ實ニ明文ヲ待タスシテ明カナル事ナリ唯現行犯罪ノ時ハ豫審處分ヲ行ヒタルヲ以テ必ラスヤ豫審手續ヲ續行スヘク必ラスヤ起訴スヘキノ觀アルヲ以テカクハ其疑ヲ避ケンガ爲メニ法律カ特ニ注意シタルマテノ事ナリ此第一第二項ニ由リテ檢事ノ此等處分ハ眞ノ豫審處分ニ非スシテ一个ノ搜査處分タルコトヲ知ルニ足ルヘキナリ法文何レノ場合トハ地方裁判所檢事若クハ司法警察官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ總稱ス

第九節　保釋

保釋（ホシヤク）トハ勾留ヲ解除（カイジヨ）スルヲ得ル方法ニシテ豫審處分中ニ限リ効力ヲ有スルモノタリ

○第百五十條　豫審判事ハ豫審中勾留狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭ス可キ証書ヲ差出シ且保証ヲ立テシメ保釋ヲ許スコトヲ得

被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得

（註）保釋ハ（一）勾留狀ヲ受ケタル被告人ナルコト（二）右被告人ノ請求アリタルコト（三）檢事ノ意見ヲ聞クコト（四）何時ニテモ呼出ニ應シ出頭スヘキ証書ヲ差出スコト（五）保証ヲ立ツルコトノ五條件ヲ具備スルトキハ豫審判事之ヲ許スコトヲ得而レトモ豫審判事ハ事實發見上至當ト認ムルトキハ之ヲ許サヽルヲ得ヘキヤ言ヲ俟タズ

○第百五十一條　保証ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス言渡書ニ記載ス可シ

○第百五十二條　保証ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價証券ヲ差出ス可シ

又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ金額ニ充ツ可キ保証書ヲ差出スコトヲ得

○第百五十三條　保釋人被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其報告ヲ爲ス可シ

○第百五十四條　保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ保証金ノ全部又ハ一分ヲ沒收ス可シ

（註）保釋中被告人呼出ニ應ゼサルトキハ保釋人ノ逃亡若クハ潛伏シテ故ラニ其呼出ニ應セサルニ豫審判事ノ認定ニ任セタリ是レ保釋人ノ保証金ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘシ其沒收額ハ必ラス之ヲ存セサルヘカラス然ラサレハ此制

ルカモシクハ單ニ懈怠ニ由ルト其情狀ニ輕重アルヲ以テナリ然レトモ其呼出タルヤ被告人出頭トノ間少クトモ二十四時間ノ猶豫ハ必ラス之ヲ存セサルヘカラス然ラサレハ此制裁ヲ受クルコトナカルヘシ

○第百五十五條　保証金ヲ沒收スルニハ檢事ノ意見ヲ聞キ豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ

（註）保証金沒收ノ言渡ハ必ラス檢事ノ意見ヲ聞カサルヘカラス抑豫審處分中一切ノ行爲ハ豫審判事ノ全權ヲ以テ處置スヘキモノナリ然ルニ間々檢事ノ意見ヲ聞クヲ要スル箇條少カラス第百十八條第百二十六條及本條等ノ如シ蓋シ裁判言渡ハ必ラス檢事ニ一應意見ヲ述ヘシムルコトスルハ事理ノ當然ナルヘシ

○第百五十六條　豫審判事保証金ヲ沒收シタルトキハ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ

又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消スヘシ

（註）保釋ハ豫審中ニ之ヲ言渡シ豫審中ニ之ヲ取消スコトヲ得ルモノニシテ豫審中之ヲ取消サヽル時ハ公判ノトキ之ヲ取消スコトヲ得サルコトナル本條ハ其保釋ヲ取消サヽルヘカラサル場合ヲ示シタリ（一）前條ニ從ヒ豫審判事保証金ヲ沒收シタルトキ（但一部ヲ沒收シタルトキト雖）（二）保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要トスルトキ汎ク事實ノ認定ヲ判事ニ與ヘタリ故ニ（一）ノ場合ニハ檢事ノ意見ヲ聽クヲ要セス法律上當然保釋ヲ取消スモ（二）ノ場合ニハ一應檢事ノ意見ヲ求メサルヘカス

○第百五十七條　豫審判事保証金ヲ沒收シタル後免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルトキハ撿事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒收シタル金額ヲ還付ス可シ

（註）禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノニ非レハ之ヲ勾留スルコヲ得ス故ニ罰金ノ輕罪違警罪ノ刑ニ該ルヘキモノヲ勾留シタルハ豫審判事ノ過失ナリ己ニ勾留スヘカラズンバ保釋ノ爲メ差出シタル保証金ヲ沒收シタル所爲ハ無効タリト云ハサルヘカラス假令被告人カ第百五十四條ニ由リ出頭セサリシ過失アリタリトテ勾留スヘカラサルモノニ對シテ之ヲ勾留シタルノ過失ノ更ニ之ニ大ナルコヲ忘ルヘカラス是レ一旦沒收シタル保証金ヲモ還付セシムル所以ナリ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケタルトキニ至リテハ其理由タル更ニ輙々ヲ要セスシテ明カナリ

○第百五十八條　豫審判事免訴ノ言渡違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シ若クハ保釋ノ言渡ヲ取消シタルトキハ保証金ヲ還付ス可シ

（註）本條ノ還付スル保証金ハ前條ト異ナリテ未タ沒收セサル者ニ係ル（一）被告人免訴ノ言渡又ハ罰金ノ輕罪違警罪ニツキ公判ニ付スル言渡ヲナシタルトキハ元來此等ノ犯罪人ニ向ツテハ元々勾留スヘカラサルモノナルヲ以テ保釋ノ保証金ハ之ヲ還付スヘキナリ（二）保釋ノ言渡ヲ取消シタル時トハ（一）ノ場合以外即重罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ輕罪公判ニ付シタルトキヲ想像スヘシ此場合ニ方リテハ已ニ被告人ヲ囘束スルヲ以テ保証金ハ之ヲ還付スヘキハ勿論ナリトス

○第百五十九條　豫審判事ハ保釋ノ請求アルトキ否トヲ問ハス撿事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ証書ヲ差出サシムヘシ

○第百六十條　責付中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其報知ヲ爲スヘシ

被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ撿事ノ意見ヲ聽キ責付ノ言渡ヲ取消スヘシ

（註）本條以下ハ責付ノ事ヲ規定ス責付ニハ二個ノ條件ヲ必要トス

（一）撿事ノ意見ヲ聞ク（二）親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ証書ヲ差出スコ之ヲ保釋ニ比スルニ保釋ハ必ラス被告人ノ請求アルヲ要スルモ責付ハ請求ヲ要セス保釋ニハ金錢モシクハ有價証券ヲ保証ニ立ツルヲ要スルモ責付ニハ之ヲ要セス其手續保釋ヨリハ一層寬大ナリ蓋シ被告人ノ身分聲望（セイボウ）ニ由リ逃走潛匿ノ危險ナキモノニハ責付ヲ命スルコヲ得ルモ一般ニハ之ヲ許スヘカラス但禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノニシテ勾留狀ヲ受ケタル被告人タルコハ保釋ノ場合ト差異ナキコト知ルヘシ

○第十節　豫審終結

○第百六十一條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結ノ處分ニ付キ撿事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記錄ヲ送致ス可シ

檢事ハ訴訟記錄ニ意見ヲ付シ三日以內ニ之ヲ還付ス可シ

（註）豫審判事ガ豫審ヲ終結スヘキ場合ヲ分チテ二トス

（一）被告事件其管轄ニアラスト思料スルトキ此管轄ハ土地ノ區劃ニ關スル管轄ヲ云フモノニシテ犯罪ノ種類ニ關スル管轄ヲ云フニアラス第百六十六條第百六十七條ニ從テ之ヲ處分スヘキナリ

（二）他ニ取調ヲ要スルヿナシト思料シタルトキ　土地ノ管轄正當ナルトキハ充分ニ取調ヘ公判ニ付スルヤ否ヤヲ決定セサルヘカラス

此兩个ノ場合ニハ必ラス訴訟記錄ヲ檢事ニ送致シ檢事ノ意見を求メサルヘカラス豫審ノ着手ニハ必ラス檢事ノ請求アルヲ要スルト同シク其終結ニモ必ラス檢事ノ意見ヲ求メサルヘカラス是レ檢事ハ公訴實行ノ任ヲ帶フルモノナレバナリ

○第百六十二條　檢事ハ豫審十分ナラズト思料シタルトキハ其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事其請求ヲ肯セサルトキハ檢事ハ訴訟記錄ニ意見ヲ付シ二十四時內ニ之ヲ還付ス可シ

○第百六十三條　豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後數條ニ記錄シタル決定ヲ以テ豫審ヲ終結ス可シ

（註）檢事ノ此請求ハ公訴實行ノ職務ヲ盡スニ在リ別ニ說明ヲ要セス（一六二）亦豫審判事ハ決シテ檢事ニ勾束セラルヽヿナク自己ノ意見ヲ以テ自由ニ決定ヲ與フルヿヲ得之ヲ豫審判事ノ不羈獨立トハ云フ也

○第百六十四條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタルトキハ其旨ヲ言渡ス可シ若シ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

（註）豫審判事ノ決定言渡　已ニ第百六十一條ニ於テ見ルカ如ク土地ノ區劃ニ關スル管轄違ノ場合ニハ直チニ豫審ヲ終結シ（他ヲ取調フルニ及ハス）其旨ヲ言渡スヘシ若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキト勾留狀ヲ要スル者ト思料セハ新ニ令狀ヲ發スルヲ得ヘク已ニ令狀ヲ發シタルトキハ之レヲ貯存シ以テ檢事ニ交付ス且被告人ノ逃亡等ヲ防クカ爲メ是便宜上管轄違ノ豫審判事ニモ此權限ヲ付與シ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

○第百六十五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ

第一　犯罪ノ証憑十分ナラサルトキ

第二　被告事件罪ト爲ラサルトキ

第三　公訴ノ時效ニ罹リタルトキ

第四　確定判決ヲ經タルトキ

第五　大赦アリタルトキ

第六　法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

○第百六十六條　被告事件違警罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ且被告人ヲ勾留ヲ受ケタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

（註）（乙）免訴ノ決定言渡（一）ハ犯罪ノ證憑十分ナラサルニ止マラス全ク證憑無場合ニモ免訴ノ言渡ヲナス可ハ言ヲ俟タス（二）一般特別ノ不論罪律ニ正條ナキ所爲（第六條第四號モ此中ニ在リ）等ヲ云（三）（四）（五）ハ第六條注釋ヲ參照スヘシ（六）ハ（二）ト混同スヘカラス第二ハ純粹無罪ナレトモ第六ハ犯罪ハ十相成立シタルモ唯其刑ヲ全免スルヲイフ假令刑法ノ親屬相盜賍物贓僞造ノ自首全免ノ如キ是ナリ

○第百六十七條　被告事件裁判所構成法第十六條第二號ニ記載シタル輕罪ナリト思料シタル時ハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ其他ノ輕罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ輕罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

被告人勾留ヲ受クタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

禁錮ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲スコトヲ得若シ被告人未タ勾留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

（註）（丙）區裁判所ニ事件移送ノ判決

（一）違警罪ナリト思料スル時　違警罪ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルヲ以テ移送ノ言渡ヲナス（ヘク亦被告人勾留狀ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ放免スヘシ前ニモ述ヘタル如ク禁錮以上ノ刑ニ該ル被告人ニ非ザレハ其身体ヲ勾束スルヲ得サルナリ

（二）裁判所構成法第十六條第二號ニ記載シタル輕罪ナリト思料スルトキハ是モ亦區裁判所事件ナルヲ以テ移送ノ言渡ヲ爲スヘシ但勾留狀ニツキテハ後ニ說クヘシ

（丁）輕罪公判ニ付スル決定言渡　（丙）第二以外ノ罪ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルヲ以テ同輕罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヘキナリ而シテ輕罪タルトキハ區裁判所ニ移送（丙）第二スルト輕罪公判ニ付スルトヲ問ハス若シ罰金以下ノ刑ニ該ルモノト思料スルトキハ必ラス勾留ヲ釋放セサルヘカラス（己ニ勾留狀受ケタル場合之ニ反シテ禁錮ノ刑ニ該ルモノナレハ保釋責付ヲ許スヲ得（己ニ勾留ヲ受ケタル場合又勾留狀ヲ發スルヲ得）ヘシ（未タ勾留ヲ受ケサル場合）此ハ命令法ニ非ルヲ以テ保釋責付ヲ爲サス又ハ拘留狀ヲ發セサルモ豫審判事ノ自由ニ在リ

○第百六十八條　被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ若シ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲シタルトキハ其言渡ヲ取消シ被告人未タ拘留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發ス可シ

（註）（戊）重罪公判ニ付スル決定言渡此場合ニハ輕罪公判ニ付スルトハ異ナリテ一旦許シタル保釋責付ハ必ラス之ヲ取消シ又ハ拘留狀ヲ發スヘキナリマタ拘留ヲ受ケサルトキ故ニ已ニ拘留ヲ受ケテ尙ホ未タ保釋責付ヲ受ケサリシトキハ其儘ニシテ差支ナシ

○第百六十九條　豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スヘシ
管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ其原由ヲ明示シ若シ被告人ヲ拘留スヘキトキハ其原由ヲ明示スヘシ免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪ト爲ラサルコト公訴受理スヘカラサルコト及ヒ其原由又ハ犯罪ノ証憑十分ナラサルトキハ其旨ヲ明示スヘシ
區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質摸樣證憑ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ明示ス可シ
（註）豫審終結ノ決定書ニ記載スヘキ方式ヲ規定ス
（第一）事實即管轄違ヲ言渡ストキハ其管轄違タル原由免訴ノ言渡ヲナスヘキニハ其免訴ノ原由公判ニ付スル言渡ノ場合ニハ犯罪ノ性質摸樣及證憑ノ十分ナルコヲ明示スルヲ要ス
管轄違ノ原由トハ被告事件ハ他裁判所管轄內ニ起リタルカ如キヲ云フ免訴ノ原由トハ一被告事件罪トナラサルコト（二）公訴受理スヘカラサル第百六十五條第三乃至第六（三）犯罪ノ證憑十分ナラサルコト等ヲ云フ（一）（二）ハ各其原由ヲ示サヽルヘカラス（一）律ニ正條ナキハ一般不論特別不論罪等是其原由ナリ（二）ハ第百六十五條第三乃至第六是其原由ナリ唯犯罪ノ證憑十分ナラサルトキハ別ニ其原由ナキヲ以テ只其旨ヲ明言スルノミ
公判ニ付スル言渡（區裁判ニ移ス言渡モ）ニハ犯罪ノ性質窃盜強盜持兇器窃盜犯罪ノ摸樣（犯罪ノ方法手段及法律上ノ加重減輕ノ情狀ヲ記載ス
（第二）法律即チ適用スヘキ刑法及ヒ本法ノ各正條ヲ云フ即決定ノ基礎トナルモノナリ假令被告事件ハ已ニ確定判決ヲ經タルカ又ハ公訴受理スヘカラス（事實）故ニ刑事訴訟法第百六十五條（法律）ニ從ヒテ放免ス（決定）

○第百七十條　前條ノ決定ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名等ヲ明示ス可シ

○第百七十一條　豫審終結ノ決定ノ正本ハ速ニ檢事及ヒ被告人ニ送達ス可シ
（註）豫審決定書ハ更ニ第七十六條ノ規定ニ從フヘク而シテ其決定ノ正本ハ速ニ檢事及被告人ニ送達スルヲ要ス檢事被告人ハ利害關係人ナルヲ以テナリ其送達ノ効果ハ次第以下ニ就テ見ルヘシ

○第百七十二條　檢事ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得
被告人ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得
（註）豫審終結ノ決定ニ對シ特定ノ場合ニ於テ檢事及被告人ヲノ抗告ヲ爲スコヲ許シタリ已ニ述ヘタルカ如ク決定ニハ（一）管轄違言渡（二）免訴ノ言渡（三）區裁判ニ移送スル言渡（四）輕罪公判ニ付スル言渡（五）同重罪公判ニ付スル言渡ト也而ノ先ツ被告人カ抗告ヲ爲シ得ル場合ヨリ論セン唯重罪公判ニ付スル決定ニ對ノ抗告ヲ爲シ得可ノミ免訴ノ言渡ニハ被告人ハ抗告スルノ利益ナク所謂「利益ナケレハ訴權ナシ」トノ原則ヲ適用ノ抗告ヲ許サス唯（一）（三）（四）ニハ抗告ノ方法ヲ與フヘキカ如シト雖元來豫審ノ決定ハ確定スルモノニアラス公判ノトキ十分辯護ノ權利ヲ伸張スルヲ得ヘキヲ以テ決定ニ對シテハ抗告ヲ許

サヽルヲ本則トス唯重罪ノ決定ニハ決別ニ之ヲ與ヘタルモノト解釋スヘキナリ

檢事ノ被告人ト異ナル所ハ其抗告タル重罪公判ニ付スル決定、ミナラス免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シテ尚ホ抗告スルヲ許セリ免訴ノ言渡ニツキ抗告スルハ刑事原告人ノ資格ヲ以テスルヲ以テ勿論ノ事タリ重罪公判ニ付スル言渡ニ對シテモ之ヲ許スハ公益ノ保護者タル資本ヲ以テシ又裁判所管轄ハ公益ニ干スルコト至大ナルヲ以テ之レヲ許シタルナリ

檢事被告人共ニ抗告ヲ爲スヲ得サルハ區裁判所移送ノ決定及輕罪公判ニ付スル決定是ナリ

○第百七十三條　重罪公判ニ付スル場合ニ於テ被告人ニ送達ス可キ決定ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ其記載ナキトキハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ決定ノ送附ヲ爲スヘシ

（註）前條ノ抗告ハ一ノ不服ヲ申立ツル方法ニシテ其期間ハ決定言渡書ノ送達ヨリ三日トス三日ヲ經過スルトキハ抗告ヲ爲ス權利ヲ失フ而シテ其決定書ヲ被告人ニ送達スルニハ必ラス其正本ニ一抗告ヲ爲シ得ヘキヿ其二被告ノ期間ヲ記載セサルヘカヲス是レ被告人ニ注意ヲ與ヘ以テ抗告ノ期間ヲ失ハシメサシラメンカ爲メニスル保護ノ方法タリ若シ此記載ヲ缺ク時ハ抗告期間ノ進行ヲ停止ス故ニ更ニ有効ノ規定ニ從ヒ其方式ヲ具備シタル決定書ノ正本ヲ送達スルニアラサレハ抗告期間ノ經過ヲ始ムルヿナシ而シテ本條ハタヽヒ明文ナキモ重罪公判ニ付スル決定言渡ニツキテ云フノミ蓋其他ノ決定ニハ法律上抗告スルヲ得サルヲ以テ此記載ヲ爲スヘキ理由ナキヲ以テナリ（前條參考）

○第百七十四條　豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間內又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス但保釋責付ノ言渡ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セス

（註）豫審終決ノ決定ノ執行ハ言渡後直チニ執行スヘキニアラス抗告期間內ハ必ラス其執行ヲ停止スヘキモノトス其期間內ニ抗告アリタルトキハ其抗告ニツキテノ決定アルマテハ縱令抗告期間後ニ至ルモ其迄停止セサルヘカラス然レトモ保釋責付ノ言渡ヲ取消ス決定（第百六十八條）ハ被告人ノ逃亡又ハ証憑ノ証減ヲ防クノ必要アルヲ以テ之レヲ停止セサル者トナリタリ本條ハ檢事被告人ノ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ適用スヘキモ此等ノ人ガ抗告ヲ爲シ得サル場合ニハ本條ハ適用スヘキニアラス即チ直ニ豫審終結ノ決定ヲ執行スヘキモノトス

○第百七十五條　豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受ルコトナカル可シ但新ニ証憑アルトキハ此限ニ在ラス新ナル証憑アルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

（註）本條ハ豫審免訴ノ言渡ハ如何ナル効力ヲ有スルヤヲ規定ス豫審終決ノ決定中免訴ノ言渡ヲ除クノ外ハ必ラス公判ニ付セラルモ（其判決ノ効力ハ以下該當ノ處ニ於テ述ブヘ

シ）免訴ノ言渡ハ公判ニ付セラシテ已ムヲ得ス其決定効力ヲ規定セサルヘカラス

免訴ノ言渡確定シタルトキ免訴ノ言渡ハ検事ノミ抗告ヲ爲スヲ得サル検事ガ無爲ニ抗告期間ヲ經過セシメタルカ其期間内抗告ヲ爲シタルモ棄却セラレタルカ此二ツノ一ニ由リテ確定ス）被告人ハ仝一ノ事件ニツキテ再ヒ訴ヲ受クルコトナキ効力ヲ受ク縦令罪名ノ變更アルモノ曩キニハ検事カ故殺ヲ以テ記訴シ豫審ニ於テ免訴ノ言渡アリテ確定シタル時後更ニ謀殺ヲ以テシテモ起訴スルヲ得ス依然同一ノ事件タルヲ以テナリ之レヲ一事不再理ノ原則トス然レトモ豫審決定ニハ絶對的ニ此原則ヲ適用スヘカラス蓋豫審ノ決定ハ唯被告事件ノ果シテ公判ニ付スルニモ足ヘキ証憑ノ有無ヲ決定スルモノニ止マルカ故ニ後日新ナル証憑ヲ發見シタルトキハ尚起訴ノ權利ヲ検事ニ與ヘサルヘカラス而シテ法律ノ所謂新ナル証憑トハ被告事件ヲ決定スル資料ト爲サルモノヲイフ

夫レ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ハ舉ケテ第百六十五條第一乃至第六ノ原由アリ就中本條ヲ適用スヘキ場合ハ犯罪ノ証憑十分ナラサルトキニ言渡ス免訴ナルヘク第二乃至第六ハ縦令新証憑アリタリトテ特殊ノ原由ニ由リテ免訴ヲ言渡スモノナレハ新ニ起訴スルヲヲ得サルヘシ即チ証憑ノ有無ヲ問ハサルモノナレハナリ

此豫審決定ノ効力ニ比シテ大差アルヲ見ル判決ハ直ニ本案ニ入リ被告人罪ノ有無ヲ審判スルヲ以テ一旦免訴又ハ無罪ノ判決アリテ確定シタル時ハ如何ニ著明ナル新証憑殊ニ犯人ノ自白アリタリ迚検事ハ更ニ起訴スルヲヲ許サス是確定判決ヲ以テ公訴消滅ノ原因トナシタル所以ナリ（第六條三號）其理由ハ已ニ説明シタル所ナリ讀者第六條第三號ノ説明ヲ參照セヨ

本條新証憑アリタルニ由リ検事ハ新タニ起訴スルヲ得ルトスルモ輕卒ニ之ヲ許スヘキニアラス必ラス裁判所ノ決定ヲ仰カサルヘカラス是一事不再理ノ例外タルヲ以テ愼重ノ手續ヲ要スルヲトシタルナリ

○第四編　公判

○第一章　通則

（註）公判トハ事實ヲ審明シ法律ヲ適用スル終局ノ處分ヲ云フモノニシテ罪ノ有無輕重ヲ裁斷スルモノ之ヲ判決ト稱ス而シテ公判ハ起訴ノ後（豫審ヲ經由スルト否トアリ）裁判所ニ於テ之ヲ公行スヘキモノナリ（内亂外患ニ關スル罪又ハ猥褻ノ罪ノ如キ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル恐レアルトキハ審判ヲ公開セス）然レトモ公判手續ノ結果タル判決宣告ハ必ラス之ヲ公行セサルヘカラス而シテ本章ハ公判ノ通則ニシテ區裁判所公判地方裁判所公判ヲ問ハス控訴又大審院ノ特別權限ヲ屬スル訴訟ニモ亦之ヲ適用ス換言スレハ公判トイヘハ必ラス此通則ニ從ハサルヘカラサルナリ

○第百七十六條　公判ハ判事、検事、裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトス

（註）公判ノ開廷ニ闕クヘカラサル要素ハ（一）判事　判事ハ司法權ヲ行フ一法人（裁判所）ノ原子タルモノニシテ其任期ハ終身ニシテ刑法ノ宣告又ハ懲戒處分法ニ由ルニ非サレハ其

意ニ反シテ罷免セラルヽトナリ其詳細ハ裁判所構成法ニ就テ見ヨ(二)檢事　檢事ハ公訴ノ原告者ニシテ又公益保護ノ職掌ヲ帶フル修身官ナリ　檢事ノ出廷ヲ以テ公判開廷ニ必要ナル條件トシタルハ如何檢事ハ公訴ノ原告ニシテ被告人ト相對シテ訴訟ヲ爲スモノナリ民事ノ訴ニ於テハ原告若クハ被告ノ一方ガ出廷セサルトキハ他ノ一方ノ申立ニ由リ欠席判決ヲ爲スコヲ得然ルニ公訴ノ原告タル檢事ノ出廷ナキトキハ公判ヲ開廷スルヲ得ストスルハ檢事ハ他ノ一面ニ於テハ公益保護ノ任ヲ帶フルヲ以テ檢事ノ出廷ヲ以テ公判開廷ノ要素トシタルナリ被告ノ出頭ナキトキ闕席ノマヽ判決ヲ下シ敢テ其出廷ヲ必要トセサルハ刑事民事ヲ問ハサルナリ)(三)裁判所書記判事檢事其他ノ人ノ口供ヲ錄取朗讀スルノ職務ヲ帶ヒ是亦公判ニハ必要ノ要素トス故ニ此要素ノ一ヲ欠クトキハ公判手續ハ無效トナリ何ノ効果ヲモ生セス即時効中斷ノ効力ヲ與ヘサルカ如キ是ナリ

○第百七十七條　被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但守卒ヲ置クコトアル可シ

(註)被告人ノ身体自由ノ權利ヲ規定ス夫レ被告人ハ未タ有罪ノ判決ヲ受ケサル間ハ法律上有罪トノ權測ヲ下スコヲ得ス故ニ妄ニ身体ヲ勾束スヘカラス(禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルニ非レハ勾留狀ヲ發スルヲ得ス)而シテ公判ニハ如何ナル重大ナル罪惡ヲ犯シタルモノト雖勾束セラレス蓋シ身体ノ勾束ハ從テ精神ノ不自由ヲ惹起ス自由ナラサル精神ヨリ出タル供述ハ被告人ニ利ナルト不利ナルトヲ問ハス實情ヨリ出テサルヲ以テ信憑スルニ足ラス是ヲ以テ身体自由ノ權利ヲ與ヘ以テ昔時拷問ノ舊習ヲ一洗シタルナリ然レトモ被告人ニシテ狂暴冥頑ナルカ逃脫ヲ圖ル等ノ虞アルトキハ守卒ヲ置クヿヲ得タリ是レ有罪ノ人ガ網絶ヲ逃レ以テ刑ノ執行權ヲシテ薄弱ナラシムルヲ防クニ出ヅルナリ

○第百七十八條　裁判所ニ於テハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

(註)裁判所ハ何レノ場合ヲ問ハス勾引狀若クハ勾留狀ヲ發スルヲ得ルトイフニアラス檢事ヨリ請求ヲ受ケ一應呼出狀ヲ受ケタルモ(二一三)之ニ應セサルトキ本條ニ從ヒ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルヲ得ヘキナリ而シテ罰金ノ刑ニ該ル輕罪及違警罪ニハ縱令呼出ニ應セサルモ勾引狀勾留狀ヲ發スルヲ得ス欠席判決ヲ爲スヲ得ヘキノミ禁錮以上ノ刑ニ該ヘキ云々ノ反對理由ヲ以テ知ルヘキナリ(豫審ニハ罰金ノ刑ニ該ルヘキモノト雖勾引狀ハ之ヲ發スルヲ許シタリサレドモ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト雖勾引狀ハ之ヲ發スルヲ許シタリサレドモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルヲ得サルハ豫審公判共ニ同一ナリ)

○第百七十九條　被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得

辯護人裁判所所屬ヲ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ但シ裁判所ノ允許ヲ得ルトキハ辯護士ト(註)豫審ニハ口頭辯論ヲ用ヒス公判ニハ必ラス辯論ヲ開クヲ以テ甲ニハ辯護人ヲ用フルヲ得ナラサル者ト雖モ辯護人ト爲スコトヲ得

ヲ得サルモ乙ニハ之ヲ用フルコヲ得被告人ハ辯護權ヲ有スルヲ以テ其權利行使ノ爲メ特ニ辯護人ヲ用フルコヲ得セシム一方ニハ公訴ノ原告ヲ設ケ法律ヲ精通スル檢事ヲ以テ之ニ充ツ之ガ對手人タルモノハ盡ク法律ヲ知ルモノニ非ス故ニ辯解疏明ヲシテ自己ヲ防護スルカ爲メニハ辯護人ナルモノヲ設ケサルヘカラス而レトモ辯護權ハ被告人ニ於テ之ヲ拋棄スルヲ得(一八二)但重罪ニ於テハ之ヲ拋棄スルヲ許サス(一三七)是ヲハ被告人ニ辯護人ヲ付スルハ官ニ被告人權利ノミナラス又社會ノ權利タルトイフナリ辯護人トナルヲ得ヘキモノハ裁判所所屬ノ辯護士ヲ本則トス但例外トシテ裁判所所屬ニ非サル辯護士又ハ辯護士ニ非サル者(親戚故舊屬人ノ如キト雖裁判所ノ許可ヲ得タルトキニ限リ辯護人トナルヲ得ヘキナリ

○第百八十條　辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記錄ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得

(註)　辯護人ハ被告人ノ適法ナル利益ノ代表者ナルヲ以テ訴訟記錄ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルヲ得是レ辯護ノ方法ヲ盡サシメンガ爲メナリ且辯護人ハ被告人ノ不利益ニ於ハ代表スルノ權利且義務ナキヲ以テ苟クモ被告人ノ不利益タル事實ナランカ之ヲ供述スヘキ義務ナシ又辯護人ハ自由ニ被告人ト面接通信スルヲ得且辯護上必要ナル通知ヲ受ケ又公廷ニ於テ判事檢事又ハ証人民事原告人等ニ對シテ必要ナル質義ヲ爲スヲヲ得之ヲ要スルニ被告人ノ爲スヲヲ得ヘキ訴訟行爲ノ一切ハ辯護人ニ於テ盡ク之ヲ行フヲヲ得ルト斷言シテ可ナルヘシ

○第百八十一條　被告人ノ法律上代理人ハ其補佐人ト爲リ辯論ニ與カルコトヲ得

(註)　法律上代理人ノ何者タルヤハ已ニ說明セリ蓋シ法律上代理人ハ無能力者ヲ保護スルノ義務ヲ有シ民事上無能力者一切ノ所爲ニツキ其責ニ任ス故ニ無能力者ノ犯罪ニシテ一面ニ於テ私訴ヲ生シタリトセン民事擔當人資格ヲ以テ損害賠償ノ責ヲ受クルヲアリ夫レ然リ無能力被告人タルトキハ其公訴ニツキテ判決ハ民事上ニモ至大ノ影響ヲ及ホスヘケレハ法律上代理人ハ自己ノ利益ニ於テモ被告人ヲ補佐シテ其辯論ニ與カルヲヲ許サヽルヘカラス況ンヤ被告人ノ利益ヲ保護スルカ任アル者ナルヲヤ

○第百八十二條　被告人出頭シテ辯論スルコトヲ肯セサルトキハ對席トシテ裁判ヲ爲スヲ可シ被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタルトキ亦同シ

(註)　法律ハ被告人ニ辯護ノ權ヲ與ヘタルニ由リ被告人出頭ノ上自由ニ辯論ヲナスヲヲ得ヘシ然ルニモシ被告人カ辯論スルヲ肯ンセサルハ是レ法律カ當然與ヘタル辯護權ヲ拋棄シタルモノトイフヘシ且闕席審問ノ事實ヲ知了セサルニ非ス故ニ其受ケタル判決ハ純粹ノ對席ニシテ彼ノ闕席判決ノ如ク故障ヲ申立ツルヲヲ許サス

(第二百二十六條闕席判決ト對照セヨ)マタ裁判長ハ公廷內取締ノ權利ヲ有シ審問ノ秩序ヲ維持スル義務アルカ故ニ被告人ニ於テ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ退廷ヲ命シ又ハ勾留ヲ命スルヲヲ得ヘシ(是レ刑罰ニアラス一ノ取締處分ナリ)從

テ被告人ハ辯護權ヲ行使スルヲ得サルモ是レ自己ノ過失トイフヘク判事ハ對席トシテ判決スルヲ得ヘシ但其日ニ於テ審問終了セス次日ニ及フトキハ退廷又ハ勾留ヲ受ケタル被告人ト雖必ラス出頭ヲ命セサルヘカラス是レ被告人カ悔悟改悛(カイゴカイシュン)スルヲ待ツテ刑ヲ減スルカ爲メナリ次ニ注意スヘキアリ被告人辯論ヲ肯ンセス又ハ勾留退廷ヲ命セラルヽモ其辯護人ハ獨立シテ辯論ヲ爲シ得ヘキハ勿論也

○第百八十三條　被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ

若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲ス コトナク裁判ヲ爲ス可シ

（註）本條モ亦被告人ガ辯護權ヲ有スル理由ヲ以テ說明スルヲ得ヘシ

（甲）辯論前ノ發病　被告人カ辯論前精神錯亂ト其他ノ疾病トヲ問ハス發病タルトキハ其痊癒(ヒンユ)ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス是ヲ被告人ノ辯護權ヲ尊崇スルニ出ツ（乙）辯論中ノ發病辯論中被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後新タニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒マテ辯論ヲ停止スルハ勿論痊癒ノ後新タニ辯論ヲ爲ス可キハ本條ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

以上ニ涉リ檢事其他訴訟干系人ガ新ニ辯論ヲ爲スヘキコヲ請求シタルトキハ(2)ノ場合ト同シ是レ事件ノ遺忘(ワスレ)ニ由リテ無効ニ屬スルニ由ル）（丙）辯論終結（事實及法律ノ辯論ヒ）後發病　最早被告人辯護權ニハ關係ナシ故ニ其痊癒ノ後裁判言渡ヲスヘキノミ

○第百八十四條　裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラス但辯論ニ由リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス

若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本條ハ「告ケサレハ理セズ」ノ原則ニ外ナラス是レ裁判所ノ權限ヲ明カニスル條文ナリ故ニ檢事カ窃盜事件ニ就テ起訴シタリトセン裁判所ニ於テ同一ノ被告人ガ他ニ之ヨリ重大ナル犯罪假令謀殺罪ヲ犯セシコヲ發見スルモ其謀殺事件ヲ告發シ以テ起訴セシメサルハ格別是レ檢事ノ訴ノ提起ナキヲ以テナリ但檢事其謀殺罪ニシテ(二)辯論中ニ發見シタルモノ是ナリ畢竟事實ノ發見審理ヲ便宜ナラシムルノ方便ニ出ツマタ附帶犯ト雖モ訴ヲ受タル事件ニツキ辯論終結ノ後發見シタルハ必ラス更ニ檢事ノ起訴ナクンハ之ヲ審理スルヲ許サス而シテ辯論終結ノ事件ニツキ判決ヲ宣告スヘキノミ其附帶犯罪ノ何物タルヤハ次條ニ至リテ說明スヘシ

○第百八十五條　左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一　同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

第二　數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三　自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

（註）本條ハ附帶犯ノ何物タルヤヲ規定ス附帶犯ニ附シテ本案ノ犯罪ナル名稱ヲ設クルヲ便利ナリトス（卽チ訴ヲ受ケタル事件）故ニ附帶犯トイヘハ必ラス本案ノ犯罪ヲ想像スルヲ以テ數罪アリトス

（一）各犯罪ノ場所時日同一ナルトキ（但犯人ノ一人ナルトニ人以上トヲ問ハス）例之強盜シテ強姦スルカ如キ（一人數罪）又甲乙ノ鬪毆ニ乘シテ甲乙ノ財物ヲ拐帶スルカ如キ數人數罪）是ナリ此場合ニ於テ強盜事件ニツキ起訴アリタルトキハ強姦ニツキ起訴セサリシモ辯論中ニ之ヲ發見シタル檢事ノ起訴ヲ待タス直チニ附帶犯トシテ審理シ得ルヲトナルナリ

（二）各犯罪ノ時日及場所各異ナリタルモ數人ノ間通謀アリシルトキハ尙ホ之ヲ附帶犯トスルヲ得　此場合ニハ唯通謀アリタルヲ要ス

（三）（甲）自己ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ他ノ一罪ヲ犯シタルトキ（乙）自己ノ已ニ犯シタル罪ヲ免レンカ爲メ他ノ罪ヲ犯シタル場合（一人數罪）（丙）他人ノ犯罪ヲ容易ニセシメンカ爲メ已レ他ノ罪ヲ犯シタルトキ（丁）他人カ已ニ犯シタル罪ヲ免レシメンカ爲メ已レ他ノ罪ヲ犯シタルトキ（數人數罪）此四个ノ場合ニハ各犯罪ノ犯情相牽連スルヲ以テ附帶犯トス但（丙）（丁）ハ數人ノ間通謀アリタルトキハ（二）ノ場合ニ由リ附帶犯タルヲ得ルヿ勿論ナルヲ以テ玆ニハ通謀ナキ場合ヲ想像スヘキナリ又此四个ノ場合カ時日場所同一ナルトキハ（一）ノ場合ニテ已ニ附帶犯タルヘク故ニ時日場所ノ同一ナラサル場合ヲ想像スヘキナリ

此等附帶犯ノトキニハ不先不理ノ原則ニ例外ヲ設ケ以テ事實審理ヲ便利ナラシムルヿノミタルナリ

○第百八十六條　檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲナスコトヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理スヘカラサル言渡ヲ爲スコトヲ得

（註）一管轄違ノ申立　管轄ニハ犯罪ノ種類ニ干スル者ト土地ノ區別ニ關スルモノトアリ裁判所ハ管轄外ノ事件ヲ裁判スルノ權限ナシ故ニ此權限ニ負キタルトキハ其判決ハ無効タリ故ニ本案ノ判決アルマテ何時タリトモ此申立ヲ許シ以テ被告人カ正當ノ管轄裁判所ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ伸ヘシムヘク又檢事ハ公益保護ノ職掌アルヲ以テ此申立ヲ爲スヿヲ得ヘシ（檢事ノ申立ツヿヲ得ヘキ此理由ハ次ノ場合ニモ通用ス）

第二公訴受理スヘカラサル申立　本法第六條ニハ公訴消滅ノ原由ニツキ六个ノ場合ヲ明

示シタリ此場合ノ一アルトキハ撿事被告人ハ第一ノ場合ト同シク、案ノ判決アルマテ何時タリトモ申立ツルヿヲ得サルヘカス

法律ハ本案ノ判決アルマデト掲ケタルハ一見解スヘカラサルカ如シ雖此二个ノ申立ハ元來本案(卽罪ノ成立不成立)ニハ干系ナシ之ヲ妨訴抗弁(バウソカウベン)トイフ民事ニテハ通常妨訴抗弁ハ本案ノ辯論前ニ於テセサレハ之ヲ爲スノ權利ヲ失フコトヽナリタリ然レトモ刑事ハ公益ニ干スルモノナルカ故ニ本案ノ辯論前此妨訴抗辨ヲ提出シ得ルハ勿論本案ノ辨論中ト雖未タ決判ヲ受ケサル間ハ之ヲ提出スルヿヲ許シタルナリ然ラハ本案ノ決判アリタルトキハ之ヲ如何ンスルヤ曰ク此申立ヲ爲スヘカラサルヤ勿論ナリ但第二百五十條以下及第二百六十七條以下ニ依リ上訴スルノ方法ヲ設ケタリ

○第百八十七條　裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

(註)　撿事被告人前條二箇ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ判決ヲ以テ之ヲ裁斷セサル可ラス而シテ其判決ヲ二種ニ區別シ申立ヲ至當ナリトスルトキハ管轄違ノ言渡若クハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘク(二二二、二二四末文)卽是ニテ結局判決トナルヘシ然ルニ其申立ヲ却下シ卽管轄違ニ非ス正當ノ管轄權ヲ有セリ若クハ公訴未タ消滅セス故ニ受理スルノ權利アリト言渡シタルトキハ尙本案ニツキ審理セサルヘカラス故ニ此言渡ノ性質タル中間判決トイフヘキナリ而シテ申立人不服ナルトキハ直ニ此中間判決ニ對シ控訴上告ヲ許シ其間本案ノ辨論ヲ停止セサルヘカラス從テ本案ノ判決ヲモ下スヿヲ得カラス(此中間判決區裁判所ト假定ス)ニ對シ控訴アリテ控訴裁判所カ地方裁判所前判決ヲ改正シ卽管轄違ナリ若クハ公訴消滅セリトノ言渡確定シタル時ハ本案區裁判所ニ屬スルハ從テ消滅スヘク之ニ反シ前判決ヲ至當トスルトキ本案區裁判所ニ屬スルニツキ更ニ辯論ヲ繼續シ判決ヲ下スコトヽナルナリ

○第百八十八條　調書ヲ作リタル司法警察官ハ撿事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スコトヲ得

(註)　司法警察官ハ搜査豫審ノ場合ニ於テ調書ヲ作ル場合アリ卽假リニ豫審處分ヲ行ヒタルトキ(一四七現行犯)ノ如シ盖司法警察官ハ假リニ豫審處分ヲ行ヒタルカ如キ其調書ハ或ハ明瞭(メイレウ)ヲ欠キ或ハ不確實(カクジツ)タルヲ免カレサルヘク是レ証人トシテ之ヲ呼出シ其時ノ摸樣ヲ供述セシムルヲナシタルナリ此反對理由ヲ以テ豫審判事ハ決シテ証人トシテ呼出サルヽヿナシ豫審判事ノ作リタル調書ハ明瞭確實ナリト推測スヘク縱令然ラサルモ之ヲ呼出ストキニハ其官ヲ辱ムノ嫌アレハナリ

○第百八十九條　豫審ニ於テ訊問シタル証人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定付ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル証人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其証人鑑定人ヲ呼出ササルトキ証人鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較ス可キトキハ